

始



新編定本

新編定本  
高等小學  
全科自修辭典



東京  
誠文書院

國語漢文調查研究會編

新國定準據  
高等小學  
全科自修辭典

東京 誠文書院

14  
國語漢文調查研究會編

新國定準據  
高等小學  
全科自修辭典

東京

誠文書院



注 意 書

一 學問せんとする人は、先生から教へて戴くのばかり頼みにし、手を擧げて待つて居るやうでは逆もだめである。どうしても自分で骨を折つて勉強せねばならぬ。

二 然し、如何に自分で勉強しやうとしても、自分を助けてくれるものがなくてはならぬ。父母兄弟大によろしい。しかし父母兄弟は夫々用事があつて、逆も朝夕諸君のそばに附いて居て下さる譯にはいかない。

三 そこで、どうしても字書の必要が起る。この書は其の必要を補ふために、責任を負つて世に出たのである。

四 世に字書なるものは數限りなく出て居る。しかし或るものは、あまり専門的に流れ諸君にはむづかし過ぎ、亦或るものは、一般の解釋であ

緒言

つて、實際其の場所にあてはめて見ると意味が通せぬ。こんな工合で、諸君に「ナルホド、サウカ」とうなづかせるものは誠に少い。

**五**この書は、このやうなところに注意してあるから、實際、讀本や、修身や、其の他の書にある難字、難語を、この書によつてさがせば、痒いところ、手に手の届くやうな感じがするのである。

**六**前に述べたやうに、この書は諸君の利便をのみ考へて作つたのであるから、次のやうに澤山の特長がある。

**イ**書引 書の際難字難語に出遇つたとき、諸君がさがし易いやうに總書引にした。尤も極めて卑近なる語、亦は教科書に詳しく述べてあるものは、解釋を省いて音讀だけをつけたところもある。

**ロ**音引 又、文章などを綴るときに、漢字を忘れたりして困ることがあるから、音引を入れて、發音(假名遣ひによらず)でたやすく其の文字をさがし得

るやうにした。

**ハ**字音假名遣 漢字に假名をつけやうとしても、一寸わからぬことがある。たとへば、「勉強」はペンキョウやら、ペンキヤウやら、ペンケウやら、ペンケフやら、一寸わからぬ。こんな場合にも不自由のないやうに字音假名遣を附けた。

**ニ**國語假名遣 國語にしても其の通り、「芭蕉」はバシヨウやら、バシヤウやら、バセウやら、バセヲやら、又、「申す」はモウスやら、モフスやら、マウスやら、マフスやら、一向わからぬことが、まゝある。そこで國語假名遣を附して諸君の便をはかつた。

**ホ**誤り易き漢字 漢字には、よく似よつた文字が、たくさんあるので、讀むとき、書くとき、まゝ誤る。故にこの書には、誤り易き漢字を擧げて諸君に注意を與へた。

へ誤りたる漢字<sup>緒言</sup> 又世の人が普通に書いて居る文字で、間違つて居るものが少くない、たとへば、「面會」「學歷」などは、四つとも皆違つて居る。こんなことから、折角の入學試験などで落されることがすくなくない。それでこの書には其の誤りたる漢字を附して諸君に注意を與へた。

ト俗語と英語 廣く用ひられ居る俗語や、簡易なる英語などもこの書にをさめてある。

七これだけそつて居たら、まづ諸君は、どんな場合に於ても不自由はあるまい。諸君の利便をはかつたことは、これでよくわかる。

八この書は、高等小學校生徒諸君のために、作つたのではあるが、中學校生徒諸君は勿論、中等程度の學校へ入學せんと欲する諸君、並に實業に従事し居らるゝ諸君の參考書としても、おそらくこの書の右に出づるものはあるまい。

國定準據 高等小學 全科自修辭典目次

索引

一 畫	.....一	三
二 畫	.....三	五
三 畫	.....五	三
四 畫	.....三	四
五 畫	.....二	四
六 畫	.....四	三
七 畫	.....六	五
八 畫	.....五	七
九 畫	.....七	九
十 畫	.....七	九
十一 畫	.....七	九
十二 畫	.....七	九
十三 畫	.....七	九
十四 畫	.....七	九
十五 畫	.....七	九
十六 畫	.....七	九

目次

目 次

十七畫 ..... 二四二 ..... 二五一  
 十八畫 ..... 二五一 ..... 二五六  
 十九畫 ..... 二五六 ..... 二六〇  
 二十畫 ..... 二六〇 ..... 二六五  
 二十一畫 ..... 二六五 ..... 二六七  
 二十二畫 ..... 二六七 ..... 二六九

音 引 部

ア ..... 二七四 ..... 二七九  
 イ ..... 二七九 ..... 二八三  
 ウ ..... 二八三 ..... 二八五  
 エ ..... 二八五 ..... 二八七

二十四畫 ..... 二七一  
 二十五畫 ..... 二七二  
 二十六畫 ..... 二七二  
 二十八畫 ..... 二七三  
 二十九畫 ..... 二七三

オ ..... 二八七 ..... 二九〇  
 カ ..... 二九〇 ..... 二九九  
 キ ..... 二九九 ..... 三〇三  
 ク ..... 三〇三 ..... 三〇五

目 次

ケ ..... 三〇六 ..... 三〇八  
 コ ..... 三〇八 ..... 三二四  
 サ ..... 三二四 ..... 三二六  
 シ ..... 三二六 ..... 三三二  
 ス ..... 三三三 ..... 三三四  
 セ ..... 三三四 ..... 三三七  
 ソ ..... 三三七 ..... 三三九  
 タ ..... 三三九 ..... 三三二  
 チ ..... 三三二 ..... 三三四  
 ツ ..... 三三四 ..... 三三六  
 テ ..... 三三六 ..... 三三七  
 ト ..... 三三七 ..... 三三九

ナ ..... 三三九 ..... 三四〇  
 ニ ..... 三四一 ..... 三四二  
 又 ..... 三四二 ..... 三四三  
 ネ ..... 三四三 ..... 三四四  
 ノ ..... 三四四 ..... 三四四  
 ハ ..... 三四四 ..... 三四九  
 ヒ ..... 三四九 ..... 三五三  
 フ ..... 三五三 ..... 三五六  
 ヘ ..... 三五七 ..... 三五八  
 ホ ..... 三五八 ..... 三六〇  
 マ ..... 三六〇 ..... 三六一  
 ミ ..... 三六一 ..... 三六四

目次

ム	三六四	三六五
メ	三六五	三六六
モ	三六六	三六八
ヤ	三六八	三六九
ユ	三六九	三七〇
ヨ	三七〇	三七二
ラ	三七二	三七三
リ	三七三	三七五
ル	三七五	三七六
ロ	三七六	三七七
ワ	三七七	三七八

附録

一	字音假名遣	三七九	三九三
二	國語假名遣	三九四	四〇四
三	誤り易き文字	四〇五	四〇八
四	誤りたる文字	四〇九	四二二
目次終			

新國定準據  
高等小學

# 全科自修辭典

國語漢文調查研究會編

一畫

一刹那	イチセツナ	1. ちやうどそのとき 2. みじかい間	讀女二、三〇
一旦	イツタン	とよむ いちごのこ	歴一、二九
一擧	イツキョ	ひとはたらし	歴二、二七
一端	イツタン	ひとほし	讀女二、三九
一目瞭然	イチモクレウゼン	一目であきらかなること	讀三、三〇
一切	イツセツ	すべてのこ	歴三、二〇
一入	イツトク	一そり	讀女二、一八



一週 イツシウ ひとまほり 讀女二、四  
 一様 イチヤウ おなじ 地一、一  
 一体 イツタイ とよむ 地二、二  
 一般 イツパン みんなの、ぜんたいの 修三、七  
 一統 イツトウ ひとすべ 地一、一  
 一年の折々 オリオリ とよむ 讀女二、三  
 一貫 イツクワン 一すぢにつらぬく 歴三、二〇  
 一世一元の制 イツセイイチゲンノセイ 御在位中年號を御かへなまらぬさだめ 歴三、六  
 一途 イツト ひとすぢ 歴三、六

一生 イツシヤウ 生れてから死ぬまで 修三、二五  
 一刻千金 イツコクセンキン すこしの間も千兩のあたひあり 讀女二、六  
 一種無限 イツシユムゲン 何とも云へない感じ 讀四、二  
 一色 イツシキ と讀む 歴三、一  
 一輪 イチリン 花一ツ 讀女二、三  
 一 イツタイ ひとつづき 歴三、二〇  
 一對 イツツイ ニツ即ち一組 算三、四  
 一筋 ヒトスヂ とよむ 算二、四七  
 一尋 ヒトヒロ と讀む(六尺の長さ) 算二、六

二 畫

一望無限 イツバウムゲン 廣々としてかぎりのないこと 讀二、二  
 一 イツ 1. ヒトツ 2. ハジメ 3. ヒトシ 4. オナツ 5. ワツカ 6. カズ  
 一寸 イチヨウ すこしの間  
 一系 イツケイ ひとすぢ  
 一手販賣 イツテハンバイ とよむ  
 一致協同 イツチケウドウ 多くの人が一つ心になること  
 一心不亂 イツシンフラン いつしようにけんめい  
 一氣呵成 イツキカセイ ひといきにしあげること

二 畫

七重 ナナヘ とよむ 歴一、九  
 七堂伽藍 シチドウガラン とよむ 讀三、四  
 七寶燒 シツバウヤキ 名古屋より出づるやきもの  
 七顛八倒 シツテンハツオウ ひじやうなぐるしみ  
 八百屋 ヤチヤ とよむ 讀女二、四  
 八咫鏡 ヤタノカガミ 三種の神器の一 歴一、一  
 八坂瓊勾王 ヤナカニノマカタマ 三種の神器の一 歴一、一

人格 ワシカク ひとがら  
 人心 シンシン 人の心  
 人材登庸 シンザイトウヨウ すぐれた人をあげもちふること  
 人造林 シンザウリン 人がうゑつけたはやし  
 人身 ジンシン 人のからだ  
 人身解剖 ジンシンカイボウ 人のからだをきりわけること  
 人情 ニンジンヤウ 人のなさけ  
 人事不省 ジンジフセイ 死んだやうになつて何もうわからなくなること  
 人品 ジンピン ひとがら  
 歴一、七  
 歴二、七  
 地三、二  
 地三、二  
 地三、五  
 歴二、六  
 讀女二、三  
 讀一、三

人世 ジンセイ 人の一生  
 人質 ヒトシチ と讀む  
 人類 ジンルキ ひと  
 人員 ジンイン ひとかす  
 入營 ニフエイ 兵營に入つて兵士となること  
 入滅 ニフメツ 死すること  
 入江 イリエ いりうみ  
 丁抹 デンマルク とよむ  
 丁寧 テイネイ と讀む  
 讀三、元  
 歴三、二〇  
 地三、七  
 算一、二  
 修四、三  
 修三、元  
 地三、六  
 地一、三  
 修三、二

三畫

丁稚 テウヂ とよむ  
 商店なごの小僧  
 丁度 テウウド とよむ  
 算一、四  
 十字架 ジュウカ とよむ  
 讀女二、二  
 十進法 ジュウシンハフ と讀む  
 十づつで上にすすむもの  
 刀劍 タウケン かたな  
 算一、六  
 刀圭 タウケイ 醫家  
 讀女一、九  
 了解 レウカイ わかること  
 アヒグチ  
 匕首 ヒコウ 小刀  
 了承 レウシヨウ わかること  
 三畫

大抵 ダイテイ おほかた  
 讀女二、二  
 大言壯語 ダイゲンサウゴ 1. 大きなことや立派なことを口にすること  
 讀一、元  
 大義 ダイギ 2. ほらふき  
 歴一、八  
 大義名分 ダイギメイブン 1. おほいなるぎ  
 歴三、五  
 2. 人のまもるべき節義と分限  
 歴二、一六  
 大統領 ダイトウリヤウ と讀む  
 大學頭 ダイガクノカミ と讀む  
 歴三、三  
 大御手代 オホミテシロ とよむ  
 讀三、一〇

大舉 <small>ダイキョ</small> 大ぜいこぞつて	歴一、三	大和地方 <small>ヤマトノヘ</small> とよむ	歴一、二
大伽藍 <small>ダイガラン</small> 大きな寺	歴一、五	大江廣元 <small>オホエヒロモト</small> とよむ	歴一、五
大神 <small>オホミカミ</small> と讀む	歴一、一	大切 <small>ダイセツ</small> だいじな	修三、四
大寶律令 <small>ダイハウノリツリヤウ</small> とよむ	歴一、七	大陸性 <small>ダイリクセイ</small> とよむ	地三、五
大審院 <small>ダイシンケン</small> いばん上のさ	地三、九	大洋洲 <small>オセアニア</small> とよむ	地一、二
大氣 <small>ダイキ</small> くうき	地三、一	大厦高樓 <small>タイカカウロウ</small> 大きい家や高い家	讀四、八
大喪 <small>ダイサウ</small> 天子さまがおかくれ になつたかなしみ	歴三、七	大概 <small>タイガイ</small> たいてい	讀三、五
大事 <small>ダイジ</small> 大きなできごと	修四、二	大和民族 <small>ヤマトミンゾク</small> とよむ	地三、七
大織冠 <small>ダイシヨククノン</small> とよむ	讀三、五	大運河 <small>ダイウンガ</small> 大きなほりわり	地一、一

大連 <small>オホムラシ</small> とよむ	歴一、五	三種神器 <small>サンシュンノシナギ</small> とよむ	歴一、一
大坂商船 <small>オホサカシヤウセン</small> とよむ	地三、三	三更 <small>サンカウ</small> よふけ	三
大臣 <small>オホオミ</small> とよむ	歴一、五	三々九度の杯 <small>サンサンクド</small> さかさぐさぐさ	讀女一、三
大山椒魚 <small>オホサンセウウヲ</small> とよむ	讀三、八	山脈 <small>サンミヤク</small> 山の脈	地一、一
大腿骨 <small>ダイタイコツ</small> ふともものほね		山鹿流 <small>ヤマガリユウ</small> 山鹿素行の 始めた兵學	讀四、七
三層の樓 <small>サンソウ</small> 三がいつくりの家	歴三、一	山容 <small>サンヨウ</small> 山の形	讀四、一〇
三伏 <small>サンブク</small> 夏の暑さを云ふこと	讀四、七	山東 <small>サントウ</small> とよむ	地一、一
三軍 <small>サングン</small> 國家全體の兵	讀三、二	山岳 <small>サンガク</small> やま	地一、三
三界中 <small>サンガイチュウ</small> 水と陸と、氣と	地三、一	山崎闇齋 <small>ヤマザキアンサイ</small> と讀む	歴二、三

山崎 ヤマザキ と讀む

山内家 ヤマノウチケ と讀む

山羊 ヤギ とよむ

山内豊信 ヤマノウチトヨノブ と讀む

山車 ヤマクルマ ぬなかの祭禮に  
引き廻すもの

山葵 ヤマカイ 草の名

不慮の争 フリュウノアラソヒ おもひよら  
ぬあらそひ

不慮 フリュウ 思ひがけない

不便に フベイン かあいさうに

歴三、八

歴二、二

理一、一

歴三、七

歴三、一六

讀一、三

讀女一、六

不便 フベイン 便利でない

不明 フメイ わからぬ

不毛嚴寒 フマウゲンカン 草木のはえぬご  
くさむいところ

不毛ノ地 フマウノチ 植物のな  
いところ

不知不識の間 シラズシラス アヒダ しらすに  
なるうち

不善 フゼン よくない

不善感 フゼンカン うへばうさう  
がつかぬこと

不測 フソク おもひが  
けない

不具 フグ かたわもの

地一、一

地二、四

讀女一、四

地三、六

讀女一、三

讀女一、七

讀女一、三

讀女一、九

修三、一六

不吉 フキツ 1.不幸なこと  
2.よくない出来事

不幸 フカク ふしあはせ

不正 フセイ たゞしくないこと

不快 フクワイ こころもちの  
よくないこと

不行届 フキョトドキ ゆきとど  
かぬこと

不相應 フサウイウ 分にすぎ  
たこと

不夜城 フヤヤク 夜も晝のやうに  
賑かなところ

不時 フジ とつぜんの

不敬 フケイ とよむ

修四、八

修四、五

修三、一五

修四、九

讀女一、八

讀女一、八

讀四、一六

修三、五

歴一、七

不孝 フカウ かうかうでないこと

不逞 フテイ ふまんぞく  
に思ふこと

不興 フキョウ はらだち

不比等 フヒト とよむ

不朽 フキウ ちぢぬこと

不同 フドウ 1.おなじでない  
2.そろはないこと

不和 フワ なかちがひ

不覺 フカク 1.おくれ  
2.油断して失策すること

不賤 フシツ しつけのわるい

修三、二

歴三、一

讀三、二

歴一、八

讀三、三

歴二、一八

歴一、一六

讀三、一七

讀女一、八

不平 フヘイ きにくはぬ 歴一、三  
 不義 フギ みちにかけてたこと 歴三、五  
 不意 フイ だしぬけ 歴三、七  
 不問に附し難し フモン だまつてきか 歴三、九  
にゆかぬといふこと  
 不如意 フニヨイ 心のままに  
 不能配達 フノウヘイダツ はいたつので 讀三、三〇  
 不凍港 フトウカウ 冬になつても、 地一、五  
ほらぬみなど  
 上流社會 シヤウリウシヤクワイ とよむ 地二、七  
 上洛 シヤウラク みやごにの 歴三、七

上諭 シヤウユ みことのリ 讀四、三  
 上總介 カッサノスケ とよむ 歴一、二  
 上甲板 シヤウカンパン 上のかんばん 讀女一、一  
 上品 シヤウヒン じやうと 讀女一、三〇  
うのしな  
 上梓 シヤウシ 出版すること  
 上奏 シヤウソウ 天子さまに申 地一、一  
し上ぐること  
 下流 カリウ 川のしも 歴一、二  
 下總 シモフネ とよむ 讀三、三  
 下知 ゲヂ 號令

下弦の月 カグシ 十五日以後の月 讀三、二  
 下劣 ゲロツ いやしくおと 讀女一、七  
りたること  
 下垂 カスキ したにたれる 讀女一、三〇  
 下戸 ゲコ 酒を好まぬ人  
 下水 ゲスキ どぶの水 讀三、六  
 子貢 シコウ とよむ 修三、四  
 子孫 シソン 1.こやまご 2.あとあとまで  
 子弟 シテイ こども 歴二、三  
 夕風 ユフナキ とよむ 夕方海邊に 地三、五  
風のなくなること

三 畫

夕顔 ユフガホ とよむ 讀女一、二四  
 小爲替 コガハセ 五圓以下 算三、八  
 小銃 セウジウ てつぱう 歴三、六  
 小數 セウスウ 一より小さなかず 算一、一  
 小祿 セウロク すくない 讀女一、三  
ちぎやう  
 小函 コハコ 小さなはこ 讀女一、三  
 小田原 コダハラ と讀む 歴二、八  
 千載 センザイ いつまでも 讀女一、七  
 千草 チグサ いろくのくさ 讀女一、三六

千早城 チハヤノシロ とよむ 歴一、二七  
 千秋樂 センシウラク 藝のをほり  
 千里比隣 センリヒリン とほいとこるもと 讀女二、二六  
 才略 サイリヤク さいがあつては 歴三、二四  
 才幹 サイカン 才のはたらき 讀三、三三  
 才能 サイノウ 1.さいのはたらき 修三、二五  
 才氣 サイキ 才能と氣力 讀一、二七  
 土方 ドガタ とよむ 算一、二六  
 土産物 ミヤグモノ とよむ 地二、二二

土着 ドチヤク その土地にな 歴一、二二  
 土筆 ツクシ 草の名  
 土左衛門 ドザエモン 水死者  
 干戈 カンゴ ほこ 歴三、一  
 干涉 カンセツ せはをや 歴三、二〇  
 干潮 カンテウ ひきしほ  
 干瓢 カンベウ 食品の名  
 干満 カンマン しほのみちひき  
 丈夫 チヤウフ たつしや

丈六 チヤウロク 一丈六尺 歴一、二五  
 寸刻 スンコク 一分一秒の間 讀一、二三  
 凡情 ボウシヤウ あたりまへのこころ 讀三、二八  
 女郎花 ヲイナヘシ 草の名  
 工女 コウヂヨ とよむ 歴一、二四  
 口徑 コウケイ 口のさしわたし 算二、二五  
 公衆 コウシウ たくさんの人 修三、二九

四畫

四畫

公園 コウエン 大勢の遊ぶところ 修三、二三  
 公共事業 コウキヨウジギヤウ おほやけなる 讀三、二七  
 公平 コウヘイ かたおちなく 歴一、二七  
 公正 コウセイ だれから見てもうそ 修四、二七  
 公卿 コウキヤウ 公家 歴一、二三  
 公倍数 コウバイスイスウ と讀む 算一、二三  
 公方 コウヘウ 將軍のこと 歴三、一  
 公論 コウロン おほやけのろん 歴三、二八  
 公道 コウドウ おほやけのみち 歴三、二八

公布	国民全體に通 知せらるること	修四、二
公行	おほやけにおこ なはれること	歴三、四
公領	おかみ のたち	歴一、五
分擔	わかち なふこと	歴三、〇
分裂	わか れる	讀三、五
分合	わけたりあは せたり	地一、三
分離	わけ ること	地一、三
分掌	わかちつか さどること	歴三、一
分領	わかち 領する	地一、五
分與	わかちあた ふること	歴三、八
分立	わか れたつ	地三、八
分析	わけ ること	歴三、八
内外本末を誤る	まちがひた るしかたのこと	歴三、五
内外本末を辨す	うち、そと、もと、 えのわきまへ	讀三、三
内應	ひそかに敵を たすけること	歴三、五
内治	うちを さめる	歴三、八
内顧	うちのし んばい	讀女一、八
内幣	皇室の御費用	讀三、〇

内憂	國內の うれひ	讀三、二
内城	と 讀む	地一、一
内心	心の うち	歴一、八
内訌	うちわ ごたごた	歴三、五
内亂	國の うち	歴一、三
内冠	とよむ	歴三、七
内親王	皇女	歴三、七
日星	太陽やほし のこと	歴三、〇
日和	そらあ ひ	讀女一、三
日本郵船	とよむ	地三、二
日繼	天皇陛下の御血統	讀四、六
日割	とよむ	算三、三
日本武尊	とよむ	歴一、三
日本府	とよむ	歴一、三
日中	ひるの うち	地三、五
日光	ひの ひかり	地三、五
日不没	1. 日の没せざる事 2. 領地の多くしていつ も日が没せざる事	讀女一、三
日外	さきこ る	讀女一、三

四 畫

天智天皇 テンシテウ とよむ 歴二、七  
 天山 テンザン とよむ 地一、一  
 天然林 テンネンリン しぜんにてきたはやし 地二、二  
 天威 テンキ 天子さまの ごおくり 歴二、七  
 天産物 テンサンブツ しぜんにてきるもの 地二、二  
 天慶ノ亂 テンキョウラン とよむ 歴二、二  
 天氣 テンキ とよむ 地二、五  
 天神地祇 テンジンヂキ あまつかみ くにつかみ 歴二、八  
 天稟 テンビン うまれつき 讀女二、八

天麩羅 テンブラ 食物の名 歴二、七  
 天鷲絨 テンシヨウ 織物の名 地一、一  
 天井 テンジャウ とよむ 地二、二  
 天日嗣 テンニツキ 天子さまのおよつぎ 歴二、七  
 天壤 テンジャウ あめつち 地二、二  
 天祐 テンユウ かみのたすけ 歴二、二  
 天竺 テンシヨク 今の印度 歴二、二  
 天晴 テンハレ とよむ 歴二、二  
 天職 テンシヨク 天からさだめられたつとめ 讀女二、八

天台宗 テンダイシユウ とよむ 歴二、二  
 太陰曆 タイインレキ きう曆ともいふ 歴二、八  
 太宰府 タイサイフ とよむ 歴二、七  
 太政大臣 タイシャウダイジン とよむ 歴二、二  
 太田道灌 オホタダウヅラン とよむ 歴二、九  
 太陽曆 タイヤウレキ 新曆ともいふ 歴二、一八  
 太古 タイコ おほむかし 歴二、一  
 太平洋 タイヘイヤウ 日本と米國との間にある大海 地一、一  
 太陽 タイヤウ おひさま 地二、一

四畫

中心 チュウシン まんなか 地二、一  
 中性 チュウセイ 酸にてもアルカリにてもなきもの 歴二、二  
 中堅 チュウケン 1. ほんじん 2. 大將の居る軍 歴二、二  
 中興 チュウコウ とよむ 歴二、一八  
 中流 チュウリウ 川の中ほど 地一、一  
 中央政府 チュウウアウセイフ 内閣などのこと 地一、一  
 中宮 皇后 チュウウグウ 歴二、一四  
 中禪寺湖 チュウゼンジヨコ とよむ 地二、三  
 中絶 チュウゼツ たえること 歴二、二



中心市場 チユウシンイチバ

まなかのいちば

地一、三

心酔 シンスイ

1. 一心になること  
2. ものごとくにふけつて心のまよふこと

歴二、五

心事 シンジ

こころ

讀女一、九

心配 シンパイ

と讀む

修三、二

心得違 ココロエチガヒ

まちがったかんがへ

修三、二

心身 シンシン

からだとこころ

修四、二

文庫 ブンコ

書物を入れる庫

讀一、四

文物 ブンブツ

學問のことがら

歴一、四

文才 ブンサイ

文をつくることが  
じやうすなること

歴一、三

文雅 ブンガ

歌文の道をた  
しなむこと

讀一、四

文章 ブンシヤウ

まとまつた文

歴一、三

文字 モンジ

とよむ

歴一、三

文吏 ブンリ

書記のやく

歴三、九

文永、弘安ノ役 ブンエイ、コウアンノエキ

歴一、七

文明 ブンメイ

世の中の開け  
すゝむこと

修四、三

文盲 ブンマウ

あきめくら

讀女一、八

水量 スイリヤウ

みづかさ

地一、三

水夫 スイフ

と讀む

算一、五

水呑 ミツノミ

とよむ

讀女一、三

水澄 アメンボウ

虫の名

地一、三

水力 スイリヨク

みづのちから

地一、三

水屑 ミヅクツ

水中のくづ

讀三、五

水産物 スイサンブツ

水中より産  
するもの

地一、一

水路 スイロ

みづみち

地一、一

水師提督 スイシテイトク

と讀む

歴一、六

手段 シュダン

1. てだて  
2. しかた

修四、三

手續 テツツキ

とよむ

修三、二

手代 テダイ

と讀む 商店な  
どのめしつかひ

讀三、六

手眞似 テマネ

とよむ

讀女一、八

手腕 シユワン

うでまへ

地一、三

手斧 テウナ

てのの音便

讀女一、五

手傳 テウデヒ

とよむ

讀女一、五

手業 テウザ

とよむ

歴一、三

手拭 テヌグヒ

とよむ

讀女一、三

手柄 テガラ

とよむ

讀三、二

手蹟 シユセキ

筆のあと

讀四、六

手間 テマ とよむ 算二、七  
 手習師匠 テナラヒシヤウ かきかたををしへるせんせい 讀女二、六  
 反抗 ハンカウ てむかひ 歴二、二  
 反覆 ハンブク くりかへす 讀三、三  
 反省 ハンセイ 我が身をかへり見ること 修四、四  
 反旗 ハンキ むほんのはた 歴三、二  
 反芻 ハンスウ 一度胃に入れたものを、また口の中に出してかんでたべること 理二、一  
 反對 ハンタイ とよむ 歴二、五  
 方針 ハウシン 主義に同じ 歴二、一〇

方圓 ハウエン 四角やまるい 修三、八  
 方法 ハウハウ やりかた 修三、一  
 方針 ハウシン めあて 讀女二、八  
 方面 ハウホン とよむ 地一、一  
 王仁 ワニ とよむ 歴二、四  
 王政 ワウセイ 天子さまがまつりごとをおとりになること 歴一、五  
 王事 ワウジ 天子さまのおんこと 歴二、九  
 王城 ワウジヤウ 王さまの居るしろ 歴二、八  
 毛利輝元 マウリテルモト とよむ 歴二、七

五更 ゴカウ 今の午前四時ごろ 讀女二、七  
 五月雨 イツル つゆ 讀三、六  
 五月蠅 イツルサイ とよむ  
 六法 ロクポフ 憲法、刑法、民法、刑事訴訟法、民事訴訟法、商法  
 六歌仙 ロクカセン 六人の歌の上手な人 讀四、三  
 六波羅 ロクハラ とよむ 歴二、三  
 比類 ヒルイ 1. たぐひ 2. くらべ 歴二、一  
 比重 ヒチユウ おしき 地三、四  
 比較 ヒカカフ くらべること 修四、三

毛利元就 マウリモトナリ とよむ 歴三、五  
 毛氈 マウセン 毛にておりたるしきもの  
 井上馨 キノツヘカホル とよむ 歴三、九  
 井伊直弼 キイナホスゲ とよむ 歴三、六  
 井然 セイゼン ただしきありさま  
 木戸孝允 キドタカヨシ とよむ 歴三、九  
 木曜島 モクエウダウ とよむ 地二、二  
 木曾 キソ とよむ 地二、三  
 五千載 ゴセンザイ 五千年にななじ 讀四、三

四書

方圓 ハウエン 四角やまるい 修三、八  
 方法 ハウハウ やりかた 修三、一  
 方針 ハウシン めあて 讀女二、八  
 方面 ハウホン とよむ 地一、一  
 王仁 ワニ とよむ 歴二、四  
 王政 ワウセイ 天子さまがまつりごとをおとりになること 歴一、五  
 王事 ワウジ 天子さまのおんこと 歴二、九  
 王城 ワウジヤウ 王さまの居るしろ 歴二、八  
 毛利輝元 マウリテルモト とよむ 歴二、七

五更 ゴカウ 今の午前四時ごろ 讀女二、七  
 五月雨 イツル つゆ 讀三、六  
 五月蠅 イツルサイ とよむ  
 六法 ロクポフ 憲法、刑法、民法、刑事訴訟法、民事訴訟法、商法  
 六歌仙 ロクカセン 六人の歌の上手な人 讀四、三  
 六波羅 ロクハラ とよむ 歴二、三  
 比類 ヒルイ 1. たぐひ 2. くらべ 歴二、一  
 比重 ヒチユウ おしき 地三、四  
 比較 ヒカカフ くらべること 修四、三

仁慈 ニジヤ なさげぶかいこと

修三、二〇

切捨つ キリシ とよむ

算三、七

仁愛 ニジヤ いつくしみ

讀三、六

切齒 キリシ はぎしり

讀三、七

元來 ゲンライ もとより

讀女二、四

切支丹宗 キリシタンシユウ とよむ

歴二、三

元和偃武 ゲンナエンブ と讀む

歴三、九

犬牙錯綜 ケンガサクソウ いりちがふこと

歴二、八

元祿時代 ゲンロクジダイ とよむ

歴三、三

犬追物 イヌオフモノ とよむ

歴一、六

引見 インケン よびよせて  
あふこと

歴三、六

支配 シヘイ せわ

歴二、〇

引力 インリョク ひくちから

地三、四

支流 シリアウ えだがは

地一、三

引導 インダウ みちびき

歴三、二

化學工業品 ケウガクコウグフヒン とよむ

地二、二

引續き ヒキツツ と讀む

歴三、二

化石 クワセキ 動物や植物が  
石になつたもの

地三、三

氏康 ウヂヤス と讀む

歴三、五

天死 テンシ わかじに

歴二、八

氏綱 ウヂツナ と讀む

歴三、五

冗官 ジョウワカン よけいなやくにん

歴二、八

父母 フボ ちちとはは

修三、二

孔雀 クシヤク とりの名

地一、一

父老 フラウ 年老へたる父

讀女二、四

丹誠 タンセイ れつしんに心  
をつくすこと

算三、七

勿論 モチロン むろん

歴三、四

勾配 コウバイ かたむく  
ごあひ

算三、七

火打石 ヒウチイシ とよむ

讀女二、六

介意 カイイ 氣にかける

歴二、七

火山灰 クワザンクワイ とよむ

地三、三

允許 インキョ ゆるし

歴二、七

仇 アタ と讀む

歴三、二

戸籍 コセキ とよむ

歴二、七

仇敵 キウテキ あだ、かたき

讀二、三

欠伸 アツビ たいくつの  
時出るいき

巴奈馬運河 バナマウンガ と讀む

讀四、八

少年士官 セウネンシクワン 年若き士官

讀女二、一

夫唱婦隨 フシヤウフズキ をつとがいはばつまがこれにしたがふこと

讀女二、八

牛酪 ギウラク 牛乳をかほかしたものは

地二、三

友愛 イウアイ 友をあいすること

修三、三

爪牙 サウガ つめときば

歴二、二

匹夫下郎 ヒツブゲラウ 身分のいやしき人

讀二、三

什器 ジツキ だうぐのこと

讀四、二

尺貫法 シヤククワンハフ と讀む

算一、八

五 畫

失體 シツタイ ていさいのわるきこと

歴三、一

失言 シツゲン いひそこなひ

讀女二、九

失權 シツケン けんぬをなくすること

歴二、三

失意 シツイ 心の如くならぬこと

讀三、七

平野 ヘイヤ たひらなのほら

地一、一

平日 ヘイジツ 戦争なき事のないとき

修四、二

平假名 ヒラガナ とよむ

歴一、三

平坦 ヘイタン たひら

地一、三

平易 ヘイイ やさしいこと

歴二、六

平泉 ヒライヅミ とよむ

歴二、五

平均數 ヘイケンスウ おしならしたかず

地二、七

平滑 ヘイコツ たひらになめらか

地一、一

平方 ヘイハウ 平面上のましかく

地一、一

白熊 ハクグマ しるぐま

地一、一

白旗城 シラハタシヤウ とよむ

歴二、九

白樂天 ハクラクテン 支那の詩の上手な人

讀四、三

五 畫

白河 ベゴ 川の名

地一、一

白味噌 シロミソ とよむ

算一、八〇

白耳義 ベルギ 國の名

讀女二、八

出入先 デイリサキ とよむ

讀女二、八

出頭 シュツトウ まぬること

讀三、三

出會ふ デアウ と讀む

算一、三

出漁 シュツギョ いさりに出てゆくこと

地一、一

出生地 シュツシヤウチ うまれた土地

地一、一

出沒 シュツボツ であたりかくれたり

讀女二、九

出版業 シユフパンダウ 書物をつくるしごと 地二、三  
 出雲大社 イツモ タイシヤ とよむ 歴一、一  
 出奔 シユツボン にげはしる 歴二、一五  
 出世して シユツセ 2. なみこして 2. りつげになつて 讀女二、三  
 出稼 デカセギ と讀む 地一、一  
 出放題 チハウダイ でまかせ 讀三、一五  
 出資 シユツシ しほんを 算二、二〇  
 出帆 シユツパン ふなです 地一、一  
 生育 セイイク そだつこと 讀三、一五

生活 セイカツ くらしていくこと 修三、一  
 生涯 シヤウガイ 生れてから 八四、一九  
 生地 セイチ うまれたとち 地一、三  
 生標本 イキヘウホン 生きたへ 讀三、一八  
 生氣 セイキ げんき 讀三、二〇  
 生還 セイクワン 生きてかへること 讀二、二三  
 生物 セイブツ いきもの 地一、一  
 生蕃 セイバン まだひらけな 歴三、一九  
 生絲 キイト 蠶の口より 地一、一

生薑 シヤウカ 草の名 修三、六  
 主家 シユカ 主人の家 地一、一  
 主要 シユエウ 1. おもなる 2. だいじな 修三、六  
 主人 シユジュ 一家のあるじ 修三、六  
 支柱 チヤバシラ と讀む 歴二、一八  
 立法 リツパウ おきてをた 讀女二、三  
 立派 リツパ とよむ 讀三、二〇  
 立憲法治 リツケンハウチ 憲法を立て法律を定めて國をな 讀三、二〇  
 立憲帝國 リツケンテイコク 憲法があつてその上 帝 歴二、一八

五 畫

立憲政体 リツケンセイタイ 憲法を立てて政事を おこなふこと 地一、三  
 外征 グワイセイ 外國をせいば 歴三、八  
 外患 グワイワン 外國からの心配 讀四、二三  
 内憂 ナイユウ 國內の心配 讀四、二三  
 外寇 グワイコウ 外國がらせめ 修四、二五  
 外敵 グワイテキ 外國の敵 歴二、一七  
 外交文書 グワイカウブンシヨ 外國と交さ 歴三、二〇  
 外交 グワイカウ ぐわいこくと 歴三、一九  
 外様 トザマ と讀む 歴三、一九  
 外孫 グワイソン 自分の女の子が他 の家に嫁してから 歴二、二〇

外城 グワイロキヤウ と讀む

外戚 グワイセキ 母方の親類

外祖 グワイソ 母方のを  
ぢなば

外務部 グワイムフ と讀む

外教の禁 グワイケウキン 外國の宗教を  
きんすること

正鵠 セイコク 正しいこと

正否 セイヒ よしあし

正直 セイジツ うそを云はぬこと  
1. たいだいし  
2. よしあし

正邪 セイジャ よしあし

地、一

歴、四

歴、二

地、一

歴、三

讀、三

算、二

修、五

讀、九

正義 セイギ 人のまもるべ  
き正しいみち

正装 セイゾウ 正しいでたち

正統 セイトウ まことのちすぢ

古來 コライ むかしから

古典 コテン ふるいかきもの

古語 コゴ むかしの人の  
云ふたことば

古昔 コセキ むかし

古制 コセイ むかしのさだめ

古今集 コキンシュ とよむ

修、二

讀、六

歴、五

歴、七

歴、五

修、九

讀、八

歴、八

歴、三

世道 セドウ 世の道

世人 セジン よのひと

世故 セコ よの中のことがら

世間 セケン このよのなか

世襲 セシユ 代々同じ役を  
うけつぐこと

世事 セシ 世の中のこと

民情 ミンシヤウ 人民のやうす

民政部 ミンセイブ と讀む

民力 ミンリョク たみのちから

讀、九

歴、五

讀女、八

歴、七

歴、七

讀、二

歴、七

地、一

歴、五

四通八達 シツブツハツダツ ことばの目の  
やうなこと

四捨五入法 シシヤゴニウハツ と讀む

四道將軍 シドウシヤウアン とよむ

四隣 シリン あたりきんじよ

四天王寺 シテンプウジ とよむ

四條畷 シテウナハテ とよむ

必要 ヒツエウ 1. たいせつ  
2. なくてはならない

必須 ヒツス たいせつ

巨利 キョリツ 大きな寺

讀女、二五

算、九

歴、三

歴、七

歴、五

歴、一

歴、二

讀、三

巨大 キヨダイ たいそう大きい  
 巨鐘 キヨショウ おほきなつりがね  
 巨額 キヨガク たくさんのかさ  
 巨船 キヨセン 大きな船  
 巨細 キヨサイ 大きいことも 小さいことも  
 巨砲 キヨハウ 大きな大砲  
 未開 ミカイ ひらけぬ  
 未練 ミレン おもひきりのわらい  
 未曾有 ミソウ これまでなかつたこと

地二、四  
 歴三、九  
 地二、二  
 讀四、八  
 歴二、一〇  
 讀女二、九  
 地二、四  
 歴三、八

未成年者 ミセイシヤ まだ二十歳に  
 末裔 マツエイ 子孫  
 末筆 マツヒツ 手紙のおし  
 末路 マツロ をほり  
 末頼もし スエタン あとくしい  
 功績 コウセキ いさを  
 功徳 コウトク いさを  
 功名 コウメイ てがら

讀女二、二九  
 讀三、五  
 讀女二、三五  
 讀三、八  
 讀女二、三  
 歴二、八  
 歴二、五  
 歴三、八

甲冑 カウ ふろひかぶと  
 甲斐 カヒ と讀む  
 甲板 カシバン ふれの上  
 矛盾 ムジユン 道理の間違つて居ること  
 矛盾 ホコ とよむ  
 柔弱 ニウジヤク かよわきこと  
 片側 カタガハ と讀む  
 片假名 カタカナ とよむ  
 片雲 ヘンウン すこしのくも

五 畫

讀女二、九  
 歴二、五  
 讀三、二  
 讀女二、九  
 歴一、一五  
 算二、二  
 歴二、三  
 讀三、二

石梁 セキリヤウ 石で造つた梁  
 石津 イシヅ とよむ  
 石首魚 クシチ 魚の名  
 石花菜 トコロナ とよむ  
 由緒 ユキヨ ゆかり  
 由りて ヨリテ とよむ  
 田制 デンセイ 田にくわんけ  
 史籍 シヤキ れきしのほん  
 史學 シガク れきしのがくもん

讀四、一八  
 歴二、一九  
 讀三、一〇  
 地三、九  
 歴二、八  
 歴三、三  
 讀女二、七

史上 シヨヤウ 歴史上  
 史家 シカ れきし家  
 北陸地方 ホクリクチ とよむ  
 北氷洋 ホクヒヨウヤウ 北の方にある大海  
 北部 ホクブ きたの部分  
 他日 タジツ 後日に同じ  
 他人 タニン とよむ  
 本願寺 ホンガンジ とよむ  
 本邦人 ホンポウジン 日本人

地一、一  
 讀女一、七  
 地二、五  
 地一、一  
 地一、一  
 地一、一  
 讀女一、九  
 修三、一〇  
 歴三、七  
 地一、五

本營 ホンエイ ほんぢん  
 以上 イジョウ これより上  
 以南 イナン これから南  
 以仁王 モチヒトワウ とよむ  
 幼稚園 エウチエン とよむ  
 幼稚 エウチ をさなきこと  
 幼少 エウセウ をさないこと  
 幼弱 エウジヤク をさなきもの  
 目深 メフカ 目がかくられるほど

歴三、八  
 地一、一  
 歴一、四  
 歴一、一六  
 歴一、一〇  
 歴二、三  
 讀女一、一

目的 モクテキ と讀む  
 目論見 モクロミ くはだて  
 目前 モクゼン めのまへの  
 市街 シガイ まち  
 市井 シセイ まち中  
 市場 イチバ と讀む  
 永住 エイヂユウ ながくすま  
 永續 エイゾク ながくつづく  
 永遠 エイエン とこしへ

五 畫

歴三、三  
 修三、五  
 地一、一  
 地一、五  
 讀女一、五  
 歴二、六  
 讀三、八

主峯 シュベウ 主なるみね  
 才權 シユケン 國をなさむるけ入り  
 主張 シュチャウ いひはること  
 弘通 コウツウ 世の中にひろめること  
 弘布 コウフ おしひろむること  
 包合 ハウゴウ つつみあふ  
 包圍 ハウイ とりかこみ  
 召集 セウシツ めしあつむ  
 召喚 セウケン よびだす

地三、三  
 地二、八  
 歴三、二五  
 讀四、二  
 歴三、三  
 讀女一、三〇  
 讀女一、二九  
 地三、九



田螺 タニシ 田にをる貝

田圃 デンボ たはた、でんばた

代償 ダイシヤウ かはりてつくなふこと

代官 ダイクワン 役の名

巧言令色 コウゲンレイシヨク 1. おせじの上手なこと 2. おべつかのうまい事

巧言令色 コウゲンレイシヨク 1. つはりてくちさき事 2. 讀女二、九

今生 コンジヤウ 生きて居る間

今際 イマハ 臨終に同じくしぬときのこと

布告 フコク ふれだし

讀四、七

讀四、九

歴二、二〇

讀一、九

讀女二、九

歴二、三

歴一、九

布教 フケウ をしへをひろめる

司令長官 シレイチヤウクワン と讀む

司法 シフフ けいさつ、さいばん所、司法省など

甘蔗 カンショ さたうきび

甘藷 カンショ さつまいも

左袒 サタン みかたになること

左衛門大夫持資 サエモンダイフモチズケ と讀む

瓦 クラム 一五ハ十五分ノ四角

瓦解 クラカイ くだける

歴三、三

讀女二、一

地三、九

地三、二

地三、二

讀女二、四

汜濫 ハンラン あふるる

用語 ヨウゴ つかふことば

犯罪 ハンザイ つみをおかす

失面 ヤオモテ 矢のくる方

囚人 シウジン めしうど

皮相 ヒサウ うはべ

可惜 アタラ なしむべきこと

占領 ケンリヤウ と讀む

半球 ハンキウ とよむ

地一、四

地二、七

讀三、三

玉蜀黍 タウモロコシ とよむ

母鶏 ボケイ おやどり

奴隸 ドレイ 1. 牛馬のやうに追ひつかはるゝ人 2. しもべ

丘陵 キウリョウ 小高い丘のこと

氷漿 アイスクリム とよむ

列車運行情 レツシヤウンカウヘウ とよむ

令旨 リヤウジ 后、親王のおほせ

仕置 シオキ 罪を受けること

冬季 トウキ ふゆ

讀女二、三

讀四、八

讀四、三

算二、六

歴二、五

讀一、三

地一、三

五 畫

算一、五

加入 <sup>カミラ</sup> なかまにゐること  
 兄弟 <sup>キヤウダイ</sup> にいさんとおとらと  
 台鼎 <sup>ダイテイ</sup> 太政大臣、左右大臣の三人を云ふ

六 畫

自刃 <sup>ジシユン</sup> 自殺すること  
 自衛 <sup>ジエイ</sup> じぶんのまもり  
 自國 <sup>ジコク</sup> じぶんのくに  
 自殺 <sup>ジサツ</sup> じぶんでしぬこと

算一、八  
 修三、一  
 讀四、三

自盡 <sup>ジシユン</sup> じぶんでしぬこと  
 自首 <sup>ジシユ</sup> 自分から罪を申し出ること  
 自若 <sup>ジシヤク</sup> おちついてゐること  
 自治機關 <sup>ジシキカワン</sup> とよむ  
 自由 <sup>ジイウ</sup> 思ひ通りにすること  
 自生 <sup>ジセイ</sup> しぜんにはえる  
 自治 <sup>ジチ</sup> みづからをさむること  
 自立自營 <sup>ジリツジエイ</sup> 自分一人の力で生活して行くこと  
 自己 <sup>ジコ</sup> じぶん

歴三、七  
 讀四、七  
 地三、九  
 修三、二  
 讀女二、四  
 歴三、八  
 修四、六  
 修三、二

自轉 <sup>ジテン</sup> じぶんがまはること  
 名譽 <sup>メイヨ</sup> ほまれ  
 名狀 <sup>メイジヤウ</sup> 名状すべからずなまへのつけやうがない  
 名實 <sup>メイジツ</sup> 其の名と其のじつさい  
 名匠 <sup>メイシヨウ</sup> 細工の上手な人  
 名花 <sup>メイクラ</sup> なだかい花  
 名分 <sup>メイブン</sup> なまへ  
 名勝 <sup>メイシヨウ</sup> なだかくけしきのよいところ  
 名臣 <sup>メイシン</sup> なだかいけらい

六 畫

地三、五  
 修三、三  
 讀三、三  
 歴三、三  
 讀四、二  
 歴三、一  
 地三、二  
 歴二、三

名遂げて <sup>ナト</sup> のぞみどほり名をあげて  
 至誠 <sup>シセイ</sup> まごころ  
 至樂 <sup>シラク</sup> 第一のたのしみ  
 至幸至福 <sup>シカウシフク</sup> 非常な幸福  
 至幸 <sup>シカウ</sup> この上もない幸福といふ事  
 至善至美 <sup>シゼンシビ</sup> 1.じつによくうつくしい  
 2.この上なくよいこと  
 至情 <sup>シシヤウ</sup> まことのこころ  
 有爲 <sup>イウヰ</sup> やくにたつ  
 有馬 <sup>アリマ</sup> とよむ

讀女一、四  
 讀一、九  
 讀女一、四  
 讀四、四  
 讀四、三  
 讀三、六  
 讀女一、三  
 讀女一、一  
 地三、三

有益 イウエキ ためになる  
 有明海 アリアケウミ とよむ  
 有名 イウメイ なたかい  
 有力なる大名 イウリヨク ダイメイキヤウ えらいだ  
 有権者 イウケンシヤ んりあるもの  
 有功の諸將 イウコウノシヨシヤウ てがらのあつた  
 因襲 インシヤウ 1. ならはし  
 2. しきたり  
 因業 インゴフ 前世の罪  
 因循 インジュン ぐづぐ

修一、一  
 地三、四  
 地二、一  
 歴三、九  
 算二、三  
 歴二、八  
 歴一、六

印刷物 インサツブツ すりもの  
 印綬 インジュ 後目又は位に同じ  
 印度教 インドケウ と讀む  
 印度洋 インドヤウ 印度の南にある大海  
 印度 インド とよむ  
 成立 セイリツ なりたつ  
 成敗 セイバイ なるよ  
 やぶるよ  
 成跡 セイセキ できたあと  
 成長 セイチャウ おほきくそだつ

算一、三  
 讀四、三  
 地一、一  
 地二、一  
 歴一、五  
 地一、二  
 讀三、二  
 讀三、二〇  
 讀三、二

成功 セイコウ のぞみごほりにできること  
 行動 カウドウ 1. をこなひ  
 2. すること  
 行幸 ギヤウカウ 天子さまのおでまし  
 行末 ユクスエ あとく  
 行政官廳 ギヤウセイクワンシヤウ とよむ  
 行在所 アンザイシヨ 天子さまのかりのみや  
 行動 カウドウ はたらきぶり  
 行爲 カウヰ しわざ  
 行進 カウシン すゝんで行くこと

地一、三  
 修三、三  
 歴一、七  
 女讀一、八  
 地三、九  
 歴一、七  
 讀女一、六  
 讀女一、八  
 讀一、八

六 畫

行燈 アンデン むかしのあかり  
 行往坐臥 カウシュウザクワ あるくときもすはつてゐるときもすはつてゐるときもといふこと  
 行政 ギヤウセイ 郡役所、縣廳、内務省など  
 行業 カウゲ おこなひ  
 行脚 アンギヤ 坊主などが旅行すること  
 行火 アンクワ 道具の名  
 行啓 ギヤウケイ 皇后陛下のおでましになること  
 行方 ユクヘ とよむ

讀女一、六  
 讀三、三  
 地三、九  
 地三、九  
 讀三、九

多辯 <sup>タベン</sup> おしやべり  
 多額 <sup>タガク</sup> 澤山な金高  
 多汁 <sup>タジツ</sup> しろがおほいこと  
 多事 <sup>タシ</sup> ことがおほきこと  
 多多良濱 <sup>タタラハマ</sup> とよむ  
 多数 <sup>タスウ</sup> たくさん  
 多年 <sup>タネン</sup> ながいあひだ  
 多少 <sup>タセウ</sup> いくらかの  
 多濕 <sup>タシツ</sup> たくさんしつてなること

讀女一、二九  
 讀二、二  
 讀女二、二〇  
 歷三、一六  
 歷二、一九  
 地一、一  
 歷一、五  
 修四、三  
 地一、六

安堵 <sup>アンド</sup> あんしん  
 安置 <sup>アチチ</sup> 尊きものをすえ申す事  
 安心 <sup>アシン</sup> 心を安んずること  
 安靜 <sup>アンセイ</sup> しづか  
 安寧 <sup>アネイ</sup> やすらかなること  
 先鋒 <sup>センポウ</sup> さきがけ  
 先例 <sup>センレイ</sup> まへのためし  
 先見 <sup>センケン</sup> これからさきのことを見ぬこと  
 先進國 <sup>センシンコク</sup> さきにすすんだくに

讀女一、三〇  
 歷一、二  
 修三、三  
 讀女一、二五  
 修三、二〇  
 歷一、八  
 讀二、一六  
 歷一、二六  
 地一、一

先哲 <sup>センテツ</sup> むかしの學者  
 回天の事業 <sup>クワテンノジヤク</sup> 世をなほすべきしこと  
 回航 <sup>クワイカウ</sup> 船にてまはること  
 回憶 <sup>クワイオク</sup> おもひめぐらす  
 回縁 <sup>クワイエン</sup> 親類つづき  
 回向 <sup>クワイコウ</sup> 死人の幸ないのること  
 回顧 <sup>クワイコ</sup> おもひめぐらす  
 交々 <sup>コモゴモ</sup> かはるく  
 交代 <sup>カウタイ</sup> かはり

讀三、七  
 地一、四  
 讀三、三  
 讀三、一  
 讀三、二七  
 讀三、二七  
 讀三、三  
 讀女一、一

交戰 <sup>カウセン</sup> いくさをすること  
 交際 <sup>カウサイ</sup> 1. まじはり 2. つきあひ  
 交換 <sup>カウケン</sup> 互にとりかへること  
 交誼 <sup>カウギ</sup> まじはり  
 交情 <sup>カウジヤウ</sup> よいなか  
 交通 <sup>カウツウ</sup> とよむ  
 交通機關 <sup>カウツウキクワン</sup> かうつうのきかい  
 地域 <sup>チキキ</sup> ばしよ  
 地頭 <sup>ヂョウ</sup> とよむ

讀女一、九  
 歷一、六  
 修四、八  
 歷一、九  
 讀女一、二九  
 歷一、三  
 歷一、二六  
 地一、一  
 歷一、二五

地中海 チチエウカイ とよむ  
 地位 チチ みぶん  
 地方裁判所 チハウサイバンシヨ ふだんのさ  
 いげんしよ  
 地盤 チバン とよむ  
 地下水 チカス井 地下を透る水  
 地球 チキウ とよむ  
 地峽 チケウ 陸地と陸地との間の  
 細く續いたところ  
 地殻 チコク とよむ  
 地價 チカ とよむ

地二、一  
 歴二、六  
 地三、九  
 地三、三  
 地三、三  
 地三、一  
 地三、一  
 地三、一

地變 チヘン 土地のへん化  
 地表 チヘウ 地面に同じ  
 地勢 チセイ 土地のありさま  
 地震 チシン とよむ  
 羽音 ヘオト はれのおと  
 羽柴秀吉 ハシバヒデヨシ と讀む  
 羽翼 ウヨク はれ  
 羽二重 ハフタヘ とよむ  
 同僚 ドウレウ 1.おなじやく  
 2.なかま

地三、四  
 地三、五  
 地二、一  
 地三、三  
 讀女二、六  
 歴二、七  
 歴二、五  
 地二、一  
 讀女二、八

同視 ドウシ おなじに  
 みること  
 同乗の人 ドウジョウ 一しよに  
 のつた人  
 同化 ドウカ おなじもの  
 にかはる  
 同伴 ドウバン いつしよ  
 同情 ドウジョウ 共に助け合ふこと  
 同様 ドウヤウ おなじかた  
 危篤 キトク いのちのあ  
 やういこと  
 危険 キケン あぶない  
 危懼 キク けんのん  
 なること

六 畫

讀女二、一  
 讀女二、二  
 地三、七  
 修三、八  
 歴二、六  
 讀女二、七  
 歴二、五  
 歴二、三

危殆 キタイ あぶないこと  
 伊豫掾 イヨノサヨウ とよむ  
 伊藤仁齋、東涯 イトウジンサイ、トウガイ と讀む  
 伊達 イダテ とよむ  
 好意 カウイ しんせつのこと  
 好評 カウヒヤウ 評判のよいこと  
 好成績 カウセイセキ よいできばへ  
 好漁場 カウギョウジヤウ 1.よきいさりば  
 2.さかなをとる  
 よいばしよ  
 好時期 カウジキ 一番よいとき

歴三、一  
 歴二、二  
 歴二、三  
 歴二、五  
 讀女二、五  
 讀二、三  
 地二、一  
 修四、一

好機	よきなり	歴一、五	舟師	ふないくさ	歴一、二
好學	がくもんをこのむ	歴二、三	守護	まもり	地三、九
好奇心	ものずきな心	讀三、元	守兵	まもつてを るへいたい	歴三、元
再興	ふたたびおこす	歴一、八	守衛	まもること	歴一、三
再選	ふたたびえらみ あげらるること	讀女二、三	休憩	やすみいこふこと	修四、五
再征	またせいば つずること	歴三、八	休養	やすめ やしなふ	歴一、五
舟泊	ふれのと まること	地一、三	休息	やすむ	算二、四
舟楫	ふれをやること	歴一、一	休戚	安危	
舟運	ふれをやること	地三、三	列國	多くの國々	歴三、二〇

列聖	よよの天子さま	歴三、三〇	年賦	とし	修一、五
列島	長くつづいたしま	地三、二	年賦	年々にわけて 納むること	
列強國	おもなるくにたく	地三、八	年號	とよむ	歴一、七
西奔	西にはしる	歴一、元	百般	いろいろなこと	讀一、五
西諺	西洋のこ とわざ	歴三、六	百獸	すべてのけもの	讀四、四
西安	と讀む	地一、一	汚物	きたないもの	修三、二
西藏族	と讀む	地一、一	汚水	よごれた水	讀三、五
西班牙	と讀む	地一、三	汚名	わるいなまへ	修三、五
西比利亞	とよむ	地三、三	任期	つとむるきげん	歴一、二

六畫

任用 ニシヨウ もちふること  
 任務 ニシム つとめ  
 任命 ニシメイ 役をいひつ  
 けること  
 在世の間 ザイセイ アヒダ 生きて居  
 るあひだ  
 在京 ザイキヤウ 東京にゐること  
 在職 ザイシヨク しよくにあること  
 朱子 シュジ 支那の有名な學者  
 朱舜水 シュシュンスイ 支那の學者  
 朱印 シュイン しゆのはん

讀三、二〇  
 地三、九  
 歴三、六  
 歴三、一  
 歴三、一七  
 歴三、二七  
 讀四、三  
 讀四、三  
 歴三、二

吉凶 キツキヨ よいこと  
 わるいこと  
 吉祥 キツシヤウ さいはひ  
 如何 イカン どうであるか  
 如かず シ 及ぶものはない  
 如露 ジヨロ 水をそそぐ道具  
 宇治川 ウヂガハ とよむ  
 宇宙 ウチウ 天地  
 宇多天皇 ウダテニワウ とよむ  
 全速度 ゼンソクド とよむ

讀女一、八  
 讀女一、一  
 讀女一、九  
 歴二、一四  
 讀三、三  
 歴一、一〇  
 算二、五

全滅 ゼンメツ のこらすほ  
 ろぶること  
 全國皆兵 ゼンコクカイヘイ 日本中の國民は皆  
 兵たいになること  
 老軀 ラウク 老年になつ  
 たからだ  
 老耄 オホボレ 年老いてまう  
 るくすること  
 老少不定 ラウセウフヂヤウ 人のいのちの  
 わからぬこと  
 光輝 クワウキ ひかりかど  
 やくこと  
 光嚴院 クワウゲンイン とよむ  
 光彩陸離 クワウサイリクリ 目を驚かす程  
 立派なこと  
 早晚 サウバン おそければやかれ

歴一、二四  
 歴三、一八  
 讀四、三〇  
 修四、二〇  
 歴一、二七  
 讀一、二五  
 歴二、一八

早馬 ハヤウマ いそぎの馬  
 早世 サウセイ わかじに  
 すること  
 充實 ジュウジツ みちみつること  
 充實 ジュウジツ いたづばいみち  
 てなること  
 奸佞 カンネイ よこしま  
 奸臣 カンシン わるいけらい  
 竹籬 チクリ 竹で造つた垣根  
 竹帛 チクハク 歴史のこと  
 兇徒 キョウト わるもの

讀三、二二  
 歴三、三  
 修四、二三  
 歴三、一八  
 讀四、二〇  
 讀四、三〇  
 讀三、二二

兇漢 キョウカン わるもの 讀四、三  
 吐瀉物 トシヤブツ 2.1.へぞ 讀女二、三  
 曲折 キョクセツ まがり 地三、三  
 曲直 キョクチョク 1.よしあし 2.まがりたること 2.ますぐなること 地三、三  
 血縁 ケツエン ちすぢ 歴一、五  
 血路 ケツロ すこしのにげみち 歴一、五  
 旭日昇天の勢 キョクジツシヨウテン キホヒあさ日が天にのぼるいきほひ 讀三、三  
 旭岳 アサヒダケ とよむ 地三、三  
 收攬 シウラン 一所にあつめること 讀四、三

收容 シウヨウ いれる 讀女二、元  
 羊毛 ヤウマウ ひつじのけ 地一、三  
 羊 ヒツジ とよむ 地一、一  
 考量 カウリヤウ 手加減と云ふこと 地一、一  
 考證 カウシヨウ よくかんがへて、しようこたてること 讀四、三  
 死滅 シメツ しんでなくなる 讀三、五  
 死海 シカイ とよむ 地三、三  
 刑法 ケイハフ 罪人を罰するき 歴一、七  
 刑罪 ケイバツ はふりつのでいさい 歴一、三

弛張 シチヤウ のびちぢみ 歴一、二〇  
 弛解 シカイ ゆるみとく 歴三、元  
 兆 テウ きざし 歴一、四  
 兆候 テウコウ まへのしらせ 歴一、四  
 共同 キョウドウ いつしよになること 修三、七  
 共同生活 キョウドウセイカツ 大ぜいより合つてせいよくわつする事 地三、四  
 吃水 キツスイ 舟體の水に沈むふかさ  
 吃音 キツオン ごもり  
 合祀 ガフシ あはせまつる 讀三、二〇

合璧 ガツペキ となり 讀女二、五  
 安逸 アンイ なすこともなくいたづらにすこと 讀三、三  
 安政の大獄 アンセイタイゴク と讀む 歴三、二六  
 吏員 リイン やくにん 歴三、二六  
 池溝 チコウ いけみぞ 歴一、三  
 均霑 キンテン つりあひのとれること 讀四、九  
 各自 カクジ 1.じぶんじぶん 2.ひとひとり 修三、七  
 旨趣 シニシユ おもむき 歴一、二八  
 伏見天皇 フシミテンノウウ とよむ 歴一、二七



夙フツに はやくから  
 江山コウザン 山に川  
 孝貞カウテイ 親と夫によくつかへること  
 屹立キツリツ いかめしくたつこと  
 尖塔セントウ とがった塔  
 夷狄イテキ えびす  
 凹凸アウツツ でくぼく  
 帆船ヘンセン ほかけぶね  
 技倆ギリヤウ うでまへ

地一、三  
 讀四、一〇  
 讀女一、三  
 地三、三  
 讀女一、二  
 地三、三  
 讀四、六

初音ハツネ はじめてのこゑ  
 肋骨ロクコツ あげらばね  
 伐採バツサイ きりとること  
 旬日ジュンニツ 十日のあひだ  
 米突メイトル 一米突は三尺三寸  
 妄評バウヒョウ らんぼうな評  
 叫喚キウケン よびさけぶ  
 肌ヘダ と讀む  
 存在ソンザイ あること

讀三、二  
 讀女一、五  
 歷一、三

衣髮イヘツ きものやあたま  
 色彩シキサイ いろざり  
 百濟クダラ とよむ  
 耳順ジジュン 六十才のこと  
 字彙ジブキ じびき  
 汗顔カンガン はぢいる  
 汜濫ハンラン 川がひらくこと  
 寺院ジヤン てら  
 牝鷄ヒンケイ めんざり

七畫

讀女一、八  
 歷一、四  
 讀四、三  
 歷一、四  
 讀四、六  
 歷一、九  
 讀女一、八

七畫

攻守コウシュ せめたりまもつたりする  
 攻城砲コウシヤウハウ 大砲の一種(城を攻むるに用ふるもの)  
 攻戰コウセン せめたたかふこと  
 攻殺せりコウコロ とよむ  
 武器ブキ いくさをす  
 武備ブビ いくさのそなへ  
 武内宿禰タケシウチノスクネ とよむ

歷三、六  
 讀一、九  
 歷一、三  
 歷一、五  
 歷一、六  
 歷一、二  
 歷一、四

**武技** ブキキ いくさをするわざ 歴一、二  
**武昌** ブシヤウ と讀む 地一、一  
**武士** ブシ さむらひ 歴一、二  
**武將** ブシヤウ つよい大しやう 讀女一、一  
**武家諸法度** ブケショハツト ぶげのまもるべきいろのきそく 歴三、二〇  
**武名** ブンメイ つよい名 歴三、五  
**武裝的平和** ブサウテキヘイワ 刀の戦がなくとも學問智力の戦があること 讀女一、九  
**武藏常陸** ムサシヒタチ と讀む 歴一、八  
**武力** ブリキョク 武の力 歴一、一

**改善** カイゼン よくあらたむること 讀三、七  
**改廢** カイハイ 改めたりやめたりすること 歴四、二〇  
**改鑄** カイジュウ ぬなほすこと 歴三、二四  
**改定** カイテイ あらためさだめること 歴二、一八  
**改元** カイゲン 年號をあらためること 歴三、一八  
**改革** カイカク あらたむる 歴一、七  
**改新** カイシン あらためあらたにすること 歴一、七  
**改竄** カイザン 改めなほすこと 歴一、七  
**改良** カイリヤウ あらためてよくすること 地一、一

**改廢** カイハイ なほしたりやめたりすること 歴一、一八  
**改易** カイエキ とりあげ、(刑名) 歴一、三  
**改宗** カイシュウ しゆうしをあたらむること 讀三、八  
**兵戈** ヘイクワ ほん 歴一、二九  
**兵食** ヘイシヨク ひやうらう 地一、三  
**兵制** ヘイセイ 1. 兵備の制度 2. へいたいのきそく 歴一、四  
**兵馬の衢** ヘイバチマタ たたかひのきそく 歴一、三  
**兵火** ヘイクワ たたかひからおこる火事 歴一、三  
**兵站部** ヘイタンブ 軍用品を貯ふるところ 歴一、三

**兵亂** ヘイラン いくさ 歴一、一八  
**兵燹** ヘイセン いくさからおこる火事 地三、九  
**兵力** ヘイリキョク へいたいのちから 地三、九  
**兵役** ヘイエキ へいたいのつとめ 地三、九  
**良心** リヤウシン まごころ 修三、一八  
**良質** リヤウシツ よきたち 地一、三  
**良港** リヤウカウ よい港 讀一、二〇  
**良僕** リヤウボク よいめしつかひ 修一、七  
**良主** リヤウシュ よい主人 修一、六

良縁 リヤウエン よきえん  
 良好 リヤウカウ よいこと  
 金塊 キンクワイ きんのか  
 金言 キンゲン よい言葉  
 金産地 キンサンチ 金のでるところ  
 金枝玉葉の御身 キンシヨクエフ オンミ たふとき  
 金ヶ崎城 カネサキヤウ と讀む  
 低回顧望 ダイクワウバウ ふりかへりの  
 低平 ダイヘイ ひくくたひ  
 らなこと

讀女二、三  
 地三、六  
 算一、三  
 讀三、七  
 地二、四  
 讀女一、一  
 歴一、元  
 讀三、八  
 地二、三

低率 ダイソツ やすい税率  
 低下 ダイカ さがる  
 低減 ダイゲン ひくくへ  
 低氣壓 ダイキアツ 氣あつのひ  
 防禦 バウゴ ふせぐこと  
 彷徨 ハウワウ さまよふこと  
 防備 バウビ そなへ  
 防衛 バウエイ ふせぎまもる  
 沈着 チンチャク おちついてをること

讀四、九  
 地三、五  
 地二、五  
 歴一、一  
 歴二、一六  
 修三、一〇

沈思 チンシ しづかに  
 沈澱 チンデン しづみよ  
 沈黙 チンモク だまつてをること  
 沈積 チンセキ しづみつもる  
 形勢 ケイセイ 1.ありさま  
 2.やうす  
 形成 ケイセイ かたちづくること  
 形状 ケイシャウ 1.かたち  
 2.ありさま  
 形式 ケイシキ かたちの上  
 私利 シイリ じぶんでもつ  
 てをること

七 畫

讀三、三  
 理一、三〇  
 讀女一、九  
 地三、三  
 歴三、二  
 地二、三  
 地三、四  
 歴一、七  
 歴一、七

私利 シイリ 自分一人の利益  
 私邑 シイフ じぶんの土地  
 私慾 シヨク 1.じぶんのよく  
 2.わたくしのよく  
 私情 シシヤウ じぶんひとりの  
 便利をはかる心  
 利用 リヨウ やくだた  
 せること  
 利達 リダツ 身分のよく  
 なること  
 利器 リキ 役に立つ道具  
 利害共通主義 リガイキョウツウウシユギ と讀む  
 利益 リエキ まうけ

修四、二七  
 歴三、四  
 修四、二  
 修三、二三  
 地三、三  
 讀三、六  
 讀二、一五  
 歴三、二〇  
 修三、一五

利尻 リイシ とよむ 讀女一、二〇  
 利發 リハツ かしこい 讀女一、三  
 災厄 サイヤク 1. さいなん 2. わざわい 修三、五  
 災難 サイナン わざはひ 修四、二四  
 災す ワザハヒ とよむ 讀女一、八  
 困難 コンナン なんぎなこと 修四、二  
 困厄 コンヤク 困苦さいなん 讀三、七  
 困窮 コンキウ すつかり困つてしまふこと 讀四、三  
 赤道 セキダウ とよむ 地二、二

赤坂城 アカサカシヤウ とよむ 歴一、二七  
 赤銅 シヤクドウ とよむ  
 收縮 シウシュク ちぢまること 地三、三  
 收益 シウエキ とりいれ 地三、九  
 收攬 シウラン とりをさむる 歴一、二八  
 收入 シウニフ とよむ 金銭などの入り來ること 歴一、二  
 抑壓 ヨクアツ おさへつける 讀三、八  
 抑制 ヨクセイ をさへつける 讀女一、九  
 抑揚 ヨクヤウ 1. 上げたりさげたり 2. ほどよきへんくわ

伯仲 ハクチュウ 丁度おなじ位のこと 讀一、五  
 伯林 ベルリン ドイツのみやこ、  
 伯者 ハクシャ とよむ 地二、三  
 角倉 スミノクラ とよむ 歴三、二  
 角錐圓錐 カクスイエンスイ 四かくのきりとまるいきり 算三、四  
 角逐 カクチュク 互に競争すること 讀四、二  
 決定 ケツテイ それとさだめること 歴三、二六  
 決戦 ケツセン 1. まげかちのきまるいくさ 2. 死をきはめてたたかふ 3. さいこのたたかひ

決算期 ツケリキ とよむ 算一、三  
 決勝手段 ケツシヨウシユダシ 勝ちをきめらてだて 讀女一、九  
 冷靜 レイセイ 怒らずに心を平和に保つこと 讀一、九  
 冷淡 レイタン ものごとにさわがぬこと 讀四、三  
 身魂 シンコン 身とたましひ 讀四、一四  
 身體 シントイ からだ 修三、一〇  
 身嗜 ミダシナミ こころがけ 讀女一、二六  
 攻落し センオト とよむ 讀三、七  
 攻侵軍 コウシングン せめいる軍 讀三、七

攻城野戰 コウシヤウヤケン しろせめ のいくさ  
 攻伐 コウバツ せめうつこと  
 攻守同盟 コウシュドウメイ とよむ  
 佛閣 フツカク てら  
 佛領印度支那 フツリヤウインドシナ とよむ  
 別宮 ベツクウ ちがつた おみや  
 別封 ベツフウ 別な封書のこと  
 別當 ベツタウ とよむ  
 別邸 ベツテイ しもやしき

歴二、九  
 歴二、六  
 地二、三  
 讀女二、六  
 地二、一  
 歴二、三  
 歴二、五  
 歴二、一

巡覽 ジュンラン まほりみる  
 巡撫 ジュンブ とよむ  
 巡視 ジュンシ まほりみる  
 扶植 フシヨク たすけした つること  
 扶持 フシチ たすくること  
 扶助 フシヨ たすけ  
 見識 ケンシキ かんがへ  
 見達 ミチガ へる とよむ  
 見參 ケンサン まみえること

讀女一、一  
 地一、一  
 歴二、六  
 歴二、二  
 地二、九  
 讀三、二六  
 讀女二、三  
 讀女二、八  
 讀三、二六

見込 ミコミ とよむ  
 車馬 シャバ くるまとうま  
 車幅 シャフク くるまのはば  
 車輛 シャリヤウ くるま  
 迂回 ウクワイ ぐるつとまはる  
 迂濶 ウカク うつかり  
 村落 ソノラク むら  
 村夫子 ソノブシ ぬなかせんせい  
 村社 ソノシヤ とよむ

讀女二、五  
 修三、三  
 讀女二、二  
 讀女二、二  
 讀女二、二  
 地二、一四  
 地二、一〇

足柄山 アシガラヤマ とよむ  
 足柄箱根 アシガラハコネ とよむ  
 足枷 アシガセ 罪人の足に はめるもの  
 束修 ソクシウ 入學金  
 束縛 ソクバク 自由にさ せぬこと  
 束帶 ソクタイ きものの名  
 折柄 オリカラ そのときと いふこと  
 折衷 セツチュウ 二つのうちのな かなとること  
 折角 セツカク とよむ

讀女二、二  
 歴一、八  
 歴二、六  
 讀三、二六  
 歴二、六  
 讀女二、七

折檻 セツカン 子どもなどをこらしめること

阿蘇 アソ とよむ

阿武隈 アブクマ とよむ

阿倍比羅夫 アベヒラフ とよむ

初日影 ハツヒカゲ 一月元日の太陽

初期 シヨキ はじめ

初老 シヨラウ 四十歳のこと

李白 リハク 支那の詩の上手な人

李 スモ 木の名

地三、三

地三、三

歴二、七

讀女二、三

歴二、二〇

讀四、三

禿頭病 トクトウビヤウ あたまの毛を抜くこと

禿山 ハゲヤマ とよむ

牢獄 ラウゴク 罪人を入れるところ

牢屋 ラウヤ 罪人を入れるところ

技手 ギシュ 技師の下役

技藝 ギゲイ てわざ

尾張 オウワリ とよむ

尾花 オウバナ とよむ

言行 ガンカウ いふこととおこなふこと

讀三、一

地二、二

歴二、五

讀女二、二

讀女二、八

言語 ガンゴ ことば

君臨 クンリン 君として御いであること

君主專制 クンシユセンセイ 天子さまがおかつてに政事をおきめなさる事

豆腐 オカベ とらふのこと

豆粕 マンカス と讀む

亞細亞土耳其 アジアトルコ と讀む

亞細亞洲 アジアシウ とよむ

志氣 シキ こころいき

志士 シシ くにをあいする人

地二、七

歴三、二〇

地二、一

地二、一

歴三、三

地二、一

歴二、七

修三、六

志操 シサウ こころざし

志願者 シクワンシャ とよむ

志望 シバウ のぞみ

吹耗 フキペリ と讀む

吹雪 フキキ とよむ

技能 ギノウ うでのわざ

技術 ギシュ わざ

延長 エンチャウ ひきのばすこと

延び ノビ と讀む

讀三、一九

算一、四

算二、六

算三、六

修四、三

歴一、五

讀四、七

地二、一

七 畫

延員 ノベイン 2.いひきのばしたかず  
 延曆寺 エンリヤクジ とよむ  
 克己 コクキ じぶんにかつ  
 赤面 セキメン 恥ぢ入つて顔を赤らめること  
 赤石 アカイシ とよむ  
 杜撰 ツザン 疎略なるえらみ方  
 杜絶 トゼツ うちたゆること  
 判然 ハンゼン はつきり  
 判別 ハンベツ みわけること

歴一、一  
 歴一、三  
 歴三、七  
 讀一、九  
 地三、三  
 歴三、三  
 讀三、五

孤兒院 コジヤン とよむ  
 孤獨 コドク ひとりぼち  
 沙汰 サタ 政府の指令をいふ  
 沙漠 サバク ひろいすな地  
 住地 ヂユウチ すんでる土地  
 住民 ヂユウミン すめるたみ  
 呐喊 トツカン ときのこゑをあげてすすむこと  
 早魃 カンバツ ひでり  
 努力 ドリョク つとむること

算一、四  
 地二、四  
 歴三、六  
 地二、一  
 地二、一  
 地二、一  
 讀一、二

孜孜 シシ つとめほれをること  
 杜甫 トホ 支那の詩の上手な人  
 征韓論 セイカンロン カンコクをうつといふぎろん  
 妙音 メウオン 美しいよい音  
 沖邊 オキベ 沖のほとり  
 肝要 カンユウ たいせつ  
 岐阜 キフ とよむ  
 辰砂 シカヘサ とよむ  
 卵肉兼用種 ランニクケンユウシュ たまごも、にくも、つかはれるもの

歴一、九  
 讀四、三  
 歴一、九  
 讀四、四  
 讀四、九  
 讀三、五  
 歴三、七  
 理一、九  
 讀女一、二

受諾 ウケダク しようちすること  
 忍耐 ニンタイ こらへしのぶこと  
 坐作進退 ザサシンタイ たちぬふるまひ  
 扮装 イテダテ とよむ  
 沃野 ヨクヤ こゑたる土地  
 吹添へ フキソ とよむ  
 余輩 ヨハヒ われ々  
 匠寒 ヂヤカン たいそうさむきこと  
 伺候 シヨウ 1.さふらひをること  
 2.まわりてきげんをうかがふこと

歴三、三  
 修四、二  
 修四、二  
 讀三、七  
 地三、三  
 讀女一、二

作物 サクモツ 百姓が田畑につくるもの

宏大 クワウダイ おほきい

梓 ソウ とよむ

歩哨 ホセウ ばんべい

含嗽 ガンソウ うがひ

杏 アンズ 果物の名

沐浴 モクヨク ゆあみ

孝行 カウカウ おやをよるこばすこと

枇杷 ビハ 木の名

佐佐成政 ササナリマサ とよむ

芒 ノギ 稻麥などの穂先のとげ

吟味 ギンミ よくしらぶること

辛苦 シンク なんぎくらう

更紗 サラザ とよむ

夾撃 クワゲキ はさみうち

芋苗 ズキキ いもがら

芋燭 イモムシ 虫の名

完備 クワンビ よくそなはること

歴二、八

讀女二、六

算二、二

歴二、七

歴一、二

阪鶴 ハンカク 大阪、舞鶴間の鐵道

快速 クワインク こころよくてばやい

佩刀 ハイトウ かたなをおぶること

戒名 カイミヤウ 死者の名

貝原益軒 カイハラエキケン と讀む

社寺 シヤジ 神社とお寺

牡蠣 カキ 貝の名

希世 キセイ 世にまれなる

地二、三

讀三、三

歴三、三

修三、三

讀三、八

七 畫

批准交換 ヒツインカウクワン よしあしたをさだめてゆるしたものととりかはすこと

尾張 ヲハリ とよむ

冶金 ヤキン かなものをふきつくること

兌換 ダクワン 金錢紙幣などのひきかへ

辿る タド たづねゆくこと

辛抱 シンバウ がまんすること

伸張 シンチャウ のびすゝむこと

那須 ナス とよむ

狂暴 キヤウバウ らんぼう

歴三、一九

歴一、三

讀四、三

地三、三

讀三、七



我等 ワレラ わたくしども  
 芝居 シバキ と讀む  
 夷狄 イヂキ むびす  
 序文 シヨブン はしがき  
 投降 トウカウ かうさん  
 邦土 ハウド くにのとち  
 雨奇 ウキ あめふり  
 庭弱 ワウジヤク かよわし  
 妨 サマダゲ と讀む

地二、一  
 歴二、三  
 歴二、六  
 讀三、八  
 讀女二、一〇  
 讀三、三  
 修三、三

芍藥 シヤクヤク 草の名  
 坂上田村麻呂 サカノウエノタムラマロ とよむ  
 争鬪 サウゲイ あらそふこと  
 坎珂 カンカ 失望に同じ  
 男体山 ナンダイサン とよむ  
 宋 シン とよむ  
 沒收 ボツシウ とりあぐること  
 告辭 コクジ 別れのととき  
 宏壯 ワウサウ おほきくさ  
 かんなる

歴一、二〇  
 歴二、八  
 地二、三  
 歴一、六  
 歴二、八  
 讀一、八  
 地一、一

考證精確 コウシヨウセイカク かんがへたるし  
 依頼 イライ たのむ  
 呂宋 ルソン と讀む  
 扼す ヤク おさへ守ること  
 芝生 シバフ 芝のはえたところ  
 沃野 ヨクヤ こえた土地  
 快樂 クワイラク たのしみ  
 扮装 フンサウ 1. よそほひ  
 2. いでたち

八 畫

讀三、三  
 修三、五  
 歴三、二  
 地一、三  
 讀三、三  
 地一、一  
 修四、四  
 讀三、六

近郊 キンカウ まちはづれ  
 近年 キンネン ちかごろ  
 近所 キンショ ちかいところ  
 近傍 キンバウ きんじよ  
 近世 キンセイ ちかごろ  
 近時 キンジ ちかごろ  
 近衛師團 コンエシダン とよむ

八 畫

讀女一、六  
 修三、九  
 修三、八  
 地一、一  
 地二、七  
 地一、一  
 地二、九

近況 キンキョウ ちかごろのありさま  
 官吏 クワンリ やくにん  
 官制 クワンセイ おかみのさだめ  
 官房 クワンバウ 官舎の名  
 官軍 クワングン とよむ  
 官營事業 クワンエイギョウ おかみでする事業  
 官設製造所 クワンセツセイザウシヨ おかみでたてた製造所  
 官衙 クワンガ やくしよ  
 官職 クワンシヨク やく

官幣社 クワンペイシヤ と讀む  
 長足の進歩 チャウソクシンポ すんたくす  
 長篠 ナカノ と讀む  
 長久手 ナガクデ と讀む  
 長汀曲浦 チャウテイキョクホ 長い海岸とまがつて居る浦  
 長流 チャウリウ ながい河  
 長所 チャウシヨ 1.とくいとするところ 2.まさつたところ  
 長髮賊 チャウハツソク 髪の毛の長い賊軍  
 長曾我部元親 チャウソウカベモトチカ と讀む

讀女二、五  
 歴一、七  
 歴二、八  
 歴一、九  
 讀三、三  
 地二、二  
 地一、一  
 歴一、七  
 地三、一  
 地二、二  
 算一、七  
 讀四、一〇  
 歴二、九  
 地三、二  
 地三、一〇

長け ナガキ よくなれてなること  
 長驅 チャウク ながくはしる  
 長閑けき ノド しづか  
 明媚 メイビ 景色のよいこと  
 明智光秀 アケチミツヒデ と讀む  
 朋友 ホウイウ ともだち  
 明白 メイハク あきらか  
 明太魚 メイダイ 魚の名  
 明晰 メイセキ はつきりして居ること

明瞭 メイレウ はつきりして居ること  
 事情 ジヤウ 1.ありさま 2.わけがら  
 事蹟 ジヤク ことのおと  
 事件 ジケン ことがら  
 事實 ジツツ まことのこと  
 事由 ジユウ わけ  
 事態 ジタイ ことのあるさま  
 事變 ジベン かばつた出来事  
 所司代 シヨシダイ と讀む 役の名

讀女一、八  
 讀三、八  
 讀三、二  
 讀四、六  
 歴二、七  
 修三、八  
 讀女二、元  
 讀女二、二〇  
 讀四、五  
 修四、八  
 歴二、二  
 讀女二、二〇  
 修四、六  
 修三、二  
 歴二、二  
 修三、二六  
 歴三、一

所有<sup>シヨウイウ</sup> もちもの  
 所有金<sup>シヨウイウキン</sup> もつてゐるかれ  
 所存<sup>シヨウゾン</sup> 心の中に考へて居ること  
 所爲<sup>シヨウキ</sup> しわざ  
 所帶<sup>シヨウダイ</sup> しんしやう  
 所以<sup>ユエニ</sup> わけ  
 所謂<sup>イヘスル</sup> やはり  
 所屬<sup>シヨゾク</sup> ぞくする  
 所長<sup>シヨウチヤウ</sup> すぐれたところ

修<sup>三</sup>、二  
 算<sup>一</sup>、三  
 讀<sup>四</sup>、五  
 歷<sup>三</sup>、五  
 歷<sup>三</sup>、一  
 讀<sup>三</sup>、三  
 讀女<sup>一</sup>、九

所領<sup>シヨウリヤウ</sup> 領分  
 來意<sup>ライイ</sup> きたわけ  
 來歴<sup>ライレキ</sup> これまであつたことのしだい  
 來聘<sup>ライヘイ</sup> 外國より來りて禮問すること  
 來朝<sup>ライテウ</sup> 1. 外國人の入朝すること 2. 外國人が日本に來ること  
 來航<sup>ライカウ</sup> 海をわたりて來ること  
 東宮<sup>トウグウ</sup> とよむ 皇太子のおいでなるところ  
 東洋汽船<sup>トウヤウキセン</sup> と讀む  
 東征大總督<sup>トウセイダイソウトク</sup> と讀む

歷<sup>三</sup>、四  
 讀女<sup>一</sup>、一  
 讀女<sup>二</sup>、三  
 歷<sup>三</sup>、九  
 歷<sup>二</sup>、三  
 歷<sup>三</sup>、六  
 歷<sup>二</sup>、三  
 地<sup>二</sup>、三  
 歷<sup>三</sup>、八

東下<sup>トウカ</sup> あづまにくだること  
 東學黨<sup>トウガクトウ</sup> と讀む  
 東屋<sup>トウマヤ</sup> 小さき亭  
 東半球<sup>トウハンキウ</sup> と讀む  
 東洋<sup>トウヤウ</sup> と讀む  
 東雲<sup>シノノ</sup> 東のそら  
 東風<sup>コチ</sup> ひがしかぜ  
 花欄<sup>クラン</sup> 木の名  
 花卉<sup>クワキ</sup> 花のさく草木  
 八 畫

歷<sup>三</sup>、一七  
 歷<sup>三</sup>、九  
 地<sup>二</sup>、一  
 歷<sup>三</sup>、六  
 讀<sup>三</sup>、二

花燭の典<sup>カクノテン</sup> 婚禮  
 花冠<sup>クワクワン</sup> 1. はなかんむり 2. 花びらの集りたるところ  
 花束<sup>ハナダバ</sup> とよむ  
 花筵<sup>ハナマシロ</sup> とよむ  
 花の御所<sup>ハナノゴシヨ</sup> と讀む  
 花崗岩<sup>クワカウガン</sup> と讀む  
 金箔<sup>キンパク</sup> 金の板をうすくのばしたもの  
 金閣<sup>キンカク</sup> 寺の名  
 金箭<sup>キンセン</sup> 金の矢

讀女<sup>一</sup>、三  
 讀女<sup>二</sup>、二  
 地<sup>二</sup>、五  
 歷<sup>三</sup>、一  
 理<sup>一</sup>、二  
 讀<sup>四</sup>、三  
 歷<sup>三</sup>、一  
 讀<sup>三</sup>、三

**金色** キンシヨク きんのいろ  
**金柑** キンカン 果の名  
**金城鐵壁** キンシヤウテツベキ 金鐵で造つた城の如くなかなが落ちぬ城  
**金波萬里** キンパマンリ 廣々とした金のやうな波  
**金剛山** コンゴウセン とよむ  
**金甌無缺** キンオウムケツ 少しもきづのないこと  
**忠貞愛國** チュウケンアイコク 君に忠義、國を愛す  
**忠實** チュウジツ まじめのこと  
**忠告** チュウコウ まごころから人に注意すること  
 讀女二、二  
 讀一、二五  
 讀二、二六  
 歴二、二七  
 讀四、二三  
 地三、二八  
 修四、二六  
 修四、二四

**忠烈** チュウレツ 忠義にあつきこと  
**忠信** チュウシン じつばりなくまじめなことば  
**果斷** クワダン 事をきめる事はやく又つよきこと  
**果敢** クワカ 勇氣のある決斷の強い人  
**果物** クワブツ くだもの  
**果樹** クワジュ くだものゝなる木  
**果さ** ハタ ぐりき ばたしませんてした  
**果實** クワジツ くだもの  
**法令** ハフレイ 法の律  
 歴一、二八  
 讀女二、一九  
 歴一、二七  
 讀一、二三  
 地一、二三  
 讀女二、二〇  
 地一、二三  
 地一、  
 修三、二〇

**法部** ハフブ とよむ  
**法度** ハフド おきて  
**法律案** ハフリツアン 法律のしたがり  
**法典** ハフテン きそく  
**法被** ハフビ とよむ  
**法隆寺** ハフリユウジ とよむ  
**法律** ハフリツ 國のをきて、きまり  
**法燈** ハフトウ 佛法の光  
**制規** セイキ きそくにさだめた  
 地一、一  
 地二、九  
 歴三、二八  
 讀三、二六  
 歴一、二五  
 修三、二〇  
 讀四、二六  
 讀女二、二三  
 八 畫

**制定** セイテイ さだめ  
**制度** セイド おきて  
**制裁** セイサイ さばき  
**典型** テンケイ てほん、かた  
**典侍** テンシ 陛下におつかへする女官の名  
**典型** テンケイ てほん  
**典雅雄渾** テンガユウコン 典雅は正しくし、雄渾は力強くして整ひたること  
**政權** セイケン まつりごとのけんり  
 地二、九  
 歴一、二七  
 修三、二〇  
 歴一、二七  
 讀四、二四  
 地一、一

政刑 セイケイ まつりごとと人をばつるすこと  
 政策 セイサク まつりごとのと리카た  
 政體 セイタイ 政事のかたち  
 政治上 セイヂヤウ まつりごとをとるうへ  
 壯麗 サウレイ 大きくきれいな  
 壯年 サウネン 若い時のこと  
 壯觀 サウクワン りつげなながめ  
 壯丁 サウテイ 満二十歳になつた男子  
 佛門に入る ブツモン 佛教に入ること

歴二、六  
 歴三、二〇  
 地二、一  
 地二、一  
 歴二、五  
 歴二、四  
 地二、九  
 讀四、六

佛教 ブツケツ とよむ 釋迦の教へ  
 佛像 ブツゾウ ほとけのすがた  
 佛師 ブツシ 佛像をつくる人  
 奉戴 ホウダイ 1. いただきたてまつる 2. かしらにいただくこと  
 奉還 ホウクワン かへしたてまつること  
 奉祀 ホウシ まつる  
 奉養 ホウヤウ おやをやしなふこと  
 非難 ヒナン あしきことをなじること  
 非常 ヒヤウ なみならぬ

歴二、五  
 歴二、五  
 歴二、三  
 歴三、二〇  
 歴三、二七  
 讀三、一〇  
 讀女二、七  
 歴三、二六  
 歴三、三

非凡 ヒボウ なみすぐれ  
 非望 ヒバウ みちでないのぞみ  
 直接 チヨクセツ ぢきくに  
 直射 チヨクシヤ まつすぐにあたること  
 直段 ネダン と讀む  
 直隸 チヨクレイ すぐつき  
 直省 チヨクシヤウ とよむ  
 物凄 モノスゴ とよむ  
 物産 ブツサン とよむ

讀女二、七  
 歴二、八  
 歴二、六  
 地二、五  
 算二、三  
 讀二、二〇  
 地二、一  
 讀三、三  
 歴二、六

物部氏 モノベノシ とよむ  
 物部尾輿 モノベノオノコシ とよむ  
 物具 モノノグイ 道具(多くは鐵と其附屬品)一組  
 物品 ブツビン しなもの  
 河内 カハチ とよむ  
 河童 カッパ 獸の名  
 河馬 カバ とよむ 「東京上野の動物園に居る」  
 河畔 カハシ かはのほとり  
 林檎 リンゴ とよむ

歴二、二  
 歴二、五  
 讀四、二五  
 修三、二  
 歴二、七  
 地二、四  
 地二、三  
 算二、三

林泉 リンセン 林に小さい流れ 讀四、二〇  
 林泉 リンセン 林もあれば泉もある 歴三、一  
 林子平 ハヤシシヘイ とよむ 歴二、六  
 周章 シウシヤウ あわてること 歴二、三  
 周圍 シウキ まはり 地二、二  
 周邊 シウヘン まはり 算二、六  
 周旋人 シウセンニン せはする人 讀二、三  
 周旋 シウセン とりもつ 讀三、三  
 周密 シウミツ こまかにゆきとどくこと 讀三、三

周回 シウクワイ まはり 地三、一  
 阿部仲麻呂 アベノナカマロ とよむ 歴二、九  
 阿多福 オダフク 頬ふくれて鼻低き女 歴二、九  
 阿諛 アユ おもれること 歴二、九  
 阿片 アヘン とよむ 地二、一  
 阿波 アハ とよむ 歴三、三  
 空地 アキチ あいてゐるとち 讀女二、六  
 空竹割 カラダケワリ まつぶたつにわること 讀女二、六  
 空漠 クウバク 1.ただひろいこと  
 2.なにもとりとめのなきこと

空文 クウブン ないとおなじでやくに立たぬこと 讀四、九  
 空海 クウカイ とよむ 歴二、二〇  
 委任 イニン まかせること 讀女二、一  
 委しく クハ とよむ 讀女二、八  
 委ね ユダ まかすること 歴二、九  
 依頼 イライ 人にたのむこと 修四、二六  
 依怙 エコ ひいき 歴二、二五  
 依然 イゼン もとのとほり 歴二、二五  
 放火 ハウカ 火をつける 八 畫

放散 ハウサン はなららる 地三、三  
 放任 ハウニン かまはぬ 地三、三  
 放蕩 ハウダウ あそびにふける 地三、三  
 放恣 ハウシ かつて 地三、三  
 奇怪 キクワイ ふしぎ 讀三、二  
 奇功 キコウ 思ひがけない手柄 讀三、二  
 奇談 キタン 面白い話 讀二、三  
 奇石怪岩 キセキクワイガン めづらしい石や面白形をした岩 讀四、二〇  
 奇異 キイ 珍らしいこと 讀二、二四

争奪	争闘	佳なり	佳辰	佳良	宗門	宗教	宗家	宗谷海峡
あらそひとること	1. あらそひ 2. けんくわ	よい	めでたき日	よいこと	宗教の門	とよむ	本家のこと	本州と北海道とのあ ひだのほそいうみ
讀三、二五	讀二、一九	地二、三	歴三、一八	歴三、二	歴二、五	歴三、二	歴三、二	地三、四
争衡	和親通商	和漢	和泉	和樂	和歌	知見	知徳	知己
あらそひ	したしみあきな ひなすること	日本と支那	とよむ	日本の音楽	三十一文字のうた	ちしきかんがへ	智識と道德	知り人
讀三、二五	歴三、二六	歴一、二六	歴二、一九	讀四、一四	歴一、九	讀女一、二五	修四、二五	讀一、三

知友	知藩事	知照	秀才	秀衡	秀麗	定款	定見	定期航海
1. しりびと 2. ともだち	とよむ 知事と藩主と	つげしらせ	すぐれた さいち	とよむ	ひいでてう るばしい	法人のきやく	しかときまつ たかんがへ	ときをさだめて 海をわたること
讀女一、四	歴三、一八	讀三、二五	歴一、九	歴二、五	讀三、一八			地一、一
定期汽船	牧場	牧畜	牧養	屈指	屈辱	供御	供給	供奉
ときをさだめてう みをわたるきせん	牛豚などをばな しておくところ	牛豚などを かふこと	けものをかふこと	ゆびをり	はぢ	2. 1. おもの 天子様の御食	もとめに應じて あたふること	おとも
地一、一	讀女一、二	地一、一	地一、六	地一、二	讀四、三	歴三、四	地二、三	歴二、八

**服裝** フクサウ みなり 修四、九  
**服務** フクム つとめ 讀三、七  
**服膺** フクヨウ 心にとめて  
まもること 讀三、七  
**英邁** エイマイ 人にすぐれて居ること 讀四、三  
**英主** エイシュ すぐれた帝王 讀二、三  
**英俊** エイシュン ひどくぬけてす  
ぐれ居ること 讀四、六  
**沿海** エカイ 1.うみぎし  
2.うみにそふた土地 歴三、六  
**沿道** エンダウ みちにそふ  
たところ 歴三、六  
**阻喪** ソウ しほれて勢の  
なくなること 讀四、三

**阻害** ソウガイ じやまになること 讀四、九  
**阻止** ソウシ くいとめること 讀四、八  
**刺客** シカク 勢力あるものをさし、  
るさんとねらふもの 歴三、一五  
**刺激** シケキ つきはげます 歴三、一六  
**到底** タウタイ どうしても 歴三、一六  
**到着** タウチャク つくこと 歴三、一六  
**注意** チユイ きをつける 修三、九  
**注目** チウモク きをつける 地一、四  
**兩黨** リヤウトウ 二つのくみ 歴三、二  
**兩毛** リヤウマウ 上野、下野  
間の鐵道 地二、三

**兩手** リヤウテ 右のてと左のて 修三、三  
**固有** コイウ もとからある 地一、二  
**固定資本** コテイシホ とよむ 家屋など 讀女一、二七  
**京釜** ケイフ 京城と釜山のこととど  
ちらも朝鮮にある 讀女一、二七  
**京城** ケイシヤウ 朝鮮のみやこ 讀女一、二七  
**京阪地方** ケイハンチハウ 京都大阪の方 讀女一、二四  
**青史** セイシ 歴史 讀一、七  
**青銅** カラカネ とよむ 讀一、七  
**青蘭** アチキ 青きぬ 讀一、七

八 畫

**表附き** オモテツキ とよむ 讀女一、二六  
**表面** ヘウメン おもて 地二、一  
**表彰** ヘウシヤウ あらはす 讀三、三  
**治外法權** チウワイハクケン 外國に居りて其國の法  
律に支配されぬ權利  
(國際法上の語) 讀三、三  
**治亂興廢** チランコウハイ 1.たいへいになつ  
たり、おこつたり  
すたれたり  
2.さだまらぬこと 歴三、一五  
**治蹟** チセキ なされた  
るあと 歴三、一四  
**邸中** テイチウ やしきのうち 歴三、一



邸宅 テイダク やしき 歴一、三  
 的證 テキシヨウ たしかなしように、  
 的中 テキチウ あたること  
 肥料 ヒレウ こやし 地一、四  
 肥沃 ヒヨク とちのこえたること 地一、一  
 性質 セイシツ 生れつき 修三、一八  
 念力 レンリキ 一心に子を思ふ力 讀一、三〇  
 念佛 ネンブツ とよむ 讀三、二六  
 波浪 ハラウ なみ 地三、三

波斯 ベルシヤ とよむ 地一、一  
 承認 シヨウニン しようち 歴二、三〇  
 承久の亂 シヨウキウラン とよむ 歴一、二五  
 取引先 トリヒキサキ とくぬさき 地一、一  
 取締 トリシマリ とよむ 歴一、二三  
 雨量 ウリヤウ あめのりやう 地一、一  
 雨衣 アマギヌ あめのふろと ききるきもの 讀女一、一  
 附與 フヨ 與へること 讀四、八  
 附加稅 フカゼイ とよむ 算二、六五

股肱 ココウ 1.ももうで、 2.ななくてならぬ  
 股引 モ、ヒキ とよむ 讀三、二六  
 往來 ワウライ ゆきき 地一、三  
 往々 ワウク たまく 讀女二、三  
 往昔 ワツセキ むかし 地二、九  
 命脈 メイミヤク いのち 歴二、四  
 命數法 メイスイウハフ かすのよびかた 算一、  
 季節 キセツ じせつ 地三、五  
 季候 キゴウ ときどきのきこう 歴二、一八

卑族 ヒソク 卑しい家柄 讀四、二  
 卑屈 ヒクツ 心のひれくれて居ること 修四、六  
 彼我 ヒガ かれとわれ 歴一、四  
 彼岸 ヒガン とよむ 讀女二、三  
 門弟 モンテイ でし 讀一、七  
 門徒 モント しんじや 讀三、二  
 居所 キヨシヨ ぬどころ 歴一、一五  
 居留民 キヨリウミン ほかの國にとま 歴二、二〇  
 岩倉具視 イハクラトモミ とよむ 歴二、一九

八畫

岩代 イハシロ とよむ 地三、三  
 卓越 タクゾツ 人にすぐれること 讀三、三  
 卓上 タクジョウ つくゑの上 讀三、二  
 炎熱 エンネツ ごくあつきこと 讀三、三  
 奔流 ホンリウ 急流に同じ 讀三、三  
 奔馬 ホンバ はしるうま 讀三、二  
 刻苦 コクク 骨を折つて勉強すること 讀一、六  
 侍女 シヤウヨ こしもと 讀女二、三  
 返答 ヘンダウ こたへ 歴二、六

返濟 ヘンサイ かへす 算一、五  
 征服 セイブク うちしたがへること 歴二、五  
 征伐 セイバツ とよむ 歴一、三  
 夜晒 ヨザラシ よる、そとにだしてをくこと 讀女二、二  
 夜半 ヨハ よなか 讀二、一  
 併呑 ヘイドン 1.あはせのむ 2.あはせてとること 歴三、五  
 底止 テイシ とどまる 讀三、七  
 附近 フキン きんじよ 地一、一  
 府縣社 フケンシャ とよむ 地二、一〇

招致 セウチ まれきよせること 讀四、七  
 肯んせず ガヘ 承知しないこと 歴一、二  
 油斷 ユダン きをゆるす 讀女二、三  
 妖精 エウセイ ばけもの 讀三、三  
 券面 ケンメン てがたのおもて 算一、五  
 版圖 バント 領分 讀一、二  
 旺盛 ワウセイ さかん 讀三、三  
 忽 ユルカセ おろそか 讀女二、〇  
 免許狀 ノンキョウジャウ ゆるしのかきつけ 歴三、二

八 畫

參與 サンヨク 役の名 歴三、一八  
 岨路 ケヂ 谷間のけほしいみち 讀四、二五  
 枚舉 マイキョ 數へあげること 讀四、六  
 武士道 フシダウ とよむ 歴一、六  
 破す ボツ なくなること 歴一、九  
 榭 マセ とよむ 修三、二五  
 突如 トツジョ だしぬけ 讀三、八  
 尙武 シヤウブ 武をたつとぶこと 歴一、六  
 狀態 シヤウタイ ありさま 地一、四

苦痛 クツウ くるしいこと  
 宛轉 エンテン さながら  
 歩合算 フアヒザン 百分算に同じ  
 享保の治 キヤウハウヂ  
 拙劣 セツレツ まづいこと  
 怨恨 エンゴン うらみ  
 幸福 カウフク さいはひ  
 竝走 ヘインウ ならびはしる  
 面貌 ノンバウ かほつき

修四、四  
 讀三、二  
 算一、三  
 歴二、四  
 讀女二、九  
 讀三、六  
 修三、一  
 地一、五  
 讀女一、一

迴轉 クワイテン クルくまはる  
 受付 ウケツケ とよむ  
 若年寄 ワカドシヨリ 役の名  
 昔日 セキジツ むかし  
 姉妹 シマイ れえさんといもうと  
 協定 ケフテイ 互に相談してきめること  
 押領 オウリヤウ ふんどりすること  
 奈良 ナラ とよむ  
 泥炭 デイタン とよむ

讀女一、九  
 讀女二、八  
 歴二、一〇  
 歴一、二三  
 修三、一  
 讀四、九  
 讀四、二五  
 歴一、八  
 理一、三

炊事 スキジ たべものゝにやき  
 拒絕 キョゼツ ことばること  
 盲啞學校 マウアガクカウ とよむめくらや  
 使節 シセツ つかひ  
 昇殿 ショウテン こてんにあ  
 社會 シヤクワイ よのなか  
 刷子 ハケ とよむ  
 苛酷 カコク 1.むごいこと  
 2.くるしめる  
 叔姪 シユクテツ なちとめい

讀女一、六  
 歴二、六  
 讀女二、八  
 歴一、三  
 讀三、五  
 修三、七  
 理一、一  
 修三、六  
 歴一、一〇

恒例 コウレイ 1.つねのならばし  
 2.あたりまへ  
 軋轢 アツンキ なかがわるいこと  
 披露 ヒロウ ひろめ  
 拘泥 コウデイ 1.かかばりなづむこと  
 2.それにばかりよること  
 快々 クワイクワイ 心地あしきこと  
 杵 キネ とよむ  
 沛然 ハイゼン 雨がさかんに  
 ふるありさま  
 泡沫 ハウマツ あわ  
 冒險 バウケン あぶないこと  
 をなかすこと

歴二、四  
 讀三、二七

欣喜 キンキ よろこぶ

波濤 ハトウ おほなみ

杯洗 ハイセン さかづきを  
あらふもの

松明 タイマツ とよむ

剗る エグ とよむ

孟蘭盆 ウラボシ 七月の靈祭

亞爾然丁 アルゼンチン 北米にある國の名

怯懦 ケラダ おくびやう

狙撃 ソグキ れらひうつこと

宗匠 ソウシヤウ ししやう

芹 セリ 草の名

剗那 セツナ きはめてみじかき間

苛責 カシヤク むごいせめかた

抽象 チウシヤウ かたちをばなれ  
てのかんがへ

拂底 フツテイ しなぎれ

抹殺 マツサツ けしてしまふこと

呶鳴 フナル 大聲にて云ふこと

忿怒 フンド いかること

九 畫

呻吟 レンギン うめくこと

抽籤 チウセン くじをひくこと

昇給 シヨウキツ きふれうがあがること

爬蟲 ハチウ はつてあるくむし

拔擢 バツアキ めきだす

收縮 シウシュク ちぢむ

枕頭 チントウ まくらべ

怪訝 クワイガ 1. へんなこと  
2. いぶかしいこと

咀嚼 ソシヤク かみくだくこと

刮目 カツモク 目をみはること

九 畫

効奏 ガイソウ 天子さまにわる  
く申上ぐること

契約 ケイヤク やくそく

風説 フウセツ せけんのはなし

風流 フウリウ みやびなること

風土 フウド とちのありさま

風浪 フウロウ かぜなみ

歴一、一六

歴二、三

地三、六

讀女一、一〇

風浪險惡フウロウケンアク 風や、海の波から起る危険の甚だしいこと 讀一、一〇

風致フウチ 1. よいけしき 2. おもむき 讀三、一八

風俗フウゾク 1. ならはし 2. 人のありさま 歴一、六

風物フウブツ ありさま 讀女一、四

風化フウクワ といふ風にふれて物がかけること 地二、三

風潮フウテウ なりゆき 讀三、二六

風情フウセイ ありさま 讀三、二

風景フウケイ けしき 地一、三

風習フウシユ ならはし 地一、一

風儀フウギ ならはし 修三、一

風靡フウビ おしなべてしまふこと 讀四、三

信用シンヨウ 信すること 修三、三

信賴シンライ 1. しんじたのむ 2. 心からたのむ 歴一、四

信義シンギ まことのみち 修三、八

信書シンショ てがみ 歴二、二

信徒シント しんじや 歴二、三

信任シンニン 信用 歴一、一〇

信越シンアツ 信濃、越前、越後間の鐵道 地二、三

信教シンキョウ 宗教を信すること 修三、三

信仰シンカウ とよむ 歴二、二六

相模サガミ とよむ 歴一、二五

相互サウゴ たがいたがいの 修三、五

相副はずアヒン そろはぬこと 歴三、一八

相對スアヒダイ むかひあつてなる 歴一、三

相関ぐアヒヒメ なかがわるいこと 歴三、三

相背けりアヒソム せあはせになつてなる 地一、六

相傳ふアヒツタ とよむ 歴一、七

相場サウバ とよむ 算一、二

相應じアヒオウ 一しよになつて 歴二、一八

相殺サウサツ 二人互に同種の義務を負へる場合に相譲りてその債務を免るること(法律上の語) 歴二、一

相善からずアヒヨク なかがよくない 歴三、一

相當サウタウ とよむ 讀女一、三

相續サウゾク あとをつぐこと 歴三、三

相當サウタウ てごる 修三、一〇

要路エウロ たいせつなみち 地一、二

要塞砲エウサイハウ 大砲の一種(据附けの大砲) 讀一、九

要所 エウシヨ だいにじなところ 歴一、七

要求 エウキウ 1.もとむること 2.のぞみ 歴二、一九

要撃 エウゲキ 敵を待ちうけて攻めること 讀一、八

要地 エウヂ だいにじな土地 地一、一

要害 エウガイ じぶんのためには利で、てきのためにはがいがあるところ 歴二、九

要津 エウシン だいにじなふれつき場 地一、一

要港 エウカウ だいにじなみなと 地二、九

要塞 エウサイ と讀む 軍事上大切なところ 歴二、二〇

皇女 クワウヂョ 天子さまの女のお子さま 歴一、三

皇緒 クワウヂョ 天子さまのみよつぎ 歴一、八

皇位 クワウキ 天子さまのみくらゐ 歴一、一

皇威 クワウキ 天子さまのごゐ、わう 歴一、三

皇子 クワウジ 天子さまのお子さま 歴一、三

皇統 クワウトツ 天子さまのおちすぢ 歴一、一

皇基 クワウキ 王業のもとゐ 歴一、八

皇室典範 クワウシツテンパン 天子さまのおうちのことなをさだめたるごきそく 歴二、八

皇帝 クワウテイ てんしさま 地一、三

皇城 クワウシヤウ 天子さまのおすまひ 地一、一

協賛 ケフサン ともに心をたくしさんせいすること 歴一、八

協力 ケフリョク 1.力を合せて 2.いつしよになつて 修三、五

協定 ケフテイ けふぎしてさだむること 歴二、一九

協心 ケフシン こころをあはせること 歴二、八

協同 ケフドウ 一しよになつて互にたすけあふ 地一、五

協せ ケフセ とよむ 讀女一、八

軍備 グンビ いくさのそなへ 歴一、二

軍記 グンキ いくさのことなをかけた本 讀女一、七

軍器 グンキ いくさだうぐ 地二、九

軍職 グンシヨク 軍人のつとめ 歴一、一五

軍機處 グンキシヨ とよむ 地一、一

軍資 グンシ いくさのもとで 歴二、一九

威信 ケイシン ねげんとしんよう 歴二、三

威壓 ケイアツ じぶんのねくわうでおしつけること 歴二、一九

威令 ケイレイ ねくわうめいれい 歴二、一五

威權 ケイケン けんゐ 歴一、七

威海衛 ケイエイ とよむ 地一、一

威儀 ケイギ いかめしき禮儀作法のありさま 歴二、八

九 畫

急卒 キフソツ 大いそぎに事をなすこと  
 急劇 キフゲキ はげしい  
 急湍 キフタン 急流に同じ  
 急激 キフゲキ にはかにはげしく  
 急務 キフム いそぎのつとめ  
 勅使 チヨクシ てんしさまのおつかひ  
 勅裁 チヨクサイ 天子さまのおさばき  
 勅撰 チヨクセン 天子さまがおえらみなさること  
 勅令 チヨクレイ 天皇陛下の御命令

讀一、七  
 歴三、四  
 地二、四  
 地二、三  
 歴三、九  
 歴三、七  
 歴三、六  
 歴一、三  
 修四、二

勅許 チヨクキヨ 天子さまのおゆるし  
 勅旨 チヨクシ 天子さまの御心  
 飛翔 ヒシヤウ とびかけること  
 飛脚 ヒキヤク 人のつかひとなつて遠くへ行くもの  
 飛道具 トビダウグ 弓、鐵砲など  
 飛散 ヒサン 飛びちること  
 飛驒 ヒタ とよむ  
 指導 シダウ 1. さしづ  
 2. ひきまはす  
 指揮 シキ さしづ

歴一、一八  
 歴三、二〇  
 歴四、三  
 讀女一、二六  
 讀女一、九  
 讀一、三  
 地二、三  
 歴三、二〇  
 歴三、八

指圖 シツ とよむ  
 指彈 シタン つまはじき  
 指摘 シテキ とり立て、云ふこと  
 指定 シテイ さしきだめる  
 音信 インシン たより  
 音物 オンモノ 1. おつかひもの  
 2. おくりもの  
 音聲 オンセイ こゑ  
 音韻 オンキン こゑとひびき  
 故郷 コキヤウ ふるさと  
 うまれた土地

讀女一、八  
 歴一、九  
 讀四、三  
 讀一、四  
 歴三、二  
 修四、八  
 讀女一、四

故障 コレヤウ さしきばりの出來事  
 故事 コジ ふるきこと  
 故意 コイ わざとすること  
 勇壯 ユウサウ いさましい  
 勇猛 ユウマウ いさましくたげきこと  
 勇往邁進 ユウワマイシン 勢ひよく進んで行くこと  
 勇敢 ユウカン いさましい  
 建築 ケンチク ふしん  
 建築物 ケンチクブツ たてもの

讀一、五  
 讀一、四  
 歴一、一六  
 歴一、一  
 讀四、三  
 歴一、五  
 地二、五

建設作用 ケンセツサヨウ つくりあげ  
 建設 ケンコクイライ 國をたてはじめ  
 建設以來 ケンコクイライ 國をたてはじめ  
 建立 ケンリツ 佛寺などを  
 建議 ケンギ 申し立てること  
 苦心 クシン なんぎ、しんぱい  
 苦心 ククワン のこと、ほれをり  
 苦心 ククワン くるしみわづらふ  
 苦行 クギヤウ つらきおこなひ  
 苦惱 クナウ くるしみ  
 苦勞 クラウ しんぱい

地三、三  
 地三、九  
 歴一、五  
 歴二、七  
 歴三、九  
 讀三、二九  
 讀三、二九  
 讀女二、二五

若干日 シヤクカンニチ いく日か  
 施餓鬼 セガキ 無縁の亡者に讀經  
 施政 シセイ まつりごとの  
 施藥院 セヤクイン ほとこしかた  
 施米 シマイ 1.こめをほどこすこと  
 施行 シカウ 2.ほどこす米のこと  
 施設 シセツ おこなふ  
 胡麻 ゴマ 植物の名  
 胡瓜 キウリ 瓜の一種

算三、五  
 歴三、二四  
 歴一、八  
 讀三、二八  
 讀女二、二四

胡桃 クワ 木の名  
 胡椒 コセウ 果實の名  
 胡亂 ワロン 怪しいこと  
 砂糖 サトウ と讀む  
 砂浴 サヨク すなをあびること  
 砂丘 サキウ すながあつまつて  
 砂濱 サヒン たかくなつたをか  
 品性 ヒンセイ すなばま  
 品位 ヒンピ せいしつ  
 九 畫  
 人のれうち

地一、一  
 地二、三  
 地二、三  
 地二、二  
 讀女二、三  
 讀女二、八  
 修四、七

品質 ヒンシツ しながら  
 後胤 コウイン うすぢの人  
 後患 コウクワン あとのうれい  
 後事 コウジ あとのことなさ  
 後見 コウケン うしろみ  
 星霜 セイサウ としつき  
 星辰 セイシン ほし  
 星疎 ホシマバラ ほしの少ない  
 侵蝕 シンシヨク なかしたること

地三、二  
 讀四、二五  
 歴三、九  
 歴三、八  
 歴三、二七  
 讀女二、二四  
 讀三、二三  
 地二、三



侵す オカ てをつける

侵略 シンリヤク 1. なかしかすめる  
2. とること

侵略 シンリヤク なかしたること

貞永式目 テイエイシキモク とよむ

貞操 テイサウ 正しいみさを

貞順 テイジュン よくをつとに  
したがふこと

貞烈 テイレツ みさをただ  
しきこと

食卓 シヨクタク ていぶる

食盡し クヒツク とよむ

修三、二

歴三、一

地二、一

歴一、七

修四、八

讀女二、八

讀女二、三

讀女二、三

女二、六

食膳 シヨクセン 食物をのせるせん

食鹽 シヨクエン しほ

約束 ヤクソク とよむ

約分 ヤクブン おんすうを  
やくすこと

約數 ヤクスウ と讀む

待遇 タイグウ もてなし

持續 チソク もちつづけること

持久の策 チキウノサク ながくもちつ  
づけるてだて

首相 シユシヤウ 1. かしら  
2. 日本の總理大臣にもいふ

讀女二、二

地三、三

修三、二

算一、六

算一、三

歴一、六

歴三、六

歴三、三

讀三、七

首府 シユフ 國王のおいで  
なされるみやこ

首魁 シユクワイ かしら

首班 シユハン かしら

重要 ヂユウエウ だいじなこと

重税 ヂユウゼイ おもい税金

重祚 ヂユウソ 二度御位におつ  
きなされること

重大 ヂユウダイ よういならぬこと

美風 ビフウ よいならほし

美術工藝品 ビシユツコウガイヒン きれいなもの  
さいくもの

地一、一

歴三、七

地三、九

歴三、二

歴二、三

歴一、七

歴三、六

修三、四

地二、三

美味 ビミ うまいあぢほひ

狩衣 カリキヌ 狩に行くとききる衣

狩野派 カノハ と讀む

狩獵 シユレウ かり

英傑 エイケツ すぐれたがうけつ

英邁 エイマイ すぐれてか  
しこい

英靈 エイレイ ひいでたる  
たましい

英領印度 エイリヤウインド と讀む

叛亂 ハンラン そむき亂を  
なすこと

地二、六

讀二、七

歴二、四

歴一、三

讀三、七

歴三、四

讀三、三

地一、一

讀四、二

**叛服** ハンブツク そむいたり  
**叛逆** ハンギャク むほん  
**叛臣** ハンシン そむいたけらい  
**保持** ホア いつまでももつてゐること  
**保護** ホゴ まもること  
**保存** ホソン たいせつにのこしておくこと  
**突起** トツキ たかくでてゐること  
**突然** トツゼン だしぬけ  
**突出** トツシュツ つきでる

歴一、二〇  
 讀三、二  
 歴二、七  
 修三、四  
 歴一、三  
 歴二、三  
 讀女二、六  
 歴二、六  
 地一、一

**突兀** トツコツ たかくつきでた  
**美談** ビダン 立派な話  
**美術** ビジュツ とよむ  
**美妙** ビョウウ うつくしくたへなる  
**美麗** ビレイ うつくしい  
**南京** ナンキン 支那の一都會  
**南端** ナンタン みなみのぼし  
**南蠻人** ナンバンジン と讀む  
**珍果** チンクワ めづらしいくだもの

讀一、二  
 讀二、三  
 歴一、五  
 讀三、三  
 歴一、五  
 歴二、六  
 歴二、六  
 讀女二、三〇

**珍品** チンピン めづらしいしな  
**珍味** チンミ 1. めづらしくよいあぢのたべもの  
 2. あぢのよいもの  
**便利** ベニリ つがふのよいこと  
**便益** ベニエキ べんりとりえき  
**便宜** ベニギ べんりのため  
**前代** ゼンダイ 前の世  
**前途** ゼント さきのこと  
**前驅** ゼンク さきがけ  
**面貌** メンバウ かほかたち

讀三、六  
 讀女二、三  
 地一、一  
 修三、七  
 地二、七  
 歴一、六  
 歴二、六  
 歴二、七  
 讀一、一

**面目** メンボク と讀む  
**面會** メンクワイ あつて話をすること  
**面積** メンセキ ひろさ  
**奇數** キスウ 二つではわれぬかす  
**奇異** キイ めづらしく  
**奇峯** キホウ めづらしい形  
**度量** ドリヤウ こゝろもち  
**度量衡** ドリヤウカウ ものさし、ます、はかり  
**度支部** タクシブ と讀む

歴一、六  
 讀一、六  
 地一、一  
 算一、三  
 讀女二、三〇  
 讀女二、二  
 修三、七  
 算一、六  
 地一、一

宣傳

云ひ傳へひろめること

讀四、三

宣布

命令を世に發布すること

讀四、三

宣教師

キリスト教をひろめるやく

歴三、三

香奠

死人にそなへる金品

歴三、三

香氣

かほり

讀女二、三

香料

とよむ

地一、一

封筒

じやうぶくろ

讀女二、六

封書

ふうじたてがみ

算三、八

封建

諸侯に領地を與へて之を世襲せしむること

讀四、二

活動

うごきはたらく

地二、三

活動寫眞

寫眞の名

活花

とよむ

讀女二、六

孤獨

ひとりもの

讀三、七

孤兒院

親のない子供を集めて養ふところ

修三、九

孤島

はなれじま

讀三、七

珊瑚礁

と讀む

地一、二

珊瑚

さよむ

地二、三

政子

とよむ

歴一、五

政廳

まつりごとをとりやくしよ

歴一、五

政務

まつりごと

歴一、五

神道

かみのみち

歴二、五

神勅

神さまのおほせ

歴三、三

降伏

かうさん

歴一、二

降雨

あめふり

地一、一

畏怖

おそれ

讀三、元

畏敬

おそれうやまふ

讀女二、三

怨靈

死人のたたり

九 畫

怨聲

うらみのこゑ

歴二、四

奏上

天子さまに申しあげる

歴二、六

奏請

申し上げ

歴一、五

勃興

ますく盛んになること

讀四、七

勃起

おこり立つこと

歴二、二

勃然

にはかに

讀三、一〇

祈禱

いのり

讀三、一五

祈念

いのる

地一、三

城壁

しろのかべ

地一、三

紀伊 キイ とよむ  
 紀綱 キカウ くにのしまり  
 となるきそく  
 染物 ソモノ とよむ  
 染料 センレウ そめ色の材料  
 版圖 ハント りやうぶん  
 版籍 ハンセキ 土地と人民  
 郎從 ラウジュウ けらい  
 郎黨 ラウタク けらい  
 怠惰 タイダ なまけること

歴一、二  
 歴三、一〇  
 歴二、九  
 地一、三  
 地二、三  
 歴一、八  
 讀三、七  
 讀三、六  
 修四、四

廻轉 カイテン 自由にめぐること  
 廻廊 クワイラウ めぐりろうか  
 卑劣 ヒレツ ごくいやしい  
 卑怯未練 ヒケツミレン おくびやう  
 思想 シサウ 1. 心に考ふること  
 2. かんがへ  
 炳然 ヘイゼン かがやくありさま  
 炳として ヘイ あきらかに  
 ひかること  
 胞子 パウシ とよむ  
 胞衣 エナ とよむ

讀一、九  
 讀四、二  
 讀女二、九  
 歴一、六  
 修三、二  
 歴二、二〇  
 讀三、一〇  
 理一、三

洗面所 センメンショ かほをあらふばしよ  
 洗濯 センタク あらふ  
 祖先 ソセン せんぞ  
 墳墓 フンボ 先祖代々のお墓  
 のあるところ  
 修繕 シウセン つくろひなほす  
 修交 シウカウ 互に交りを結ぶこと  
 扁額 ヘンガク たくは時の字は日  
 扁・旁 ヘンツクリ 扁で、旁は寺である  
 額 ガク がく  
 袂を連ねて タモトツラ 一しよに

九 畫

讀女二、二  
 修三、四  
 讀二、四  
 修三、九  
 讀四、三  
 歴一、三  
 讀三、七  
 歴三、九

袂 タモト とよむ  
 拜謁 ハイエツ 天子さまの御か  
 ほを拜すること  
 拜啓 ハイケイ つしんで  
 申し上ぐ  
 洛陽 ラクヤウ 首都のこと  
 洛東江 ラクトウコウ とよむ  
 是非 ゼヒ ごうしても  
 是非曲直 ゼヒキョクチョク よしあし  
 洋墨 イヤウ 西洋の墨  
 洋書 ヤウショ せいやうのかきもの

歴三、一九  
 讀四、二  
 地二、三  
 讀女二、五  
 修三、一〇  
 歴二、二四

軌道 キダウ 汽車の線路 レール

讀一、二

炬燵 コタツ とよむ

炬火 キョクワ かがりび

恍氣 トボケ ほげたる風をなすこと

恍惚 コウコツ うつとりすること

重着 カサネギ 幾枚も重ねてきること

眉 マユ とよむ

泉路 センロ 死出の道

計畫 ケイクワク しくるみ

降臨 カウリン おくだりなさること

歴一、一

律令 リツリヤウ とよむ  
ほふりつめいれい

歴一、七

洪水 コウスイ おほみづ

歴一、四

革新 カクシン 根本から改めること

讀一、三

高熱體 カウネツタイ れつのたかいもの

地一、一

畠山 ハタケヤマ とよむ

歴一、一

苛性ソーダ カセイ とよむ

理一、元

負擔 フタン わりまへをだすこと

讀一、九

英明 エイメイ すぐれたること

歴一、三

恤兵部 シユツペイブ とよむ

盾 タテ 矢玉をふせぐだらうぐ

陋習 ラウシツ いやしきならはし

弭 ニハズ 弓のはし

迫り セマ とよむ

淺間山 アサマヤマ とよむ

彦根藩主 ヒコネハシシユ とよむ

訃 フ 死んだしらせ

柳生宗矩 リウセイムネノリ とよむ

九 畫

讀一、一七

讀女一、九

歴一、一八

歴一、二

地一、三

地一、三

歴一、一六

讀一、三

讀一、三

苔 コケ 岩、地面などに  
生える小さな草

地一、一

恰好 カツカウ ちやうどよい

讀一、一八

柔儒 ジュウ なまけること

讀一、一八

帝國憲法 テイコクケンポフ 日本の國のたい  
せつなるきそく

歴一、一八

明主 メイシュ 明の王さま

歴一、一

茅 カヤ 草の名

歴一、五

刺繡 シシヤウ むひとり

歴一、五

幽閉 イウヘイ おしこめ

歴一、一八

竿 ササ とよむ

算一、四

直立 チヨクリツ まつすぐにたつこと 讀女一、一

革む アラタ なほすこと 歴三、二四

恢復 クワイフク もとのとほりにかへすこと 歴二、二五

針小棒大 シンセウボウダイ 針ほどの小きことを、棒ほど大きくいふこと 讀三、元

咽喉 インゴウ のど 地一、一

怒濤 ドタウ 大なみ 讀三、三

枯草 カレクサ とよむ 算二、一三

貢獻 コウケン 國の爲人の爲になること 讀二、四

俗境 ゾクキョウ あたりまへなところ 讀三、二八

削滅 サウゲツ けつりへらすこと 歴三、九

屈辱 クツジヨク はぢ 讀三、八

海賊 カイソク とよむ 歴二、二

沸騰 フットウ わきあがること 歴三、二六

洞窟 ドウクツ うる 地二、三

皆無 カイム 一つもなく 讀女二、二八

院宣 インセン 院のみこと 歴二、二五

疫病 エキビヤウ やまひ 歴二、五

契約 ケイヤク やくそく 算二、六

研究 ケンギユウ みがききはむること 歴三、二六

紅海 コウカイ アフリカとアラビアとの間の海 地二、一

侮慢 ブマン 人をばかにすること 讀三、六

柱石 チュウセキ 2.1.柱のいしすゑ 大せつな人 讀三、五

酋長 シュウチャウ かしら 地二、一

津浪 ツナミ 大なみが海岸におそひ來るもの 地二、四

胎生 タイセイ 卵でなく、動物のかたちになつて生れるもの 理一、一

柴田勝家 シバタカツイヘ と讀む 歴三、八

派遣 ハケン 他にさしつかはすこと 讀四、一三

糾合 キウガフ ただしあはせること 歴二、九

昭代 セウダイ たいへいのみよ 歴三、一八

即位 ソクキ の禮 レイ みくらぬにおつきなされたぎしき 歴二、二

客氣 カクキ 一時に起つた考なしの勢 讀四、三

容れ イ とよむ 讀女二、八

哀悼 アイダウ かなしみいたむ

咫尺 シセキ ごくちかいこと

俠客 ケウカク をとこだてのある人

段階 キダハシ だんくいのこと

映寫 エイシヤ うつつ

射擊 シヤゲキ うつ

秋水 シウスエ 1. 秋の水  
2. 刀

胣 アカギレ 寒氣のため手  
足が切れるもの

耐久 ダイキウ ながくもつこと

蛋白質 タンパクシツ たまごのしろみ  
のやうなもの

剃髮 テイハツ かみをそること

保 オモカゲ とよむ

炯眼 ケイガン ひかる目つき

臥薪嘗膽 クワシンシヤウタン 苦勞すること

哄笑 コウセウ 大わらひ

穽 オトシアナ とよむ

莓 イチゴ 草の名

昵近 ニツキン なれちかづくこと

狹隘 ケツアイ せまくるしい

玲瓏 レイロウ すきとほつてあ  
きらかなること

拮据 キツキヨ すておかすにべん  
きやうすること

剃刀 カミソリ 髪をそる刀

家譜 カフ 系圖

陸進 リクシン だんくのぼる

冠者 クワンジャ げんぶくした男の子

春雨 ヘルサメ とよむ

珈琲 コヒー 飲みもの

咳嗽 カイサウ せきばらひ

救濟 キウサイ すくふ

柘榴 ザクロ 木の名

匍匐 ホフク ばらばふこと

九 畫

卑近 ヒキン てぢか

畏服 イフク おそれしたがふ

衍義 エンギ とよあかし

狡猾 カウクワツ わるがしこい

苗代 ナヘシロ 稻の苗をつくるところ

柝木 タクボク ひやうしぎ

看破 カンパ みやぶる

洒落 シヤレ おどけ

疣 イボ とよむ

梶カイヅナ 小ききつち  
 苞ツト 葉の入れもの  
 俊才シユンサイ オのすぐれたる人

十 畫

海洋カイヤウ 1. うみ  
 2. 小海大海  
 海洋性カイヤウセイ とよむ  
 海岸カイガン うみぎし  
 海岸線カイガンセン 海岸の出入

地二、一  
 地二、一  
 地二、五  
 地二、二

海上カイシャウ 海の上  
 海運カイウン 海上の交通  
 海流カイリウ うみのながれ  
 海路カイロ ふなぢ  
 海拔カイバツ うみをぬくこと  
 海砂カイシャ うみすな  
 海風カイフウ うみかぜ  
 海峡カイケツ 海のせまきところ  
 海軍小尉補カイグンセウキホ とよむ

地二、一  
 地二、一  
 地二、四  
 地二、四  
 地二、五  
 地二、三  
 地二、五  
 地二、五  
 地二、四  
 地二、一  
 地二、一

海棲生物カイセイセイブツ うみの中にする  
 海邊カイヘン 海の近邊  
 海潮干満カイテウカンマン 海の潮の増したり減じたりすること  
 海事思想カイシシヤウ 海につきてのかんがへ  
 海峡殖民地カイケツシヨクミンチ とよむ  
 海棠カイダウ 木の名  
 海豹アザラシ とよむ  
 海豚イルカ 魚の名  
 海嘯カイセウ つなみ

十 畫

海參イリコ 魚の名  
 家督カトク あととり  
 家督相續カトクサウゾク いへのあとつぎ  
 家風カフウ いへのならはし  
 家賃ヤチン とよむ  
 家族カソク 家の人々  
 家事カジ いへのうちのしごと  
 家臣カシシ けらひ  
 家業カグフ 家の仕事

地二、三  
 讀二、一六  
 讀二、一〇  
 地二、一  
 地二、一  
 地二、一  
 地二、一  
 地二、一  
 地二、一  
 地二、一  
 地二、一  
 地二、一



家齊イヘナリ と讀む 歴二、一四  
 家僕カボク めしつかへ 讀三、二四  
 家畜カチク 家に飼養する動物 讀一、一七  
 家柄イヘガラ とよむ 歴一、一七  
 家産カサン 家のさいさん 修三、一四  
 家名カマイ 家のなまへ 修三、一三  
 家筋イヘスヂ とよむ 歴一、一〇  
 時刻ジコク と讀む じかん 算一、七六  
 時鳥ホトトギス とよむ 讀二、二

歴二、一四  
 讀三、二四  
 讀一、一七  
 歴一、一七  
 修三、一四  
 修三、一三  
 歴一、一〇  
 算一、七六  
 讀二、二

時勢ジセイ 世のありさま 歴一、二六  
 時計トケイ と讀む 地一、一三  
 時頼トキヨリ と讀む 歴一、一七  
 時季ジキ じせつ 地三、一五  
 時機ジキ をり 歴一、一八  
 時人ジジン ときの人 歴一、一八  
 高屋カウラク たかいいへ 讀女一、二五  
 高雅カウガ みやびやか 讀三、一三  
 高麗コマ とよむ 歴一、一四

歴一、二六  
 地一、一三  
 歴一、一七  
 地三、一五  
 歴一、一八  
 歴一、一八  
 讀女一、二五  
 讀三、一三  
 歴一、一四

高官カウクワン たかきやく 歴一、一四  
 高度の文明カウド プンメイ たいそうひらけた 地一、一三  
 高原カウゲン たかいばら 地一、一  
 高位カウキ たかいくらぬ 歴一、一五  
 高峻カウシユン たかいこと 地一、一四  
 高地カウチ たかいとち 地一、一六  
 高望タカモチ とよむ 歴一、二  
 高襟ハイガラ 西洋風にかぶれたるつくり  
 高尙カウシャウ けだかい 十 畫

高低カウタイ たかいひくい 地二、一三  
 修築シウチク なほしつくる 讀三、一三  
 修正シウセイ なほすこと 歴一、一七  
 修好シウカウ よしみさを さむること 歴一、二  
 修養シウヤウ 學を修め心を養ふこと 算一、一〇  
 修德シウトク 徳をみがくこと 修四、一八  
 流傳リウデン だんだん四方に傳はつて行くこと 讀四、一三  
 流域リウキキ ながれる場所 地一、一  
 流矢リウシ ながれや 歴一、一四

地二、一三  
 讀三、一三  
 歴一、一七  
 歴一、二  
 算一、一〇  
 修四、一八  
 讀四、一三  
 地一、一  
 歴一、一四

流動資本 リウダウシホン と讀む 資本金など 讀女二二七

流涕 リウテイ なみだをながすこと 歴二、一八

流行 リウカウ はやり 歴一、五

流浪 ルラウ さまよふこと 歴一、二

流鏑馬 キヤブサマ とよむ 歴一、二六

流寓 リウウ ながれすむこと 歴二、四

流出 リウシユツ ながれたす 算一、四

追付く オヒツ と讀む 算一、三

追捕使 ツヅホシ と讀む 歴二、二

讀女二二七  
歴二、一八  
歴一、五  
歴一、二  
歴一、二六  
歴二、四  
算一、四  
算一、三  
歴二、二

追放 ツヅハク おひはらふ 歴三、一五

追贈 ツヅソウ 死んでから位をおくること 讀三、三

追討 ツヅタウ おひうつ 歴一、二

追跡 ツヅセキ あとをおふこと 歴一、二七

追儼 ツヅナ 古民間に行はれたる鬼やらひ

追悼 ツヅタウ 死人をいたむこと

特殊 トクシユ 1. ちがつた  
2. とくべつ  
3. 他にたぐひのない

特有 トクイウ とくべつにもつてなる 地二、七

特質 トクシツ とくべつなせいしつ 歴三、三

歴三、一五  
讀三、三  
歴一、二  
歴一、二七  
地二、七  
地二、七  
歴三、三

特別 トクベツ べつだん 地一、一

特權 トクケン とくべつなるけんり 歴二、二〇

氣力 キリヨク げんき 修四、一

氣脈 キミヤク とよむ 讀三、二五

氣壓 キアツ 大氣のあつりよく 地三、五

氣溫 キオン 大氣のおんじ 地二、五

氣候 キコウ 地形によりて起る寒暖晴雨 地一、一

氣高き ゲダカ とよむ 讀女二、三

氣宇闊大 キウクワフクダイ 器量がひろく大きく 讀三、三

地一、一  
歴二、二〇  
修四、一  
讀三、二五  
地三、五  
地二、五  
地一、一  
讀女二、三  
讀三、三

眞珠貝 シンシユガヒ とよむ 地一、二

眞玉 マダマ とよむ 讀三、一

眞宗 シンシウ とよむ 歴一、一六

眞鍮 シンチユウ 金の名

眞面目 マシメン とよむ

眞摯 シンシ まごころ

振興 シンキウ ふるひおこす 歴二、一四

振作 シンサ ふるほす 讀三、三

振張 シンチャウ ふるひはり 地一、三

地一、二  
讀三、一  
歴一、一六  
歴二、一四  
讀三、三  
地一、三

振起 シキキ ふるひおこすこと

逆立 ギャクリツ 逆に立つて居ること

逆旅 ギャクリヨ 思ふとほりに  
ならぬ世の中に

逆徒 ギャクト むほん人

殺害 サツガイ 人をころすこと

殺傷力 サツシヤウリョク ころしきすつ  
けるちから

殺戮 サツリク 人をころすこと

原價 ゲンガ もとのねだん

原種 ゲンシュ 1. たれ  
2. もと

歴二、六

讀一、六

讀四、七

讀三、二

歴三、二

讀女二、九

歴三、九

算二、六

地二、二

原料 ケンレウ 物をつくるも  
ととなるしな

原因 ゲンイン もと

原古城趾 モトノコノヤウシ もとのふる  
いしろあ

書類 シヨル かきものるぬ

書籍 シヨセキ かきもの

書翰 シヨカン てがみ

書畫 シヨグワ 文字や繪

書齋 シヨサイ 書をよむ室

消費 セウヒ つかひなくすこと

地一、一

歴一、八

歴二、三

歴二、三

歴一、九

歴三、四

讀三、二

讀女二、七

消耗 セウマウ つかひはたすこと

消費者 セウヒシヤ 費して仕舞ふもの

消毒 セウドク 毒のないやうにすること

消散 セウサン きえちる

記録 キロク かきしるす

記録所 キロクシヨ とよむ

記憶 キオク ものを覚えること

記載 キサイ ものにしるすこと

記數法 キスウハフ かすのかきかた

十 畫

起臥 キゴ おきふし

素足 スアシ はだし

素盞鳴尊 スサノヲノミコト とよむ

素質 ソシツ もと

素數 ソスウ ほかのすうで  
はわれぬかす

素麵 ソウメン 食物の名

凍原 トウゲン 土がこほつてをるほら

凍結 トウケツ 水面がこほること

凍雲 トウウン こほつたくも

歴一、三

讀女一、一

歴一、一

讀三、七

算一、三

地二、六

地二、一

讀三、二

凍傷 トウシヤウ しもやけ

草鞋 ワラジ はきもの

草體 サウタイ 竹葉の如くか  
きたる文字

草薙劍 クサナギノツルギ 三種の神器の一

草地 クサチ 草の生えた土地

草案 サウアン したがき

討薩 タウサツ さつまをうつこと

討死 ウチジニ たたかひ死ぬこと

討幕 タウバク ばくふをうつこと

歴、三

歴、一

地、一

歴、六

歴、六

歴、九

歴、七

討滅 タウメイ うちほろぼすこと

容易 ヨウイ たやすい

容易 タヤス と讀む

容喙 ヨウカイ くらげしを  
入るること

容貌 ヨウバウ かほかたち

起臥 キグワ おきたりれたりすること

起伏 キフク 高くなつたり低くな  
つたりしてなること

起草 キサウ 下書をする事

起點 キテン はじめ

歴、七

歴、二

讀女、二四

歴、七

地、七

修、一五

讀、二〇

地、一

配所 ハイシヨ ながされたところ

配當 ハイタウ とよむ

配流 ハイリウ しまながし

配置 ハイチ くばりおく

航程 カウテイ 海のみちのり

航行 カウカウ うみをわたること

航海術 カウカイジュツ 海をわたるてだて

航路 カウロ ふなぢ

娛樂 ゴラク たのしみ

讀、五

算、五

讀、八

歴、五

地、三

歴、九

歴、六

歴、六

讀、二五

娛樂の具 ゴラクノグ 遊び道具

華麗 クワレイ はなやか

華美 クワビ きれいにかざること

華奢 クワシヤ おごり

砲臺 ハウダイ と讀む

砲火 ハウケワ てつばうのひ

砲撃 ハウゲキ てつばうでうつ

馬杷 マゲハ 農具の一

馬 ウマ と讀む

讀、六

歴、二六

修、二〇

歴、二四

地、三

歴、二七

歴、一七

地、一

馬來半島 マライハンダウ とよむ 地三、七  
 乗替へ ノリガ とよむ 算一、五  
 乗組む ノリク と讀む 讀女一、一  
 乘鞍岳 ノリクラダケ とよむ 地三、三  
 荒野 アレノ あればてたのはら 歴三、三  
 荒廢 クワウハイ あれすたること 歴三、四  
 荒海 アラウミ あれたるうみ 讀女二、三  
 案山子 カカシ とよむ 歴二、三  
 案出 アンシユ かんがへだす 歴二、三

地三、七  
算一、五  
讀女一、一  
地三、三  
歴三、三  
歴三、四  
讀女二、三  
歴二、三

案内 アンナイ とよむ 讀女二、一  
 紡錘狀 パウスホシヤウ つむのかたち 理一、一  
 紡織 パウシヨク つむいだり、おつたり 歴二、四  
 紡績 パウセキ 糸をつむぐこと 地一、五  
 恐懼 キヨウク おそるること 歴二、八  
 恐怖 キヨウフ おそれてこはがること 修四、四  
 差支 サシツカ とよむ 算一、四  
 差引 サシヒキ とよむ 算一、四  
 差異 サイイ ちがひ 讀三、二

退却 タイキヤク あとへしりぞくこと 讀一、三  
 退讓 タイシヤウ しりぞきゆづること 修四、六  
 退隱 タイキン いんきよすること 歴二、四  
 根本 コンポン おほもと 歴三、六  
 根據 コンキョ よりどころ 歴一、七  
 根絶 コンゼツ れだやし 歴三、三  
 財源 サイゲン おかれの出るもと 讀三、三  
 財産差押 サイサンサシオサヘ 財産を差押へて仕舞ふこと 讀四、三  
 恩賞 オンシヤウ ほうび 歴一、六

十 畫

讀一、三  
修四、六  
歴二、四  
歴三、六  
歴一、七  
歴三、三  
讀三、三  
讀四、三  
歴一、六

恩遇 オンユウ 有難いもてなし 讀四、六  
 恩義 オンギ おんときり 歴一、六  
 破産者 ハサンシヤ とよむ びん 算二、七  
 破壊作用 ハクワイサヨウ やぶりこはすはたらき 地二、三  
 破竹の勢 ハチクノセイ 竹をやぶるやうなほげしきいきほひ 讀三、七  
 骨牌 カルタ 遊具の一 讀三、七  
 骨董 コトトウ 道具類 歴三、四  
 骨骼 コツカク ほれぐみ 理一、一  
 紛議 ブンギ こたごたすること 歴三、三

讀四、六  
歴一、六  
算二、七  
地二、三  
讀三、七  
讀三、七  
歴三、四  
理一、一  
歴三、三

紛擾	フンゼウ	ごたく	歴三、一九
紛叫	フンキウウ	ごたごたの込み入つたこと	讀四、三
宮垣	ミヤガキ	とよむ	歴二、四
宮號	キユウガウ	宮様の御名	讀四、一
宮闕	キユウケツ	宮中及宮門	地二、九
殉死	ジュンシ	主人と共に死ぬること	歴二、三
殉難者	ジュンナンシヤ	難に殉して死んだもの	讀三、二〇
朗詠	ラウエイ	詩や歌	讀四、七
朗な	ホカラカ	のどかな	讀三、二
疎忽	ソコツ	そ、かしきこと	讀三、一七
貢獻	コウケン	身をささげること	讀女二、四
貢賦	コウフ	1. 心をさめもの 2. みつきものやわりあてものやぐれたること	歴三、四
剛邁	ガウマイ	心がたげくすぐれたること	讀三、八
剛毅	ガウキ	心のつよくたけしいこと	讀三、七
訓誠	クニカイ	教へさとすこと	讀一、一
訓戒	クニカイ	いましめさとすこと	修四、二〇
栽培	サイバイ	つちかひやしなふこと	地一、三
栽植	サイシヨク	植ゑつちかふ	讀三、一七
耕耘	カウケン	たがやすこと	地二、二
耕地	カウチ	たがやす土地	讀女二、二
秘庫	ヒコ	たからぐら	讀三、三
秘曲	ヒキョク	だいじなしらべ	讀女二、二
兼營	ケンエイ	合せて營業すること	讀四、四
兼備	ケンビ	二つともそなはつた	讀女二、三
茫然	バウゼン	ぼんやり	讀三、三
茫茫	バウバウ	ひろい	讀三、二
純金	ジュンキン	まことのきん	算一、三

疎遠	ソエン	ぶさた	修三、一九
貧民病院	ヒンミンビヤウイン	になつたものなすけてやるところ	修三、一九
貧民學校	ヒンミンガクカウ	まづしい家の子供をたどで教へる學校	修三、一九
宴樂	エンラク	さかもり	歴二、二七
宴席	エンセキ	宴會のせき	讀三、二四
祝言	シウゲン	いはひ	讀三、二六
祝賀	シウカガ	いはひのこと	修四、八
留學	リウガク	外國にとごまつてまなぶこと	歴二、六
留意	リウイ	こころをとめる	讀三、三
耕耘	カウケン	たがやすこと	地二、二

純益 ジュニツキ まこと利益 讀三、二三  
 狹隘 ケフアイ せまくろしいこと 歴二、九  
 狹長 ケフチャウ ほそながい 地二、五  
 發動 ハツドウ おこりうごく 讀三、六  
 發育 ハツイク そだち 地二、六  
 陶器 タウキ やきもの 歴二、六  
 陶法 タウハフ 陶器をつくるしかた 歴二、六  
 狼藉 ラウゼキ とりみだしたること  
 狼狽 ラウバイ まごつくこと

恭順 キョウジュン うやまひ 讀三、二五  
 倭姫 ヤマトヒメ とよむ 歴一、三  
 倭寇 ヤク 日本人が支那の海岸をあだしたること 讀四、一三  
 徒歩 トホ なにもものらす 算一、三  
 徒費 トヒ むだづかひすること 讀一、七  
 泰時 ヤストキ とよむ 歴二、一七  
 泰斗 タイト 大そろすぐれた人 歴二、一七  
 紐育 ニウヨク 米國のみやこの名 讀一、六  
 紐 ヒモ とよむ

教導 ケウダウ 教へみちびくこと 讀一、一  
 教師 ケウシ せんせい 修三、一四  
 埋木 ウモレキ 地面の下にうづもれた木、役にたぬこと 讀四、一五  
 埋没 マイボツ うづめてしまふこと 讀四、一八  
 烏有 ウイウ なきものにする 讀四、一八  
 烏賊 イカ とよむ 地二、二  
 秩序 チツジヨ 1. しいだい  
 2. 順序(きまり) 修三、一〇  
 租借地 ソシヤクチ 他國より一定の土地を一定の年限内借りること

租庸調 ソウヨウテウ 租は田地にわりあてたる庸はわりあてたる夫役調はその外のみつきもの 歴一、七  
 租稅 ソゼイ 1. さまめもの  
 2. ねんぐ 歴二、二〇  
 租借 ソシヤク ほかのくにか 歴二、二〇  
 飢渴 キカツ 腹がへりのどの乾くこと 讀一、二九  
 飢饉 キキン こくもつのみらぬこと 歴二、一四  
 茶の湯 チャユ とよむ 歴二、一四  
 茶究 チャセン 茶の湯に用ふるささら 歴四、一五  
 神妙 シンノウ 1. すなほにすること  
 2. やさしくすること

神饌 シンゼン 神さまのそなへもの  
 祠前 シゼン 社の前  
 堀江 ホリエ ほつたうみ  
 納豆 ナットウ たべものの名  
 脅迫 クフハク おごしつけること  
 軒端 ノキバ とよむ  
 夏秋の交 カシウカウ なつとあきのなごころ  
 勉勵 ベンレイ つとめあげむこと  
 病氣 ビヤウキ やまひ

修三、一四  
 歴一、五  
 讀女二、四  
 修三、二  
 讀女二、四  
 讀女二、〇  
 修三、一  
 修三、一九

倒す タダス とよむ  
 宛名 アテナ さきの人の名  
 竝立 ヘイリツ ならびたつ  
 捏造 ネツゾウ ありもせぬことをこねつくること  
 借財 シヤクサイ 1.しやくきん 2.人から金を借りて居ること  
 能力 ノウリョク 1.できるだけのちから 2.物事をわきまへる力  
 秤 ヘカリ とよむ  
 般 イン とよむ  
 採卵種 サイランシユ たまごだけをとりしゆるぬ

修三、一七  
 讀女二、一六  
 歴三、一八  
 讀三、一九  
 修四、一四  
 修四、二  
 修三、一五  
 讀三、一五  
 讀女二、三

專横 センワウ わがまま  
 殘虐 ザンギヤク むごたらしいしかた  
 粉粹 フンスイ うちくたく  
 郡司 ケンジ とよむ  
 屋舎 ヤクシャ 1.家屋におなじ 2.うち  
 唐突 タウトツ だしぬけ  
 陸地 リクヂ をか  
 脈理 ミヤクリ 葉の高くなつてなるすぢ  
 倣ひ ナラヒ とよむ

歴一、一五  
 讀三、七  
 讀三、七  
 歴二、七  
 讀三、八  
 讀三、三  
 地一、一  
 讀女二、〇  
 地一、一

挾む ハサム とよむ  
 挫折 ザセツ くじける  
 降嫁 カウカ 皇女が臣下に嫁すること  
 捕食 ホシヨク とつてくふ  
 峻嶺 シユンレイ けはしいみね  
 派遣 ハケン つかはす  
 院政 インセイ 院のまつりごと  
 衰連 スイレン うんがおとるふこと  
 悄然 セウゼン がっかりしたかたち

地一、一  
 歴三、三  
 歴二、七  
 讀女二、一六  
 讀三、七  
 歴一、三  
 歴一、三  
 歴一、三  
 歴一、三  
 讀四、七



祖母 ソボ おばあさん 讀女二、二六  
 倫敦 ロンドン 英國の首府の名 讀一、六  
 射擊 シヤグキ 銃をうつこと 讀一、八  
 笑止 セウシ 笑ふやうなこと 讀一、二五  
 陣地 チンチ 陣を張つた場所 讀一、八  
 値 ヂ あたひ 算一、七  
 終生 シユウセイ 一生の間 讀一、二九  
 旅行 リヨカウ たび 算一、三五  
 倍數 バイスウ とよむ 算一、三三

恣 ホシイマ かつて 歴一、七  
 莊嚴 サウゴン 大きくておごそかのこと 讀四、二  
 格別 カクベツ これと云ふ目立つたこと 讀一、九  
 倉庫 サウコ 物をしまつて置く倉 讀一、三  
 斑田收授 ハンデンシウジュ 人生れて六歳に至れば  
 之地を賜はり死すれば  
 之れをかへさしむる法 讀一、七  
 秘曲 ヒキョク 誰れも知らぬ曲 讀一、二  
 起原 キゲン おこり 歴一、二  
 荏苒 ジンゼン ぐつぐつと  
 するること 歴一、二  
 脊梁 セキリヤウ せぼね 地一、三

艇子 テイコ とよむ 理一、四  
 珪素 ケイツ とよむ 理一、二七  
 衰亡 スイバウ おとろへほろぶこと 歴一、五  
 浪士 ラウシ 主人をもたぬさむらひ 歴一、五  
 疲弊 ヒヘイ つかれたること 歴一、三  
 島嶼 タウシヨ 1.しま  
 2.大島小島 地一、一  
 補へ オキナ たすこと 算一、四  
 啄む ツイガ くちばしにてつつ  
 いてたべること 理一、二  
 俸給 ホウキツ とよむ 算一、五

狼籍 ラウセキ らんぼう 歴一、七  
 格闘場 カクトウヂヤウ 互に死を決し  
 て戦ふ場所 讀四、二七  
 室町幕府 ムロマチバクフ とよむ 歴一、一  
 後悔 コウクワイ あとでくやむこと 讀一、六  
 恕 ジョ 1.ゆるす  
 2.おもひやること 讀一、六  
 亞刺比亞 アラビヤ とよむ 地一、五  
 疲弊 ヒヘイ つかれ 歴一、一八  
 宵 ヨヒ 夜の早き間 讀女一、三六  
 砥積 シトク 溺るゝところの愛 讀四、三三

俯仰

仰ぎかへりみること

讀四、元

殊功

ぬけ出たお手柄

讀四、一

畢生

出来るだけ  
あるだけの力

讀四、元

師導

よきにみちびくこと

讀四、三

迷惑

人をこまらすこと

修三、二

哺乳類

ちちをのんで成長  
するものたぐひ

理一、一

梁

とよむ

讀女二、七

虐政

むごたらしい  
まつりごと

歴二、元

格言

いましめのことば

修三、一

洪大

ひろくおほきい

讀二、三

茫漠

ひろくほんや  
りしたごと

紛叫

みだれること

軒輕

まさりおとり

凌渌

さらふこと

浸潤

しみる

朔日

ついたり

朔風

きたかた

浮塵子

出い名

畔

田のふち

悔悛

くいあらたむる

宰相

まつりごとをとる人

個人

ひとり

缺乏

1. なくなること  
2. とほしきこと

荆妻

1. 愚妻  
2. 自分の妻のこと

眩暈

目がまぼること

茱萸

木の名

烘饅

菓子の名

十 畫

蚊遣火

蚊いぶし

框

床の上の木

床蓆

かたむしる(舶來の品)

凌辱

をかしばづかしむること

匿名

なまへをかくすこと

紛紜

ふんぬんとよむ(ごたく)

涅槃

不生不滅の意

疼痛

うづきいたむこと

娑婆

この世の中

狸寢入 ヌメネイリ うそれ

脆弱 ゼイジヤク もろくよわきこと

拿捕 ダホ とらへること

挨拶 アイサツ とよむ

粟鼠 リス きれすみ

校正 カウセイ くべらなほすこと

凋落 テウラク はのおつること

埋木細工 ウモレギザイク とよむ

笏 シヤク 束帯のとき手にもつもの

納戸 ナンド きものへや

故障 コシヤウ さしさばり

旋風 センフウ つむじかぜ

疱瘡 ハウサウ 天然のやまひの名

穿鑿 センサク ほりうがつこと

紊亂 ビンラン みだれ

純粹 ジュンスキ まじりけのなきこと

紙幣 シヘイ さつ

索引 サクイン みだし

恐惶 キョウウ おそれかしこむ

容儀 ヨウギ みのかたち

十一畫

國家 コクカ とよむ

國庫 コクコ とよむ 國のおくら

國利民福 コクミンフク 國のためにも民のためにもさいはひなること

國勢 コクセイ くにのいきほひ

國威 コクキ くにのみいつ

十一畫

地二、八

歴二、二

歴二、三〇

地二、三

歴二、二七

國會 コククワイ とよむ

國號 コクガウ くにのなまへ

國標 コクヘウ くにじろし

國土 コクド くにの土地

國手 コクシユ 醫者

國体 コクタイ くにがら

國是 コクゼ その國おほやけのるん

國用 コクヨウ 國のためにつかふおかれ

國分寺 コクブンジ とよむ

歴二、一八

歴二、一九

歴二、二六

歴二、一

歴二、三

歴二、一八

歴二、三

歴二、八

國典 コクテン 國の書物  
 國造 クニミヤツコ といふ  
 國司 コクシ とよむ  
 國債 コクサイ とよむ  
 國幣社 コクヘイシヤ とよむ  
 國寶 コクハツ くにのたから  
 國史 コクシ くにのれきし  
 國政 コクセイ くにのまつりごと  
 國務大臣 コクムダイジン とよむ

讀三、三  
 歴二、二  
 歴一、七  
 地三、九  
 地二、一〇  
 讀四、二  
 歴二、一  
 歴一、七  
 地二、九

國境 コクキヤウ くにざかひ  
 國書 コクシヨ くにのてがみ  
 國交 コクカウ 國と國とのまじはり  
 國葬 コクサウ 國の費用で葬式を營むこと  
 國語 コクゴ くにのことば  
 國情 コクジヤウ くにのありさま  
 御齡 オンヨハヒ 陛下のおとしのこと  
 御製 キヨセイ 天子さまのおつくりなされたおもうた  
 御教授 ゴケウジュ おをしへ

地三、八  
 歴一、六  
 歴三、九  
 讀四、六  
 歴一、三  
 歴三、九  
 讀四、一  
 讀女二、四  
 讀女二、一

御修業 ゴシユゲツ とよむ  
 御無沙汰 ゴブサタ とよむ  
 御詠 キヨエイ 詠じなされ  
 御遺志 ゴキシ おのこしになつたみこころざし  
 御祖宗 ゴソソウ 天子さまのごせんぞ  
 御料所 ゴレウジヨ 天子さまの御私有地  
 御繼嗣 ギヨケイシ おあとつぎのこと  
 御叔母 オンチバ とよむ  
 御葬送 ゴサウソウ おとむらひ

十一畫

讀女二、一  
 讀女二、五  
 讀三、一  
 歴一、三  
 歴二、二〇  
 歴二、四  
 讀四、一  
 歴一、三  
 歴二、四

御歴代 ゴレキダイ 御代代  
 御勵精 ゴレイセイ これつしん  
 御代 ミヨ 御世に同じ  
 御勤務中 コキンムチュウ おしごとをしておいでになること  
 御親署 ゴシンシヨ 陛下の御自身でおかきになつた文書  
 御寢所 ゴシンシヨ おやすみになる所  
 御諮詢 ゴシシユン 陛下の御問  
 御入輿 ゴニラヨ おこし入れ  
 御負傷 ゴフシヤウ おけがなされること

歴二、二〇  
 讀女二、一  
 歴一、九  
 讀女二、一  
 讀女二、一  
 讀四、二  
 讀四、二  
 讀四、三〇  
 讀四、一  
 讀四、一

御當主 オイトマゴ 現在の御戸主  
 御暇乞 オイトマゴ おわかれ  
 御練習 オレンシツ おけいこ  
 御資格 オシヤク とよむ  
 御痛はしさに オイタ ごふびんさに  
 御挨拶 オアイサツ とよむ  
 御企 オクハダラ とよむ  
 御繼承 オケイシヨク 位をおつぎなさること  
 御氣色 オケシキ ごやうす

讀四、一  
 讀女一、一  
 讀女一、一  
 讀女一、一  
 讀女一、一  
 讀女一、一  
 讀女一、一  
 讀女一、一

御曾孫 オソウソ 御ひこ  
 御機嫌 オキゲン ごきぶん  
 御誕辰 オタンシ おうまれなされた日  
 教養 ケウヤウ をしへそだてる  
 教徒 ケウト しんじや  
 教導 ケウダウ をしへみちびく  
 教育 ケウイク をしへそだてる  
 教授 ケウジュ をしふるこ  
 教禁 ケウキン さしとめたしゆうけう

歴二、二  
 讀女一、二五  
 讀女一、二三  
 讀女一、八  
 歴三、三  
 讀女一、一  
 地一、一  
 歴一、三  
 歴三、三

教訓 ケウケン をしへさとす  
 教主 ケウシュ をしへぬし  
 教唆 ケウサ だましてすすめること  
 教化者 ケウカクシャ 教へみちびく人  
 従事 ジュウジ ことにしたがふ  
 従順 ジュウジュン おとなしいすなほなこと  
 従来 ジュウライ これまで  
 従容 ジュウヨウ あせらないこと  
 従兄弟 イトコ 父母の兄弟

十一畫

地一、一  
 修四、三  
 讀四、六  
 歴三、六  
 修三、二  
 歴二、二〇

従士 ジュウシ 1. つきしたがふつばもの  
 2. けらい  
 従屬 ジュウガク つきしたがふこと  
 従者 ジュウシャ けらい  
 連絡 レンラク つづく  
 連雲の勢 レンウン イキホヒ 盛んな勢のこと  
 連比 レンヒ つながりたる比  
 連互 レンゴ つらなりわたる  
 連日 レンジツ まいにち  
 連綿 レンメン つづきたる

歴三、七  
 讀四、三  
 歴一、三  
 地一、三  
 讀一、三  
 算三、八  
 地一、一  
 讀三、二  
 地三、七

連累 レンルキ かりあひ  
 異邦 イハク 外國のこと  
 異様 イヤウ やうすのかはつた  
 異彩 イサイ ほかちがつてなること  
 異状 イジヤウ かはつたこと  
 異日 イジツ 1.のちの日  
 2.あとで  
 異口同音 イクドウオン みんながおなじことをいふこと  
 異議 イギ はんたいのろん  
 異同 イドウ かり

歴三、六  
 讀女二、四  
 讀女二、三  
 讀三、七  
 歴六、九  
 地三、六

異境 イキヤウ 生れた土地と遠く離れた場所  
 異域 イキキ よそ國  
 野卑 ヤヒ いやしいこと  
 野生 ヤセイ 1.人の飼はざるもの  
 2.野にひとりではえた  
 野戰砲 ヤセンハウ 大砲の一種(持ちあ  
 るきの出来る大砲)  
 野末の露 ノズエツユ 野の草の上に  
 野蠻の域 ヤバンキキ ひらけぬもの  
 のさかひ  
 野心 ヤシン みちでないのぞみ  
 動作 ドウサク 2.手足をうごかすこと  
 2.はたらき

讀一、四  
 讀一、四  
 讀一、五  
 讀女二、二  
 歴女二、二  
 地三、七  
 歴三、三  
 讀三、六

動力 ドウリョク はたらくちから  
 動物 ドウブツ いきもの  
 動搖 ドウエウ うごきゆるぐこと  
 動脈 ドウミヤク よい血のながれるくだ  
 動靜 ドウセイ 様子  
 參謀部附 サンボウブツキ 參謀部の方のお附のこと  
 參考 サンカウ 1.かんがへあはせること  
 2.考へのたすけ  
 參拜 サンバイ おまわり  
 參加 サンカ 加はること  
 十一畫

地三、二  
 地二、一  
 歴三、四  
 讀二、三  
 讀四、一  
 歴一、三  
 讀一、八

參内 サンダイ こしよにまゐること  
 參政 サンセイ まつりごとにあづがる  
 參議 サンギ とよむ  
 參酌 サンシヤク 手加減すること  
 參畫 サンクワク 共に相談すること  
 清少納言 セイセウナゴン とよむ  
 清廷 セイテイ 清の朝廷  
 清廉 セイレン さつぱりして居ること  
 清潔 セイケツ からだやきもの  
 のきれいなこと

地三、九  
 歴二、一八  
 讀四、四  
 讀四、七  
 歴一、三  
 讀四、三  
 讀四、三〇  
 修四、九

清衡 キヨウヘイ とよむ

清澄 セイテイ きれいにすむこと

假借 カシヤク おほめにみること

假設 カセツ かりにつくること

假初 カソツ かりにも

假初 カソツ 一時のまにあはせ

假に カリ とよむ

假定 カテイ かりにさだめる

通法 ツウハフ 複名数を單名数にする

歴一、二五

歴二、八

讀女一、八

讀三、一

一、二

讀三、二五

算二、三

通常 ツウジョウ あたりまへ

通則 ツウソク 普通のきまり

通行人 ツウカウニン とほりある人

通俗文學 ツウソクブンガク やさしいことをやさしくかいた

通過 ツウワ とほりこす

真相 シンサウ まことのありさま

真清水 マシメツ とよむ

真價 シンカ ほんとのあたり

真意 シンイ まことのこころ

算一、九

讀四、三

修三、二

歴三、一三

歴二、一七

讀三、二九

讀女一、二

歴三、一九

歴二、一九

眞言宗 シンゴンシウ とよむ

眞空 シンクウ 空氣のなきところ

基 モト 1.もととなること  
2.はじめ

基礎 キソ もとものこと

基本單位 キホンタニ とよむ  
グラム、メートルなどの單位

基氏 モトウヂ とよむ

基本 キホン もとめ

盛況 セイキヤウ さかんありさま

盛大 セイダイ さかんに大きい

十一畫

歴一、二〇

修三、一

讀四、二六

算一、二六

歴三、二

歴二、一八

地二、三

盛時 セイジ さかんなとき

盛衰 セイスハ さかえおとろへ

盛夏 セイカ 夏のまなか

接待 セツタイ もてなす

接戦 セツセン ちかくよつてたたかふこと

接觸 セツショク 1.互に知りあふこと  
2.互に寄りあふこと

接吻 セツブン 西洋の禮の一つ

接續市街 セツゾクシガイ つづいたまち

部内 ブナイ ぶのうち

歴三、一

地二、二〇

地一、一

讀女一、九

讀四、二六

地一、三

歴三、一八

**部將** ブシヤウ 一部の大將

**部下** ブカ てした

**部落** ブラク 人のむれ

**部分** ブブン とよむ

**專斷** センダン かつてにきめること

**專恣** センジ わがまま

**專制國** センセイコク 天子さまがおかつてに何事もおきめなざるくに

**專門學校** センモンガクカウ 専門のことをなすふる學校

**虚禮** キョレイ うはべのれい

歴一、二九  
歴二、二  
地一、一  
地一、一  
歴一、二五  
歴一、八  
地一、一  
地三、二〇  
讀女一、八

**虚名** キョノイ 1. うはべの名  
2. 名ばかり

**虚飾** キョシヨク うはべのかざり

**虚榮** キョエイ 分にすぎたるさかえ

**虚言** キョゲン いつはりのことば

**商人** シヤウニン あきんど

**商利** シヤウリ あきなひのりえき

**商ふ** アキナ とよむ

**商店** シヤウテン みせ

**商賣** シヤウバイ とよむ

歴三、三  
修四、二〇  
讀女一、八  
修三、二五  
歴三、一  
歴三、一  
讀女一、二四  
地一、一  
讀女一、二五

**粗し** アラ とよむ

**粗略** ソリヤク 粗末で簡略なこと

**粗朶** ソダ 木の枝など海岸に立てたもの

**粗服敝履** ソフクヘイリ 粗末な衣服に破れた草履

**粗忠** ソアク 1. そまつのもの  
2. わるいもの

**粗暴** ソバウ らんぼう

**乾酪** カンラク ほしぢち

**乾枯せる** カンコ かれた

**乾物屋** カンブツヤ とよむ

理一、一  
讀四、五  
讀四、二九  
讀四、三  
修三、二五  
讀三、六  
地一、三  
讀女一、二四  
讀女一、二四

**乾燥期** カンサウキ あめのふらぬとき

**乾坤** ケンコン 天地

**探偵** タンテイ ひそかにさぐること

**探検** タンケン ひとのまだしらないところをさがししらべること

**控訴院** コウソウイン 地方裁判所の上のさいばん所

**探題** タンダイ とよむ

**探索** タンサク さがしとむる

**現象** ゲンシヤウ 1. あらばれたるかたち  
2. ありさま

**現出** ゲンシュツ だすこと

地三、五  
地三、九  
歴三、二六  
地三、九  
歴一、二五  
歴一、二五  
地三、五  
地三、五  
歴三、一



現今 グンコン ただいま 地一、三  
 現狀 グンジャウ げんざいのありさま 歴二、二〇  
 推移 スキイ おしうつること 歴三、五  
 堆積 タイセキ うづたかくつもること 地三、三  
 推薦狀 スネセンジャウ 人をおしす 讀三、三  
 推古天皇 スキコ テンワウ 歴一、五  
 執權 シツケン とよむ 歴一、二五  
 執筆 シツビツ ふでをとること 讀女一、七  
 執る ト とよむ 讀女一、五

執拗 シツテウ かたいぢ  
 得意 トクイ ものしりがほに 讀女一、二九  
 得道者 トクダウシヤ 道をさとつたもの 讀三、二九  
 得分 トクブン とくをしたぶん 算一、七  
 得意先 トクイサキ とよむ 讀女一、三五  
 寄附 キフ とよむ 讀女一、二八  
 寄生 キセイ 他の生物から養分とつて生活するもの 讀一、二六  
 寄稿 キカウ 草稿をよせること 地三、六  
 寄生植物 キセイシヨクブツ 動物、植物などにけえて、其養分をすひとる植物

採掘 サイクツ ほりとること 理一、三〇  
 採取 サイシユ とること 地一、二  
 採用 サイヨウ もちふること 歴一、二八  
 造作もない ゾウサ わけもない 讀三、二四  
 造船技師 ゾウセンギシ 船を造ること 讀一、三  
 造兵 ゾウヘイ 兵器をつくること 地三、二  
 造營 ゾウエイ つくる 歴一、二八  
 常磐 ツヤウバン 常陸、磐城 地三、三  
 常陸 ヒメチ とよむ 地三、三

常人 ツヤウジン なみびと 讀女一、一  
 常磐木 トキハギ 冬も葉のおちぬ木 讀三、二  
 常軌 ツヤウキ 1. 定まりたる軌道 2. のり 3. 普通のきまり 讀三、六  
 脱刀 ダツトウ 刀をとつてしまふこと 歴一、二八  
 脱走 ダツソウ にげること 歴一、二七  
 脱却 ダツケツク すつること 讀三、二九  
 脱出 ダツシュツ ぬけてる 讀三、八  
 敏活 ビンクワツ はしつこと 讀女一、六  
 敏捷 ビンセツ すばやい

**規律** キリ 1. さまざま 2. きまり

**規模** キボ のりかた

**規則** キソク きまり

**排出** ハイシュツ ばきだす

**排日思想** ハイニチシ 日本人をしりぞけるかんがへ

**排斥** ハイセキ おししりぞける

**偶然** クワゼン 1. たまたま 2. おもひがけなく 3. ふとできたもの

**偶數** クウスウ 二でわれるかず

**彫像** テウザウ 彫刻した像

讀女二、二  
 歴三、九  
 歴一、七  
 理二、四  
 歴三、九  
 歴二、〇  
 歴三、六  
 算二、三  
 讀三、三

**彫刻** テウコク ほりもの

**晦日** ミツカ とよむ

**晦** ツヨメリ 三十日のこと

**幽冥** クワイメイ くらきこと

**副島種臣** ソヘシマタネオミ とよむ

**副直勤務** フクチヨクキム とよむ

**副使** フクシ 正使についてゆくつかひ

**情態** フヤウタイ ありさま

**情慾** ジヤウヨク こころのぞみ

地二、三  
 歴三、八  
 讀女一、一  
 歴三、一  
 讀三、三  
 讀三、二

**情況** フヤウキヤウ ありさま

**淨土宗** ジヤウドシユウ とよむ

**淨瑠璃** ジヤウルリ とよむ

**淨書** ジヤウシヨ 清書に同じ

**設け** マウ とよむ

**設立** セツリツ まうけたてること

**設備** セツビ 1. したく 2. そなへ

**爽快** サウクワイ さわやかなること

**爽** サワヤカ さつぱりしたこと

十一畫

修四、三  
 歴一、六  
 歴三、三  
 修三、九  
 歴一、三  
 修四、五  
 讀女一、九  
 讀女二、五

**細菌** サイキン 小さなきのこ

**細大** サイダイ 小さな事大きな事

**細川** ホソカハ とよむ

**處世上** シヤウセ 世わたりの上

**處置** シヨチ とりはからひ

**處理** シヨリ しようんすること

**猛雨** マウウ ばげしくふる雨

**猛惡** マウアク たげくて人に害を加へること

**庶務** シヨム いろ／＼のようじ

讀女一、三  
 讀二、三  
 歴三、一  
 讀三、六  
 歴三、六  
 歴三、七  
 讀一、一  
 地二、

釣合す ツリアハ とよむ  
 釣鐘 ツリガネ とよむ  
 郵税 イウゼイ いうびんぜい  
 郵便部 イウデンブ とよむ  
 郵便 イウビン とよむ  
 船渠 フナク ふなつきば  
 船舶 センバク 小さいふね  
 大きいふね  
 船上山 フナカミヤマ とよむ  
 符號 フガウ しるし  
 十一畫

算三、六  
 算三、六  
 算一、三  
 地一、一  
 地二、一  
 地二、三  
 地二、一  
 地一、一  
 歴一、七  
 讀女二、八

符牒 フテツ しるし  
 弱肉強食 ジャクニクキヤウシヨク 弱いものをい  
 のが勝つこと  
 弱冠 ジャククワン 年の若いこと  
 習慣 シヤクワン 1. ならはし  
 2. くせ  
 崇敬 シウケイ あがめうやまふ  
 崇佛 シウフツ ほとけをあがむること  
 貴賤 キケン 位のよい人  
 位のひくい人  
 貴下 キカ あなた  
 猜忌 サイキ 人をうたがひ  
 それむこと  
 讀四、二  
 讀四、二  
 讀四、二  
 修三、七  
 歴一、三  
 歴一、八  
 修四、八  
 讀女一、一  
 歴一、五

庶政 シヨセイ いろいろな  
 まつりごと  
 庶民 シヨミン 平民  
 終點 シュウテン 一番終りのところ  
 終局 シュウキョク をほり  
 終生 シュウセイ 1. しぬまで  
 2. 一しやう  
 裁縫 サイホウ たらぬひ  
 裁決 サイケツ さばき  
 裁ち ダイ ほうちやうでたちきる  
 密約 ミツヤク 内々の約束

歴一、一  
 歴三、六  
 讀四、八  
 讀三、三  
 讀女二、三  
 歴一、四  
 歴一、六  
 讀女二、六  
 讀一、八

密林 ミツリン こみあつたはやし  
 密雲 ミツウン こきくも  
 混合 コンガフ まぜること  
 混亂 コンラン みだれ  
 混淆 コンカウ まじつて區別  
 のつかぬこと  
 祭典 サイテン おまつり  
 祭祀 サイシ まつること  
 祭儀 サイギ まつりのぎしき  
 釣合ひ ツリア とよむ  
 地三、六  
 讀三、二  
 算三、三  
 地一、三  
 讀三、一〇  
 歴一、二  
 讀女二、元  
 理一、六

猜疑 サイイ うだがふこと  
 眷顧 ケンコ めをかけること  
 眷屬 ケンゾク 家族  
 崩御 ホウゴ 天子さまがおか  
 くれになること  
 崩す ホウ おかくれになること  
 勘定 カンテイ とよむ  
 勘當 カンドウ いましめのため  
 におひ出すこと  
 區別 クベツ 1. わかち  
 2. へだて  
 逗留 トウリウ とどまること

歴一、三  
 歴一、七  
 算一、五  
 讀一、六  
 地一、九

移住民 イヂユウミン 他から移り住  
 んできた人民  
 移殖 イシヨク うつりふえること  
 強烈 キヤウレツ つくはげしい  
 強國 キヤウコク つよいくに  
 累進 ルイジン しだいにすすむ  
 累々 ルル かさなり合ふこと  
 斬殺 ザンサツ きりこるす  
 嶄新 ザンシン 考のあたらしきこと  
 眼險 ガンケン まぶた

讀一、二  
 地一、六  
 讀女一、四  
 地一、八  
 歴一、九  
 讀一、五

眼眩 ガンケン めがくらむこと  
 責 セキ せきにん  
 責任 セキニン 引き受けてせれ  
 ばならぬつとめ  
 掠め カス とよむ  
 めすみとること  
 掠奪 リヤクダツ うばいとる  
 都鳥 ミヤコドリ 1. 「かも」ともいふ  
 2. かもめの一種ともいふ  
 都路 ミヤコヂ 都へ行く道  
 健康 ケンカウ からだのじやうぶなこと  
 健脚 ケンキヤク 足の丈夫なこと

十一畫

歴一、二  
 讀女一、九  
 修一、二  
 歴一、二  
 讀女一、二  
 讀一、二  
 修一、九  
 讀一、三

紫式部 ムラサキシキブ とよむ  
 紫宸殿 シシンテン とよむ  
 牽制 ケンセイ ひきつける  
 牽牛花 アサガホ 草の名  
 寂寞 セキバク さびしきこと  
 寂滅 ジャクメツ 死ぬこと  
 陸軍部 リクグンブ とよむ  
 陸風 リクフウ なかからふくかぜ  
 陰險 インケン はらのなかのわるいこと

歴一、三  
 歴一、八  
 地一、一  
 地一、五

陰雨 ながあめ 讀三、二  
 貨幣 おかれ、金貨、銅貨、白銅貨、銀貨の類 歴三、一七  
 湯藥 温泉やくすり 讀女二、七  
 湯葉 食べものの名 讀女二、四  
 宿望 かれてののぞみ 歴三、一九  
 宿老 老中、家老、年寄の役などのこと 讀三、二  
 蛇紋石 とよむ 理一、二七  
 蛇足 無用のもの 讀四、一  
 偵察 こつそりやうすなさぐること 讀四、一

堅固 1. かたいこと 2. ぢやうぶなこと 地二、九  
 組織 くみたて 歴三、一  
 域内 くぎりのうち 地二、一  
 將校 少尉以上大將までの軍人 讀一、一  
 魚介 さかな 讀一、二六  
 率先 さきだち 讀三、二七  
 意見 かんがへ 讀女二、八  
 莊子 支那の有名な本 讀一、七  
 條件 とよむ 歴三、九

萎靡 衰へてしまふこと 讀四、三  
 逐次 だんだん 讀一、八  
 鹵簿 天子さまの御行列 讀一、八  
 販賣 うりさばき 算三、五  
 敗死 やぶれてしぬこと 歴三、五  
 堂塔伽藍 お寺のたてもの 讀四、二  
 悉皆 のこらず 算三、六  
 娛樂 たのしみ 理一、二  
 奢侈宴樂 をこりたのしむこと 讀四、三

陥落 おちくぼみ 地三、三  
 逝く 死ぬこと 讀女二、七  
 唇氣樓 海上などに當つて船がさかさまに見えるもの 讀四、三  
 頒布 廣くわけてまわすこと 讀四、三  
 研究 みがききはめること 地一、三  
 偏し かたよる 地一、三  
 深淺 ふかいあさい 地二、六  
 蚯蚓 とよむ 理一、一  
 唯一 ただひとつ 歴三、一八

**萩生徂徠** アキハツノライ とよむ  
**貫通式** クワンツウシキ とよむ  
**莊嚴** サウゴン いかめしい  
**麾下** キカ てした  
**掩襲** エンシヤウ おそふ  
**距離** キョリ へだたり  
**梢** コズエ 木のえだのさき  
**略取** リヤクシユ うばひとること  
**軟骨** ナンコツ やばらかき骨  
 十一畫

歴二、三  
 讀女二、二  
 讀三、三  
 讀三、五  
 讀三、八  
 算一、一〇  
 讀女二、二〇  
 歴三、五

**軟風** ナンフウ やばらかいかぜ  
**慘害** サンガイ 非常な害をなすこと  
**訥** トツ 1. はなしのまづいこと  
 2. ことがつかへること  
**剝製** ハクセイ 鳥獸の標本をつくること  
**羞恥** シウチ はづること  
**整頓** セイトン キチンととのへる  
**停車場** ステーション ていしやば  
**救助** キウジユ たすける  
**笙** シヤウ ふえの名  
 讀女二、二  
 算三、七

**理想** リサウ 1. めあて  
 2. これで充分と思ふ  
**裂罅** レツカ ひびわれ  
**淡水湖** タンスイコ まみづのみづうみ  
**挽回** ペンクワイ 1. もとのやうにな  
 2. とりもどす  
**患者** クワンジヤ やまひにかかつたもの  
**訪問** ハウモン 人の家をたづねること  
**鹿兒島灣** カゴシマワン とよむ  
**巢鷄** サウケイ とよむ  
**畢生** ヒツセイ いのちのかぎり

修四、一八  
 地三、三  
 地三、三  
 地二、三  
 讀女二、三  
 歴三、七  
 讀女二、二  
 讀三、八

**側用人** ソバヨウニン とよむ  
**疎遠** ソエン うすらぐ  
**問罪の師** モンザイノシ つみをただすために  
 さしむけたへいたいに  
**冤** エン むじつのつみ  
**梵刹** ボウサツ 佛寺  
**跋扈** バツコ はびこること  
**速度** ソクド はやさ  
**菜種** ナダネ とよむ  
**麥粉** ムギコ とよむ  
 歴三、一四  
 歴二、一八  
 歴三、一九  
 歴三、一七  
 讀四、一六  
 歴二、三  
 地三、五  
 地三、二  
 地三、二

陶晴賢 スハルカダ とよむ  
 桶挾間 ヲケハザマ とむよ  
 陵夷 リヨウイ 衰ふること  
 梅雨 バイウ つゆ  
 婦道 フダウ なんなのみち  
 控へ ヒカ とよむ  
 甜菜 テンサイ さたうだいこん  
 華麗 クワレイ はなやか  
 婚嫁 コンカ とつぐこと

歴三、五  
 歴三、五  
 讀四、二六  
 地三、五  
 讀女二、八  
 地二、三  
 地二、三  
 讀女二、三

笠置山 カサギノヤマ とよむ  
 蝸蜒 ガチ 虫の名  
 莞爾 クワンニョ につこりするこ  
 梳櫛 スキグシ かみの毛をすくもの  
 振盪 シンダウ ふりうごかす  
 梟首 ケウシュ わるもののかしら  
 啄木鳥 キツツキ とよむ  
 望遠鏡 バウエンキヤウ とほめがね  
 欲望 ヨクバウ ほしがること

歴二、一七

埠頭 フトウ はとば  
 奢侈 シヤシ おごり  
 研鑽 ケンサン 研究に同じ  
 蛆 ウシ とよむ  
 毫末 カウマツ すこし  
 畦 ウネ 田畑のうね  
 淺見 センケン あさい意見  
 唸る ウナ うめく  
 許嫁 イヒナツケ 父母のゆるした夫婦約束

十一畫

梧桐 アヲギ 木の名  
 荷擔 カタン 力をそふること  
 莫大小 ノリヤス 織物の名  
 貶謫 ヘンダク 身分を下げて遠くにやること  
 逍遙 セウエウ ぶら／＼とあるること  
 啓白 ケイハク つつしんで申し上ぐ  
 豺狼 サイラウ 2.1.やまいぬとおほかみ  
 2.1.いやがられること  
 荼毘 ダビ 火葬にすること  
 悽愴 セイサウ いたましきこと

梔子 クチナシ 木の名

脛骨 クイコツ すねのほね

悠長 イウチャウ きなが

掃除 サウジ とよむ

帷子 カマビラ とよむ

逝去 セイキヨ しぬこと

旌旗 セイキ はた

跌座 アケラ 足を前でくんですはること

訣別 クツベツ わかれること

箒 シガラミ 水の流れをささふるもの

脚脛 キヤハン とよむ

排列 ヘイレツ ならぶる

須臾 シユユ しばらく

措置 ソチ 1. やりかた  
2. とりさばき

袂紗 フクサ とよむ

彗星 スヰセイ はうきぼし

斜子 ナナコ 織物の名

犁 カラスキ 農夫の用ふる道具

崖 ガケ とよむ

十二畫

無益 ムエキ 1. つまらない  
2. やくにたふない

無線電信 ムセンデンシ とよむ

無念 ムネン 残念と同じ

無學文盲 ムガクモンモウ 學問の少しもない人

無道の行 ムダウノコト みちでないおこなひ

無二 ムニ 二つとない

十二畫

修三、一

地二、三

讀四、一五

讀一、一八

歴一、七

讀一、三

無盡藏 ムジンザウ つきはてぬこと

無花果 イチジク 木の名

無雙 ムサウ 二つとなきこと

無焰炭 ムエンタン ほのほがでない石炭

無比 ムヒ ならびなき

無頼の徒 ムライノト 1. しごともしせずにおらぶらしてなるもの  
2. ごろつき

無上 ムシャウ このうへなき

無禮 ムレイ しつれいなこと

無格社 ムカクシヤ とよむ

歴三、七

理一、三

地一、三

歴一、三

讀女一、二九

修三、一七

地二、一



開祖 カイソ 新たにひらき  
 開墾 カイケン 土地をひらく  
 開港 カイカウ みなとをひらくこと  
 開院式 カイエンシキ と讀む  
 開拓 カイタク 土地をひらくこと  
 發展 ハツテン 1. のびひろまる  
 2. しんぼ  
 發疹窒扶私 ハツシンチフス とよむ  
 發疹 ハツシン プツ／＼の出来ること  
 發見 ハツケン みいだす

十二畫

發揚 ハツヤウ あぐること  
 發達 ハツタツ よくなること  
 發揮 ハツキ ひかりをばなつこと  
 發射 ハツシヤ はなつこと  
 發布 ハツプ おほやけにひろむること  
 發揮 ハツキ あらばす  
 絕壁 ゼツベキ 1. きつたつたこと  
 2. がけ  
 絶滅 ゼツメツ たえてなくなる  
 絶交 ゼツカウ まじほりをたつこと

無告 ブコウ うつたへるこ  
 とのできない  
 無聊 ブレウ てもちぶさたのこと  
 無病息災 ムビヤウシクサイ やまいもさい  
 な人もない  
 無遠慮 ブエンリョ すこしも遠慮せぬこと  
 無慈悲 ムジヒ なさけのないこと  
 無理 ムリ と讀む  
 朝命 テウメイ せいふのいひつけ  
 朝貢 テウコウ わが國にみつぎも  
 のをなまむること  
 朝廷 テウテイ せいふ

朝政 テウセウ まつりごと  
 朝風 アサナギ とよむ 朝方海邊に  
 風がなくなること  
 朝敵 テウテキ 朝廷にそむくもの  
 朝儀 テウギ 朝廷のぎしき  
 朝議 テウギ てうていのひやうぎ  
 開設 カイセツ ひらきまうくること  
 開發 カイハツ おしひらき  
 開落 カイラク 咲いたり散つ  
 たりすること  
 開關 カイベヤク ひらくこと

絶體絶命 ヒツタイゼツメイ ひじやうに、まるごと

絶倫 ゼツリン 人並すぐれたること 讀三、三

絶景 ゼツケイ この上ないよい景色 讀四、一〇

萬年青 オモト 草の名

萬頃 バンケイ 廣いこと 讀一、六

萬物 バンブツ 世の中にある すべてのももの 修四、七

萬事 バンジツ すべてのこと 修四、二

萬里長城 バンリチヤウジヤウ と讀む 地一、一

萬感 バンカン いろんが考 讀一、一

尊信 ソンシン うやまひしんずること 讀女一、三

尊容 ソンヨウ おすがた、たふときこやうす 讀女一、一

尊王 ソンワウ きみをたつとぶこと 歴三、三

尊嚴 ソンゲン たふといこと 歴三、八

尊敬 ソンケイ うやまひたつとぶ 讀女一、一

統治 トウヂ すべをさむる 地一、三

統監府 トウカンフ とよむ 歴三、二〇

統轄 トウカツ すべをさむること 歴三、二

統一 トウイツ ひとつにまとむる 歴一、二

進水式 シンスイシキ 新しく造りたる船を水に浮ぶる式

進取の勢 シンシュイキホヒ 1.すすみとるいきほひ 2.人にうちかついきほひ 歴三、五

進退 シンタイ すすんだりしりぞいたりすること 讀一、八

貴紳 キシン たふとき人やりつげな人 讀女一、一

貴人 キジン たつとい人 歴一、三

貴金屬 キキンソク たつといきんぞく 地一、三

貴賤老少 キセンラウセウ 1.たつとい人いやししい人としより 2.だれでも 歴三、八

統計 トウケイ かずをすべくくること 讀三、三〇

偉勳 キクン 大いなるいさをし 讀女一、三

偉人 キジン えらい人

偉略 キリヤク 物を考へまわすこと 讀四、二六

偉功 キコウ 大いなるてがら 讀三、二四

偉績 キセキ 大いなるいさをのあと 讀三、三

進歩 シンポ 1.すすんで行くこと 2.ひらけ行くこと 修四、一

進撃 シンゲキ すすみうつこと 歴三、八

進運 シンウン よい方に進む 地三、九

十二畫

雲雀 ヒバ 鳥の名

雲泥 ウンデ 1.くもとどろ  
2.たいそうながひ

雲霧 ウンム くもきり

雲母 キアラ とよむ

雲霞 ウンカ 多勢のこと

割據 カクキョ わかれてたてこもること

割烹 カクバウ 料理

割譲 カクツヤウ さきゆづること

割目 ワレメ とよむ

地三、五

理一、七

讀一、九

歴三、四

修三、四

歴三、三〇

地三、三

結晶 ケツシヤウ きまつた形にかたまること

結構 ケツカウ くみたて

結びし ムス と讀む

結局 ケツキョク とどのつまり

智徳 チトク ちとんと人のみち

智慮 チリョ ちしきやかんがへ

智謀 チボウ たくみなるばかりこと

智識 チシキ ちる

雄飛 ユウヒ いきほひよくとびまはること

理一、二四

歴二、三

修三、八

歴三、二

地三、七

修三、三

歴三、七

修四、一

歴三、三

單除數 ダンヂョスウ とよむ

等額 トウガク ひとしききんがく

等深線 トウシンセン とよむ

等閑 トウカン 1.かまはずに置くこと  
2.なほざり

勝利 シヨウリ 勝ち

勝算 シヨウサン 戦に勝つみこみ

勝地 シヨウチ けしきのよい土地

勝敗 シヨウハイ 勝ち負け

最多 サイダ 一ばんおほい

算一、八

算一、三

地二、四

讀一、三

地一、三

讀一、八

歴三、五

地三、八

地三、八

十二畫

雄圖 ユウト さかんなるくはだて

雄略天皇 ユウリヤクテンノウ とよむ

順當 ジュンダウ 順序よろしい

順序 ジュンジョ 物事のしだい

順次 ジュンジ だんだん

順逆ノ道理 ジュンギャクダウリ よい事とわるい事とのわけ

單騎 ダンキ 自分一人のこと

單衣 ダンイ ひとへもの

單命數 タンメイスイウ 名が一つしかないかず

讀三、八

歴一、四

讀三、三〇

修四、一五

歴三、三

歴一、二

讀一、三

算三、三

算二、三

算二、三

**最寒地** サイカンチ いちばんさむいところ 地一、一  
**最高峰** サイカウホウ 一ばんたかいみね 地三、三  
**最澄** サイチヨウ とよむ 歴二、一〇  
**最低單位** サイテイタンキ 一ばん下のたんぬ 算二、三  
**景慕** ケイボ したふこと 讀女二、七  
**景品** ケイヒン そへもの 讀女二、七  
**景氣** ケイキ ありさま 讀女二、七  
**悲痛** ヒツウ かなしいたましいこと 讀四、一四  
**悲歎** ヒタン かなしみなげく 讀女二、七

**悲觀** ヒカン かなしくみる 讀三、三  
**悲田院** ヒテンイン とよむ 歴一、八  
**象牙** ゾウガ と讀む、ぞうのきば 地二、四  
**象** ゾウ けもの 地一、一  
**晩年** バンネン 年老へたるとき 讀女二、七  
**晩春** バンシュン 春のおしまい 讀三、七  
**將來** シヤウライ のちのち 讀女二、一  
**將士** シヤウシ さむらひ 歴一、七  
**將門** マサカド とよむ 歴二、二

**復命** フクメイ かへりて其由を申し上ぐること 讀三、二七  
**復興** フクコウ すたれたのをなおすこと 歴三、四  
**復仇** フクキウ あだをかへすこと 修三、二〇  
**復讐** フクシウ かたきうち 修三、二〇  
**復讀** フクドク くりかへしよむこと 歴三、四  
**復職** フクシヨク もとの職にもどること 修三、二〇  
**寄算** ヨセザン と讀む 算二、四  
**寄泊** キハク みなとにとまること 讀女二、一  
**雅趣** ガシユ おもしろみ 歴二、一

十二畫

**雅樂** ガガク 日本の樂 讀四、三  
**渡韓** トカン てうせんにわたること 歴二、八  
**渡來** トライ 外國から海をわたつて來ること 歴二、四  
**渡航** トカウ 海をわたること 歴二、六  
**遊戯** イウキ あそび 修四、五  
**遊星** イウセイ とよむ 地二、一  
**遊牧** イウボク 居所をさだめず水草を追つて獸類をかふこと 地一、二  
**殘忍** ザンニン むごいこと 修四、三  
**殘墟** ザンキョ 城の残り跡 讀四、一九

**殘礎** ザンソ 残りあと 讀女四、一八  
**善良** ゼンリヤウ よいこと 修三、一  
**善政** ゼンセイ よいまつりごと 歴二、一四  
**善惡** ゼンアク 善はよい。惡はわるい。よしあし。 修三、八  
**猶豫** イウヨ さまじりたる期日をのばすこと  
**猶太教** ユダヤケウ 地三、一〇  
**猶太人** ユダヤジン 地三、一〇  
**創立** サウリツ 始めてたて 歴一、二六  
**創傷** サウシヤウ けがなするこゝ 讀二、三  
**創業** サウグワク しがとをばしむること 歴二、二  
**黄金色** コガネイロ やまぶきいろ 讀女二、二〇  
**黄檗宗** ワウバクシユウ さよむ 地三、一〇  
**黄河** クワウガ 支那中ほどを東流する川 地一、一  
**散布する** サンブ ちらばつてなる 地一、二  
**散點** サンテン ちらばる 地三、三  
**散髮** サンパツ 髪をみじかくすること 歴二、一八  
**寒氣** カンキ さむさ 地一、五  
**寒冷紗** カンレイシヤ 織物の名

**寒蟬** ツクツクボウシ 虫の名  
**強飯** コハメシ とよむ  
**強訴** キヤウソ むりにうつつふ 歴二、二三  
**強大** キヤウダイ つよくおほきい 歴一、一四  
**都路** ミヤコヂ みやこのみち 讀女二、二  
**都會** トクワイ みやこ 地一、一  
**都督府** トクツフ と讀む 歴二、二〇  
**奥妙** オクメウ ごく上手なてわざ 讀四、四  
**奥義** オクギ 眞髓と云ふべきおくのて 讀四、二六  
**十二畫**  
**奥羽** アウウ とよむ 地三、三  
**透射** トウシヤ すきとはつて見えること 讀四、一八  
**透明** トウメイ すきとほる 讀女二、三  
**透綾** スキヤ 織物の名  
**硝子** ガラス とよむ  
**硝酸** セツサン くすりの名  
**硝石** セウセキ と讀む 地一、六  
**筆談** ヒツタン ふででかいてはなしをすること 讀女二、一八  
**筆舌** ヒツゼツ 筆や口で云ふこと 讀四、一四

視察 シチヤウ みとどけること 歴一、二七  
 視聽 シチヤウ 耳、目 讀三、一九  
 喧囂 ケンゴウ やかましいこと  
 喧嘩 ケンクワ とよむ  
 黒海 コクカイ とよむ 地一、一  
 黒潮 コクテウ とよむ 黒流のこと 地二、四  
 答辭 ダフジ こたへのことば 讀女二、八  
 隆盛 リュウセイ さかんなること 修四、二五  
 隆昌 リュウシャウ さかんにさかえる 讀三、二三

街頭 ガイトウ まち、みちばた 讀女二、元  
 奠む ダシム とよむ 歴一、八  
 奠都 テント みやこをさだめること  
 喘息 ゼンシク いきぐるしきやまひ  
 喘ぐ アヘ いきせく  
 勞役 ラウエキ 骨の折れる仕事 讀一、三  
 勞り イダハ 心なかけること 讀女二、八  
 普及 フキヤ 世の中に廣まること 修四、二五  
 普く アマホ ゆきとどいて 地一、三

減少 ゲンセウ へること 歴二、二  
 減退 ゲンタイ へること 地二、三  
 番 ツガヒ くみあひたるもの  
 番頭 バントウ 商店の支配人  
 富商 フウシャウ かれもちのあきんど 歴三、四  
 富源 フゲン とみのもと 地二、三  
 傾向 ケイカウ うつりかはり行く有様 讀四、二六  
 傾聽 ケイチャウ 耳をかたむけてきくこと 讀四、三  
 筑豊線 チクブセン 筑前筑後。豊前豊後。をつらぬく鐵道 地二、二三

筑紫 ツクシ とよむ 地二、三  
 棗 ナツメ 木の名  
 棗椰子 ナツメヤシ とよむ 讀女二、三〇  
 敦厚 トンコウ 人情などにあつきこと 讀三、二七  
 敦賀 ツルガ とよむ 地一、一  
 森林 シンリン もりはやし 地一、三  
 森羅萬象 シンラマンシヤウ 天地の間のいろくなもの  
 湖水 コスキ みづうみ 地一、三  
 沼湖 コセウ みづうみ、ぬま 地一、五

十二畫

紫陽花 アツサイ 木の名

紫蘇 シソ 草の名

硬度 カウド かたさ

硬水 カウス井 もまれない水即ちかたき水

殖民 シヨクミン 人民を他國などにうつすこと

殖民地 シヨクミンチ とよむ人民をうつすところ

堤防 テイバウ ぞて

掌中 シヤウチュウ てのうち

掌握 シヤウアク にぎる

普通 フツウ あたりまへ

普及 フキウ ゆきわたること

間隔 カンカク へだたり

間歇温泉 カンケツオンセン 時をさだめてふきだす温泉

晴好 セイカウ はれわたつた天氣

晴着 ハレギ よそゆきのきもの

書定 クワクテイ わかちさだめること

書餅 クワクベイ 無益のこと

地一、一

歴三、三

算二、二

地一、三

讀三、三

讀女一、六

歴三、九

貯蓄 チヨチク 金をためること

貯藏 ナシガウ たくはひ

就中 セウドツク そのうちでも

就職 シウシヨク しごとにありつくこと

菌類 キンルキ きのこるぬ

菌絲 キンシ 細い糸のやうなきのこ

落馬 ラクバ 馬より落つること

落涙 ラクルイ 涙を流すこと

描畫圖 ベウケワツ とよむ

十二畫

描寫 ベウシヤ うつすこと

捏造 ネツゾウ ないことをあるやうにつくりて云ふこと

捏ね ネツ とよむ

焦土 セウド やけつちを云ふこと  
で役に立たぬ土地

焦慮 セウリヨ いろ／＼にかんがへること

貿易 ボウエキ 外國のとりひき

貿易風 ボウエキフウ 赤道地方をふく風

貿易港 ボウエキコウ 外國と貿易をするみなと

極力 キョクリヨク あくまでも

歴一、九

修三、三

理一、四

讀一、六

讀女一、六

地一、一

歴三、五

極端キョクタン とよむ 歴三、四  
 提議テイギ ぎろんをもちだすこと 歴三、元  
 提筒チカモチ 料理などを入れて 提げで行くもの  
 詐欺サキ いっぱりあざむくこと 修三、二  
 詐謀サボウ いっぱりのばかりごと 歴三、八  
 屠蘇トソ 正月の祝酒に入れるくすり  
 屠殺トサツ ほふりころす  
 稀マレに たまに 地二、五  
 稀有ケウ たくさんない 讀三、六

稍々ヤヤ 1.すこし 2.やう／＼ 地二、六  
 期限キゲン きめたこくげん 修三、二  
 犀サイ とよむ 地二、四  
 椰子樹ヤシジュ とよむ 地三、六  
 著述チヨジュツ 書物をあらはすこと 讀一、七  
 訴訟ソシヤウ うつたへ 地三、九  
 絡繹ラクエキ たくさん、あとからあとか らつらなりつゞくこと 讀四、八  
 貸與ダイヨ かしあたへる 讀女二、二  
 禽鳥キンテフ とり 讀三、二

焔ホノホ とよむ 理一、三  
 埴土ハニ はにつち 歴一、三  
 策サク はかりごと 歴一、八  
 魁サキガケ とよむ 歴三、五  
 逮捕ダイホ つかまへとらへること 讀四、三  
 湊川ミナトガハ とよむ 歴一、元  
 甥ヲイ 兄弟の子ども 歴一、二  
 砦ハフラツ とよむ 理一、三  
 温雅オンガ いやしくなくて しづかなこと 讀女二、元

筒袖ツツソデ とよむ 讀三、二六  
 葡萄ブドウ とよむ 地一、三  
 喬木ケウボク 高くのびる木 地三、六  
 測候所ソクコウジョ 温度をはかるところ 地三、五  
 菊地武時キクヂタケトキ とよむ 歴一、元  
 補助單位ホジョタン とよむ、デカ、ヘク ト、キロ、なごを上に被らせたるメートル、グラム等は補助單位なり 算一、六  
 媒介バイカイ なかだち 讀一、三  
 場合バアイ とよむ 修三、一〇

十二畫



混雜 コソゾツ いろいろまじる 讀三、一〇  
 筑前 チクゼン とよむ 歴一、一九  
 閑居 カンキョ しづかなすまひ 歴三、四  
 渴を醫す カツ のどのかわいたのなほすこと 讀女二、二〇  
 萌芽 ハウガ 芽をふくこと 讀三、六  
 散逸 サンイッ ちらばること 歴二、二三  
 衆寡敵せず シユウカワテキ むかふが大ぜいでてきしかねること 歴三、七  
 搜索 サウサク さがしもとめること 歴三、二三  
 湧出 ユウシュツ わきいづること 地三、三

葛藤 カクトウ もつれ 歴三、九  
 欽明天皇 キンメイテンノウ とよむ 歴一、五  
 溫和 オンワ 1 暑くも寒くもないこと 2 おだやか 地三、一  
 莊園 サウエン 私領の田地 歴二、二  
 軫悼 シンダウ 非常に御心配なされてその死をいたむこと 讀四、四  
 裁判所 サイバンシヨ よしあしなをさばくやくしよ 地三、九  
 植物 シヨクブツ 地面に生えるもの 地一、一  
 猩猩 シヤウシヤウ さるに似たけもの 地一、一  
 援兵 エンペイ すくひのへいたい

寓言 クワゲン つくりごと 讀三、九  
 超過 テウワウ こえること 讀三、二三  
 超え コ とよむ 地三、三  
 硫黄列島 イワウレツダフ とよむ 地三、三  
 博聞強記 ハクブンキヤウキ 1 ひろくききよくおぼえてなること 2 ものしり 歴三、五  
 握る ニギ と讀む 地一、一  
 過失 クワシツ あやまち 修三、三  
 焚付け タキツ とよむ 讀女二、二六  
 短所 ダンシヨ 1 けつてん 2 わるいところ 修四、六  
 十二畫

斯波 シハ とよむ 歴三、一  
 曾子 ソウシ 支那の聖人の名 修四、四  
 猪苗代湖 キナハシロコ とよむ 地三、三  
 會得させる エトク わからせる 讀女二、一八  
 喰違 クヒチガヒ とよむ 地三、三  
 費用 ヒヨウ かゝり 修三、一  
 貫流 クワンリウ つらぬきながれ 地一、三  
 尋問 ジンモン たづぬる 讀三、二七  
 隊商 タイシヤウ 沙漠などを行くときに商人は隊をくんであるく 地一、四

集散

あつまりはなれる

地二、五

謝恩

思を受けたことをあ  
りがたく思ふこと

修三、一四

葬儀

とむらひのぎしき

修四、八

群臣

おほくのけらい

歴一、五

鷺

とりの名

讀三、二

詔

みことば

歴一、三

舒明天皇三十四代の天子さま

歴二、七

腕白

わからずや

讀四、一八

腕力

腕の力

讀四、一八

盜賊

どろぼう

歴一、二

斑點

まだらなほし

讀三、一四

募集

つのりあつめる

地三、九

量器

ます。フラスコなど

算一、四

既約分數

もう、やくすこと  
のできぬぶんすう

算一、三

基督教

と讀む

歴二、三

棲息

すむこと

地三、一

跳行く

はれて行くこと

理一、一

蛟龍

りやう

讀三、三

愛敬

あいしうやまふこと

修三、二

登記

かきのせること

算三、三

飲料水

のみみづ

修三、三

恵まれ

と讀む

修三、四

幾許

どれほど

讀一、七

滋養物

やしなひになるもの

讀女一、三

羨望

うちやみのぞむこと

讀一、三

瑞典

とよむ

地一、三

税率

ぜいのわりあて

算一、五

十二畫

莫産

とよむ

地三、二

敢爲進取

しつかりしても  
におくれをとらぬ

歴三、二

虚名

なまへばかり

讀三、三

註釋

ときあかし

讀三、三

揚々濶歩

いさましくあるく

讀女一、二九

惑ふ

まよふこと

讀女一、三〇

湮滅

湮のやうに跡方なく  
なつてしまうこと。

讀四、四

喊聲

ときのこゑ

讀一、八

腕力

うでぢから

修三、二〇

奢修 シヤシ おごり

歴一、三

買言葉 カヒコトバ らんぼうなへんじ

讀女二、九

評定衆 ヒヤウシヤウシユウ ひやうぎしてさだめる人々

歴三、一

琢磨 タツマ たまをみがくこと

捷報 セツハツ いくさにかつたしらせ

歴一、六

琥珀 コハク 寶石

景趣 ケイシユ 景色の面白味

讀四、一〇

渴仰 カツゲイ ひじやうにのぞむ

着手 チヤクシ 1. てをつける  
2. ものごとをなほじめる

歴二、六

嫂 アニヨメ 兄の妻

惹起 シヤクキ ひきおこす

地二、三

嵐 オロシ 山より吹きおろす風

喋々 テフク おしやべり

讀女二、九

馭者 ギョシヤ べつたう

蒙古族 モツコゾ とよむ

地二、一

肅々 シユクク うやくし

備前 ビゼン と讀む

歴二、五

策略 サクリヤク はかりごと

喫煙 キツエン たばこをすふこと

插花 イメバナ 生花に同じ

逸話 イツワ 正傳をもれたる話

焙爐 ホイロ 茶などをかほかする

渺茫 ベウバウ ひろくしたこと

須臾 スユ しばらく

蛤蜊 アツリ かひの名

瑇瑁 タイマイ 龜の一種

跪座 キザ ひざまづくこと

十二畫

愕然 ガクゼン びつくり

焮衝 キンシュウ 熱のためにいたみを感じる

瘞癢 ケイレン ひきつけ

嵌金 カンキン 金の象眼

菘 スズナ 菜の一種

渾沌 コントン らんみやく

啼泣 テイキフ なくこと

喇叭 ラッパ 樂器の名

堡壘 ハウレイ とりで

棕欄 シユロ 木の名

揮毫 キガウ かくこと

棧橋 サンベン ふねにのりおりするはし

淫祀 インシ 正しくなく神をまつること

痘瘡 ハツサウ うゑばうさう

既往 キワウ 1. すぎきつた  
2. むかし

暗礁 アンセウ かくれいは

喪失 サウシツ なくすこと

喝采 カツサイ ほめはやす

凱旋 ガイセン いくさにかつてひきあげること

酢漿 カダバミ 草の名

揭示 ケイジ かがげしめす

痛痒 ツウヤウ 1. いたみとかゆみ  
2. 利害

箴 チサ 機の道具

竣工 シユンコウ できあがり

棟梁 トウリヤウ 大工のかしら

税關 ゼイクワン 貿易するとき税金をとる役所

歎話 クワンワ 親しくかたること

算一、三

愉快 ハイガイ こころもちのよきこと

筭 ダケノコ とよむ

十三畫

新鮮 シンセン あたらしくきれいなこと 讀女一、六

新奇 シンキ あたらしい 讀女一、九

新陳代謝 シンチンダイシャ 舊いものが出て新し  
いものが代り入ること 讀二、一五

新來 シンライ あらたにきたこと 歴一、六

新古今集 シンコキンシフ とよむ 歴一、一六

十三畫

新法 シンポフ あたらしいはふ 歴一、七

新羅 シラキ とよむ 歴一、三

新同胞 シンドウハ あらたにでき  
たはらから 讀三、一五

新田義貞 ニツダヨシサダ とよむ 歴一、七

新説 シンセツ あたらしいせつ 歴三、三

義滿 ヨシミツ とよむ 歴一、九

義務 ギム せればならぬこと 修四、二四

義持 ヨシモチ とよむ 歴三、一

義戦 ギセン 他人のためにするいくさ 歴一、九